薬学部
授業の内容

令和6年度（2024）

1年次生用

大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
自然科学1	☆准教授　博士（理学）	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
〃	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
政治学	准教授　修士（法学）	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
数理論理学	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
コミュニケーション入門	☆准教授　体育学修士	当麻　成人	タイマ　ナリヒト
〃	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
文学・文化	※講師　修士（言語文化学）	松岡　玄	マツオカ　ゲン
歴史学	准教授　修士（法学）	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
文化人類学	※講師　博士（文学）	中本　剛二	ナカモト　ゴウジ
倫理と社会	教授　博士（文学）	阪本　恭子	サカモト　キョウコ
自然科学2	准教授　博士（理学）	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
基礎心理学	〇技術職員　修士（健康科学）	川端　康雄	カワバタ　ヤスオ
運動と健康	准教授　体育学修士	当麻　成人	タイマ　ナリヒト
情報科学	☆教授　博士（薬学）	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士（薬学）	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
〃	専門教授　博士（薬学）	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
情報科学演習	☆教授　博士（薬学）	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士（薬学）	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	専門教授　博士（薬学）	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
アカデミックスキル	☆専門教授　博士（薬学）	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	教授　博士（薬学）	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
〃	准教授　博士（理学）	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
〃	准教授　博士（薬学）	長谷井　友尋	ハセイ　トモヒロ
〃	准教授　博士（薬学）	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ
〃	講師　博士（工学）	山沖　留美	ヤマオキ　ルミ
〃	講師　博士（薬科学）	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士（薬学）	羽田　理恵	ハダ　リエ

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
スポーツ・運動	☆准教授　体育学修士	当麻　成人	タイマ　ナリヒト
〃	※講師　学士（体育学）	宮田　真希	ミヤタ　マキ
〃	※講師　文学士教育学（体育）	橋口　雅美	ハシグチ　マサミ
〃	※講師　学士（体育学）	門川　裕美	モンカワ　ヒロミ
物理学	准教授　博士（理学）	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
物理学演習	准教授　博士（理学）	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
化学	☆専門教授　博士（薬学）	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士（薬学）	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士（薬学）	尹　康子	イン　ヤスコ
〃	准教授　博士（薬学）	箕浦　克彦	ミノウラ　カツヒコ
〃	准教授　博士（薬学）	浅野　晶子	アサノ　アキコ
〃	講師　博士（薬学）	平田　雅彦	ヒラタ　マサヒコ
〃	講師　博士（工学）	山沖　留美	ヤマオキ　ルミ
〃	講師　博士（薬学）	藤嶽　美穂代	フジタケ　ミホヨ
〃	講師　博士（薬科学）	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
化学演習	☆専門教授　博士（薬学）	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士（薬学）	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士（薬学）	尹　康子	イン　ヤスコ
〃	准教授　博士（薬学）	箕浦　克彦	ミノウラ　カツヒコ
〃	准教授　博士（薬学）	浅野　晶子	アサノ　アキコ
〃	講師　博士（薬学）	平田　雅彦	ヒラタ　マサヒコ
〃	講師　博士（工学）	山沖　留美	ヤマオキ　ルミ
〃	講師　博士（薬学）	藤嶽　美穂代	フジタケ　ミホヨ
〃	講師　博士（薬科学）	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
生物学	専門教授　博士（薬学）	坂口　実	サカグチ　ミノル
生物学演習	☆専門教授　博士（薬学）	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	准教授　博士（薬学）	宮本　勝城	ミヤモト　カツシロ
〃	准教授　博士（薬学）	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ
〃	講師　博士（薬学）	藤井　忍	フジイ　シノブ
〃	講師　博士（医学）	小池　敦資	コイケ　アツシ
数学1	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
数学演習	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
数学2	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
薬学英語1	☆准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
	※講師　修士(教育学)	岩田　聖子	イワタ　ショウコ
〃	※講師　修士(文学)	井上　径子	イノウエ　ミチコ
〃	※講師　文学修士	藤本　幸治	フジモト　コウジ
〃	※講師　修士(言語文化学)	松岡　玄	マツオカ　ゲン
薬学英語2	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	※講師　修士(言語文化学)	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　修士(文学)	井上　径子	イノウエ　ミチコ
ドイツ語1	教授　博士(文学)	阪本　恭子	サカモト　キョウコ
ドイツ語2	教授　博士(文学)	阪本　恭子	サカモト　キョウコ
中国語1	※講師　博士(現代社会)	陳　鳳	チン　ホウ
中国語2	※講師　博士(現代社会)	陳　鳳	チン　ホウ
ハングル1	※講師　修士(言語文化学)	李　銀淑	イ　ウンスク
ハングル2	※講師　修士(言語文化学)	李　銀淑	イ　ウンスク
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
海外薬学研修	☆教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
基礎薬学科目			
薬学入門	☆学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	教授　博士(薬学)	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	教授　博士(薬学)	大喜多　守	オオキタ　マモル
〃	教授　博士(薬学)	奥平　桂一郎	オクヒラ　ケイイチロウ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
物理化学1	准教授　博士(薬学)	浅野　晶子	アサノ　アキコ
分析化学1	教授　博士(薬学)	天滿　　敬	テンマ　タカシ

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
有機化学1	☆准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
有機化学2	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
生化学1	講師　博士(薬学)	藤井　　忍	フジイ　シノブ
機能形態学1	☆准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	助教　博士(薬学)	國澤　直史	クニサワ　ナオフミ
機能形態学2	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
基礎薬学導入学習	☆教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	准教授　博士(薬学)	宮本　勝城	ミヤモト　カツシロ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士(薬学)	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ
〃	講師　博士(薬学)	藤井　忍	フジイ　シノブ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
〃	助教　博士(理学)	伊藤　千紘	イトウ　チヒロ
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
〃	助教　博士(応用生命科学)	中辻　匡俊	ナカツジ　マサトシ
応用薬学科目			
生薬学	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
医療薬学科目			
多職種連携論1-医療人マインド	☆教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士(薬学)	羽田 理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
早期体験学習	☆教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	神林　祐子	カンバヤシ　ユウコ
〃	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士(薬学)	箕浦　克彦	ミノウラ　カツヒコ
〃	講師　博士(薬学)	藤嶽　美穂代	フジタケ　ミホヨ
	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
医療薬学導入学習	☆教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ
〃	講師　博士(薬学)	山口　敬子	ヤマグチ　タカコ
〃	講師　博士(医学)	柳田　寛太	ヤナギダ　カンタ

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
医療薬学導入学習	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
薬学生涯学習プログラム演習	☆専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(医学) 博士(国際公共政策学)	恩田　光子	オンダ　ミツコ
〃	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	教授　博士(薬学)	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	教授(特任)　薬学士	金　美恵子	キン　ミエコ
〃	准教授(特任)　学士(薬学)	津山　俊子	ツヤマ　トシコ
〃	講師　博士(薬学)	平田　雅彦	ヒラタ　マサヒコ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
基礎薬理学	准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
総合演習科目			
薬学連携演習1	☆教授　薬学博士	土井　光暢	ドイ　ミツノブ
〃	准教授　博士(理学)	竹本　宏輝	タケモト　ヒロキ
〃	准教授　博士(薬学)	浅野　晶子	アサノ　アキコ
薬学連携演習2	☆教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
〃	講師　博士(薬学)	藤井　忍	フジイ　シノブ
薬学連携演習3	☆教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	講師　博士(薬科学)	米山 弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
〃	助手　学士(薬学)	松田　昂樹	マツダ　コウキ
薬学連携演習4	☆准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
〃	助教　博士(薬学)	國澤　直史	クニサワ　ナオフミ

令和6年度 1年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
実習科目			
生物学実習	☆専門教授　博士（薬学）	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	准教授　博士（薬学）	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
解剖見学実習	☆教授　博士（薬学）	大喜多　守	オオキタ　マモル
〃	〇教授　博士（医学）	近藤　洋一	コンドウ　ヨウイチ
〃	〇准教授　博士（医学）	平田　あずみ	ヒラタ　アズミ
〃	〇准教授　博士（医学）	杉山　紀之	スギヤマ ノリユキ
〃	〇助教　博士（医学）	田中　義久	タナカ ヨシヒサ
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	教授　博士（薬学）	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	准教授　博士（薬科学）	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
〃	助教　博士（薬学）	國澤　直史	クニサワ　ナオフミ
〃	助教　博士(薬学)	中川　恵輔	ナカガワ　ケイスケ

令和6年度 2年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
文学の世界	※講師　博士（言語社会学）	松本　承子	マツモト　ショウコ
歴史と社会	※講師　修士（文学）	木多　悠介	キダ　ユウスケ
地球環境論	※講師　修士（人間・環境学）	河野　康治	カワノ　コウジ
政治と社会	※講師　修士（アメリカ研究）	北村　知史	キタムラ　サトシ
基礎心理学	※講師　博士(文学)	中田　友貴	ナカタ　ユウキ
法と社会	※講師　博士（法学）	謝　政德	シャ　セイトク
経済の世界	※講師　修士（政治学）	井坂　圭吾	イサカ　ケイゴ
数理論理学	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
社会分析の基礎	※講師　修士（人間・環境学）	銭廣　承平	ゼニヒロ　ショウヘイ
人間と宗教	※講師　博士（文学）	鶴　真一	ツル　シンイチ
文化人類学	※講師　博士（文学）	中本　剛二	ナカモト　ゴウジ
倫理と社会	教授　博士（文学）	阪本　恭子	サカモト　キョウコ
コーチング論	准教授　体育学修士	当麻　成人	タイマ　ナリヒト
スポーツ・運動2	准教授　体育学修士	当麻　成人	タイマ　ナリヒト
情報科学	☆※講師　博士（工学）	林　武文	ハヤシ　タケフミ
〃	※講師　博士（工学）	下川　敏雄	シモカワ　トシオ
〃	※講師　博士（医学）	土井　麻理子	ドイ　マリコ
数理統計学	准教授　博士（理学）	永田　誠	ナガタ　マコト
英語スピーキング1	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	※講師　修士(教育学)	岩田　聖子	イワタ　ショウコ
〃	※講師　B. A.	Duncan　Brotherton	ダンカン　ブラザトン
〃	※講師　修士（言語文化学）	堀　朋子	ホリ　トモコ
英語スピーキング2	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	※講師　修士(教育学)	岩田　聖子	イワタ　ショウコ
〃	※講師　B. A.	Duncan　Brotherton	ダンカン　ブラザトン
〃	※講師　修士（言語文化学）	堀　朋子	ホリ　トモコ
英語ライティング1	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
	※講師　修士（文学）	小林　拓海	コバヤシ　ミチタロウ
〃	※講師　博士（医学）	榊原　佳織	サカキバラ　カオリ
〃	※講師　修士（言語文化学）	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　修士（言語文化学）	松岡　玄	マツオカ　ゲン
英語ライティング2	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
	※講師　修士（文学）	小林　拓海	コバヤシ　タクミ
〃	※講師　博士（医学）	榊原　佳織	サカキバラ　カオリ
〃	※講師　修士（言語文化学）	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　修士（言語文化学）	松岡　玄	マツオカ　ゲン

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	○教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	○教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	○教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	○教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
医療心理学	○技術職員　修士(健康科学)	川端　康雄	カワバタ　ヤスオ
基礎薬学科目			
医工薬連環科学	☆教授　博士(薬学)	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	○教授　博士(医学)	中野　隆史	ナカノ　タカシ
〃	※講師　博士(工学)	山本　健	ヤマモト　ケン
物理化学2	☆教授　薬学博士	土井　光暢	ドイ　ミツノブ
〃	准教授　博士(薬学)	浅野　晶子	アサノ　アキコ
物理化学3	☆准教授　博士(薬学)	友尾　幸司	トモオ　コウジ
〃	准教授　博士(薬学)	尹　康子	イン　ヤスコ
分析化学2	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
生物無機化学	教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
有機化学2	☆教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
有機化学3	☆教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
有機スペクトル学演習	☆准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
有機スペクトル学演習	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
生化学2	教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
分子生物学	教授　理学博士	福永　理己郎	フクナガ　リキロウ
微生物学	☆教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	准教授　博士(薬学)	宮本　勝城	ミヤモト　カツシロ
機能形態学2	☆准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
応用薬学科目			
生薬学	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
衛生薬学1	☆教授　博士(薬学)	奥平　桂一郎	オクヒラ　ケイイチロウ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
基礎漢方薬学	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
医療薬学科目			
多職種連携論2-医療と専門職	☆教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
薬理学1	准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
薬理学2	教授　博士(薬学)	大喜多　守	オオキタ　マモル
生物薬剤学1	教授　博士(薬学)	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
薬物治療学1	☆講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	講師　博士(薬学)	山口　敬子	ヤマグチ　タカコ
薬物治療学2	☆教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
実習科目			
分析化学実習	☆教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士(薬学)	箕浦　克彦	ミノウラ　カツヒコ
〃	講師　博士(薬学)	平田　雅彦	ヒラタ　マサヒコ
〃	講師　博士(薬学)	藤嶽　美穂代	フジタケ　ミホヨ
〃	講師　博士(工学)	東　剛志	アズマ　タカシ
物理化学実習	☆准教授　博士(薬学)	友尾　幸司	トモオ　コウジ
〃	教授　薬学博士	土井　光暢	ドイ　ミツノブ
〃	准教授　博士(薬学)	尹　康子	イン　ヤスコ
〃	准教授　博士(薬学)	浅野　晶子	アサノ　アキコ
〃	講師　博士(薬学)	加藤　巧馬	カトウ　タクマ
漢方・生薬学実習	☆教授　博士(薬学)	谷口　雅彦	タニグチ　マサヒコ
〃	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助手　学士(薬学)	松田　昂樹	マツダ　コウキ
生物学実習	☆教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	准教授　博士(薬学)	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ

令和6年度 3年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
異文化言語演習1	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	准教授　修士(法学)	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
〃	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	※講師　博士(文学)	中本　剛二	ナカモト　ゴウジ
〃	※講師　修士(言語文化学)	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　M. S.	村木　美紀子	ムラキ　ミキコ
異文化言語演習2	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	准教授　修士(法学)	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
〃	准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	※講師　博士(文学)	中本　剛二	ナカモト　ゴウジ
〃	※講師　修士(言語文化学)	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　M. S.	村木　美紀子	ムラキ　ミキコ
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
基礎薬学科目			
放射化学	教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
有機化学4	☆教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	准教授　博士(薬学)	山田　剛司	ヤマダ　タケシ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	講師　博士(工学)	平田　佳之	ヒラタ　ヨシユキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
〃	助教　博士(薬学)	安田　大輔	ヤスダ　ダイスケ
免疫学	准教授　博士(薬学)	土屋　孝弘	ツチヤ　タカヒロ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
応用薬学科目			
応用分析学	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
応用放射化学	☆講師　博士(薬学)	平田　雅彦	ヒラタ　マサヒコ
〃	講師　博士(工学)	山沖　留美	ヤマオキ　ルミ
医薬品化学1	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
精密有機合成化学	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
衛生薬学2	☆教授　博士(薬学)	奥平　桂一郎	オクヒラ　ケイイチロウ
〃	准教授　博士(薬学)	佐久間　覚	サクマ　サトル
衛生薬学3	☆教授　博士(薬学)	奥平　桂一郎	オクヒラ　ケイイチロウ
〃	准教授　博士(薬学)	佐久間　覚	サクマ　サトル
〃	准教授　博士(薬学)	長谷井　友尋	ハセイ　トモヒロ
分子細胞生物学	教授　理学博士	福永　理己郎	フクナガ　リキロウ
病原微生物学	教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
物理薬剤学	☆教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	講師　博士(薬学)	内山　博雅	ウチヤマ　ヒロマサ
医療薬学科目			
多職種連携論3－医療倫理	☆専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	教授　博士(文学)	阪本　恭子	サカモト　キョウコ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
医療と法	准教授　修士(法学)	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
薬理学3	☆学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
薬理学4	教授　博士(薬学)	大喜多　守	オオキタ　マモル
生物薬剤学2	准教授　博士(薬学)	本橋　秀之	モトハシ　ヒデユキ
薬物速度論	教授　博士(薬学)	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
製剤設計学	☆教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	講師　博士(薬学)	内山　博雅	ウチヤマ　ヒロマサ
薬物治療学3	☆講師　博士(医学)	柳田　寛太	ヤナギダ　カンタ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ
薬物治療学4	☆准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
臨床化学	講師　博士(薬学)	山口　敬子	ヤマグチ　タカコ
臨床薬学概論	教授　博士(薬学)	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
医薬品情報学	☆専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
実習科目			
有機化学実習	☆教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	教授　薬学博士	宇佐美　吉英	ウサミ　ヨシヒデ
〃	准教授　博士(薬学)	和田　俊一	ワダ　シユンイチ
〃	講師　博士(薬科学)	米山　弘樹	ヨネヤマ　ヒロキ
〃	助教　博士(薬科学)	葉山　登	ハヤマ　ノボル
生物科学実習	☆教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	教授　理学博士	福永　理己郎	フクナガ　リキロウ
〃	准教授　博士(薬学)	宮本　勝城	ミヤモト　カツシロ
〃	講師　博士(薬学)	藤井　忍	フジイ　シノブ
〃	助教　博士(理学)	伊藤　千紘	イトウ　チヒロ
〃	助教　博士(応用生命科学)	中辻　匡俊	ナカツジ　マサトシ
衛生薬学・放射化学実習	☆教授　博士(薬学)	奥平　桂一郎	オクヒラ　ケイイチロウ
〃	教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
〃	准教授　博士(薬学)	佐久間　覚	サクマ　サトル
〃	准教授　博士(薬学)	長谷井　友尋	ハセイ　トモヒロ
〃	講師　博士(工学)	山沖　留美	ヤマオキ　ルミ
〃	講師　博士(医学)	小池　敦資	コイケ　アツシ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
薬理学実習	☆教授　博士(薬学)	大喜多　守	オオキタ　マモル
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	准教授　博士(医学)	田和　正志	タワ　マサシ
〃	助教　博士(薬学)	國澤　直史	クニサワ　ナオフミ
〃	助教　博士(薬学)	中川　恵輔	ナカガワ　ケイスケ
薬剤学実習	☆教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	教授　博士(薬学)	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　博士(薬学)	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
〃	准教授　博士(薬学)	本橋　秀之	モトハシ　ヒデユキ
〃	講師　博士(薬学)	内山　博雅	ウチヤマ　ヒロマサ
〃	講師　博士(薬学)	竹林　裕美子	タケバヤシ　ユミコ

令和6年度 4年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士(英語学)	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士(文学)	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
コミュニケーション	教授　博士(薬学)	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
キャリアデザイン概論	教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
応用薬学科目			
薬学英語	☆准教授　Ph. D.	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	※講師　博士(医学)	榊原　佳織	サカキバラ　カオリ
〃	※講師　修士(言語文化学)	堀　朋子	ホリ　トモコ
〃	※講師　M. S.	村木　美紀子	ムラキ　ミキコ
生物物理化学	准教授　博士(薬学)	友尾　幸司	トモオ　コウジ
医薬品化学2	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
先端分子医科学	☆教授　理学博士	福永　理己郎	フクナガ　リキロウ
〃	教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	講師　博士(工学)	東　剛志	アズマ　タカシ
医療統計学	准教授　博士(薬学)	細畑　圭子	ホソハタ　ケイコ
医療薬学科目			
医療政策論	准教授　修士(法学)	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
薬物治療学5	☆教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ
〃	講師　博士(薬学)	山口　敬子	ヤマグチ　タカコ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
アドバンスト薬物治療学	☆教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
〃	教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	准教授　博士(薬学)	幸田　祐佳	コウダ　ユカ
〃	講師　博士(薬学)	山口　敬子	ヤマグチ　タカコ
〃	講師　博士(医学)	柳田　寛太	ヤナギダ　カンタ
〃	講師　博士(薬科学)	田中　早織	タナカ　サオリ
臨床感染症学	☆教授　博士(医学)	駒野　淳	コマノ　アツシ
〃	診療准教授　博士(医学)	朝井　章	アサイ　アキラ
〃	講師　博士(医学)	小川　拓	オガワ　タク
医薬品安全性学	※講師　博士(薬学)	河合　悦子	カワイ　ヨシコ
個別化医療	☆教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	准教授　博士(薬学)	細畑　圭子	ホソハタ　ケイコ
コミュニティファーマシー	教授 博士(医学) 博士(国際公共政策学)	恩田　光子	オンダ　ミツコ
臨床薬物動態学	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
臨床導入学習1	☆教授　博士(薬学)	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
〃	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授 博士(医学) 博士(国際公共政策学)	恩田　光子	オンダ　ミツコ
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	教授(特任)　薬学士	金　美恵子	キン　ミエコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	神林　祐子	カンバヤシ　ユウコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	和田　恭一	ワダ　キョウイチ
〃	教授(特任)　学士(薬学)	古川　哲也	フルカワ　テツヤ
〃	准教授　博士(薬学)	細畑　圭子	ホソハタ　ケイコ
〃	准教授(特任)　学士(薬学)	津山　俊子	ツヤマ　トシコ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士(薬学)	庄司　雅紀	ショウジ　マサキ
〃	助手　学士(薬学)	松田　昂樹	マツダ　コウキ
〃	助手　学士(薬学)	松村　光紗	マツムラ　ミサ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
臨床導入学習2	☆教授（特任）　薬学士	金　美恵子	キン　ミエコ
〃	教授　博士（薬学）	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
〃	教授　博士（薬学）	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授 博士（医学） 博士（国際公共政策学）	恩田　光子	オンダ　ミツコ
〃	教授　博士（医学）	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	専門教授　博士（薬学）	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	教授（特任）　博士（薬学）	神林　祐子	カンバヤシ　ユウコ
〃	教授（特任）　博士（薬学）	和田　恭一	ワダ　キョウイチ
〃	教授（特任）　学士（薬学）	古川　哲也	フルカワ　テツヤ
〃	准教授　博士（薬学）	細畑　圭子	ホソハタ　ケイコ
〃	准教授(特任)　学士(薬学)	津山　俊子	ツヤマ　トシコ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士（薬学）	庄司　雅紀	ショウジ　マサキ
〃	助手　学士(薬学)	松村　光紗	マツムラ　ミサ
薬事関連法・制度	教授　博士（医学） 博士（国際公共政策学）	恩田　光子	オンダ　ミツコ
社会保障論	准教授　修士（法学）	城下　賢一	ジョウシタ　ケンイチ
薬学基礎演習	専門教授　博士（薬学）	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
実習科目			
特別演習・実習			

令和6年度 5年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士（英語学）	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士（文学）	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士（英語学）	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士（文学）	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
医療薬学科目			
統合薬学演習	☆教授　博士（医学）	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　薬学博士	土井　光暢	ドイ　ミツノブ
〃	教授　博士（薬学）	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	教授　博士（薬学）	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	教授　博士（薬学）	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　博士（薬学）	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
〃	教授　博士（薬学）	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　博士（農学）	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	教授　博士（薬学）	天満　敬	テンマ　タカシ
〃	教授　博士（薬学）	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
実習科目			
病院実務実習	☆教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
〃	教授(特任)　薬学士	金　美恵子	キン　ミエコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	神林　祐子	カンバヤシ　ユウコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	和田　恭一	ワダ　キョウイチ
〃	教授(特任)　学士(薬学)	古川　哲也	フルカワ　テツヤ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	准教授　PhD	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	准教授(特任)　学士(薬学)	津山　俊子	ツヤマ　トシコ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
薬局実務実習	☆教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　博士(医学)	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　博士(薬学)	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	教授　博士(薬学)	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士(薬学)	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	専門教授　博士(薬学)	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	専門教授　博士(薬学)	坂口　実	サカグチ　ミノル
	教授(特任)　薬学士	金　美恵子	キン　ミエコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	神林　祐子	カンバヤシ　ユウコ
〃	教授(特任)　博士(薬学)	和田　恭一	ワダ　キョウイチ
〃	教授(特任)　学士(薬学)	古川　哲也	フルカワ　テツヤ
〃	准教授　博士(薬科学)	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	准教授　PhD	天ヶ瀬　葉子	アマガセ　ヨウコ
〃	准教授(特任)　学士(薬学)	津山　俊子	ツヤマ　トシコ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
特別演習・実習			

令和6年度 6年次開講科目担当教員一覧

（※院は非常勤を示す）
（☆印は担当代表者を示す）
（〇印は兼担教員を示す）

科目名	学位	令和6年度担当者	教員名　カナ表記
基礎教育科目			
インタラクティブ・イングリッシュⅠ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士（英語学）	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士（文学）	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
インタラクティブ・イングリッシュⅡ	☆教授　言語学博士	スミス　朋子	スミス　トモコ
〃	〇教授　修士（英語学）	藤枝　美穂	フジエダ　ミホ
〃	〇教授　博士（文学）	小林　道太郎	コバヤシ　ミチタロウ
医療薬学科目			
医薬看融合ゼミ	☆教授　博士（医学）	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　博士（薬学）	加藤　隆児	カトウ　リュウジ
〃	専門教授　博士（薬学）	佐藤　卓史	サトウ　タカジ
〃	専門教授　博士（薬学）	角山　香織	カドヤマ　カオリ
〃	准教授　博士（薬科学）	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	講師　博士（医学）	小池　敦資	コイケ　アツシ
〃	講師　博士（薬科学）	田中　早織	タナカ　サオリ
〃	助教　学士(薬学)	羽田　理恵	ハダ　リエ
〃	助教　博士(薬科学)	田中　智	タナカ　サトシ
薬剤経済学	教授　博士(医学)／博士(国際公共政策)	恩田　光子	オンダ　ミツコ
漢方医学概論	☆教授　博士（薬学）	芝野　真喜雄	シバノ　マキオ
〃	※講師　博士（医学）	下村　裕章	シモムラ　ヒロアキ
創薬薬理学	☆教授　博士（薬学）	大喜多　守	オオキタ　マモル
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	准教授　博士（薬科学）	清水　佐紀	シミズ　サキ
〃	准教授　博士（医学）	田和　正志	タワ　マサシ
統合薬学演習	☆教授　博士（医学）	矢野　良一	ヤノ　リョウイチ
〃	教授　医学博士	中村　敏明	ナカムラ　トシアキ
〃	教授　薬学博士	土井　光暢	ドイ　ミツノブ
〃	教授　博士(薬学)	浦田　秀仁	ウラタ　ヒデヒト
〃	学部長／教授　医学博士	大野　行弘	オオノ　ユキヒロ
〃	教授　博士(薬学)	戸塚　裕一	トヅカ　ユウイチ
〃	教授　博士(薬学)	永井　純也	ナガイ　ジュンヤ
〃	教授　博士(薬学)	岩永　一範	イワナガ　カズノリ
〃	教授　博士(薬学)	中村　任	ナカムラ　ツトム
〃	教授　博士(農学)	藤森　功	フジモリ　コウ
〃	教授　博士(薬学)	天滿　敬	テンマ　タカシ
〃	教授　博士(薬学)	平野　智也	ヒラノ　トモヤ
〃	教授　医学博士	福森　亮雄	フクモリ　アキオ
薬学総合演習	教授　博士（薬学）	宮崎　誠	ミヤザキ　マコト
実習科目			
特別演習・実習			

令和6年度　専任教員オフィスアワー一覧（50音順）

教員氏名	場所	曜日	時間帯
浅野 晶子	分子構造化学研究室（B棟4階）	月曜日～金曜日	17:00～19:00
東 剛志	衛生化学研究室（B棟2階）	金曜日	17:00～18:00
天ヶ瀬 葉子	111研究室（B棟1階）	月曜日	11:30～12:30
伊藤 千紘	生化学研究室（B棟5階）	月曜日・金曜日	12:10～13:00
岩永 一範	臨床薬学教育研究センター（B棟2階）	月曜日・金曜日	12:00～13:00
尹 康子	薬品物理化学研究室（B棟4階：R424）	月曜日～水曜日	17:00～18:00
宇佐美 吉英	有機薬化学研究室（B棟6階）	月曜日～金曜日	12:00～12:50
内山 博雅	製剤設計学研究室（B棟4階）	月曜日～金曜日	13:00～17:00
浦田 秀仁	機能分子創製化学研究室（B棟6階）	月曜日	17:00～18:30
大喜多 守	病態分子薬理学研究室（B棟3階）	木曜日	12:20～13:00
大野 行弘	薬品作用解析学研究室　教授室（B棟3階）	毎週水曜日	12:00～13:00
奥平 桂一郎	衛生化学研究室（B棟2階）	金曜日	17:00～18:00
恩田 光子	社会薬学・薬局管理学研究室（B棟3階）	月曜日	16:30～18:00
加藤 巧馬	分子構造化学研究室(B棟4階)	月曜日・金曜日	12:00～13:00
加藤 隆児	薬物治療学Ⅰ研究室（B棟2階）	月曜日～金曜日	12:20～12:50
門田 和紀	製剤設計学研究室（B棟4階）	水曜日・木曜日	17:00～18:00
角山 香織	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日	18:00～19:00
神林 祐子	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日・木曜日	12:10～12:40
金 美惠子	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日・木曜日	12:10～12:40
國澤 直史	薬品作用解析学研究室（B棟3階）	火曜日	17:00～18:00
小池 敦資	病態生化学研究室（B棟3階）	月曜日～金曜日	12:10～13:00（昼休み）
幸田 祐佳	薬物治療学研究室(B棟6階)	火曜日・木曜日	12:10～13:00
駒野 淳	感染制御研究室（B棟3階）	水曜日	17:00～18:00
坂口 実	生涯学習センター（B棟1階）	月曜日	17:00～18:00
阪本 恭子	104研究室（B棟1階）	金曜日	12:10～13:00（昼休み）
佐久間 覚	衛生化学研究室（B棟2階）	金曜日	17:00～18:00
佐藤 卓史	薬学教育推進センター（B棟4階）	火曜日～木曜日	実習終了時～19:30
	C304実習室	火曜日～木曜日	17:30～実習終了時
	C201講義室	月曜日	12:30～13:00（3年次対象）
	C202講義室	金曜日	12:30～13:00（2年次対象）
芝野 真喜雄	臨床漢方薬学研究室（B棟5階：504）	水曜日・木曜日	12:10～13:00（昼休み）
清水 佐紀	薬品作用解析学研究室（B棟3階）	月曜日・金曜日	12:10～13:00（昼休み）
庄司 雅紀	社会薬学・薬局管理学研究室　第一研究室（B棟3階）	月曜日～金曜日	10:00～17:00（月曜日・金曜日）
			10:00～11:30（火曜日～木曜日）
城下 賢一	112室（B棟1階）	火曜日	11:30 – 12:30
スミス 朋子	105研究室（B棟1階）	火曜日・木曜日	12:30～13:30
当麻 成人	110室（B棟1階）	月曜日	12:00～15:00
竹林 裕美子	薬剤学研究室（B棟2階）	月曜日～金曜日	12:00～13:00
竹本 宏輝	106室（B棟1階）	月曜日～金曜日	13:00～17:00（出張・会議時を除く）
田中 早織	薬物治療学研究室（B棟6階）	月曜日	12:10～13:00
田中 智	生体機能解析学研究室（B棟5階）	月曜日	18:00～19:00
田邊 久美子	研究室（B棟1階）	水曜日	12:30～13:00
谷口 雅彦	生薬科学研究室（B棟5階）	月曜日～金曜日	12:10～13:00
田和 正志	病態分子薬理学研究室（B棟3階）	月曜日	12:10～13:00
土屋 孝弘	薬学教育推進センター(B棟4階)	月曜日～金曜日	17:00～19:00
津山 俊子	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日・木曜日	12:10～12:40
天滿 敬	生体分析学研究室（B棟2階）	火曜日	17:00～18:00
土井 光暢	分子構造化学研究室（B棟4階）	火曜日～金曜日	17:00～19:00
戸塚 裕一	製剤設計学研究室（B棟4階）	火曜日	17:00～19:00
友尾 幸司	薬品物理化学研究室（B棟4階：R423）	金曜日	17:00～19:00
永井 純也	薬剤学研究室（B棟2階）	水曜日・木曜日	12:20～12:50
中川 恵輔	病態分子薬理学研究室（B棟3階）	月曜日	12:00～13:00（昼休み）
永田 誠	108室（B棟1階）	月曜日	12:10～13:00
中辻 匡俊	病態生化学研究室（B棟3階）	月曜日～金曜日	12:10～13:00（昼休み）
中村 任	臨床薬学教育研究センター（B棟2階）	月曜日	12:10～13:00
中村 敏明	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日	18:00～19:00
長谷井 友尋	薬学教育推進センター（B棟4階）	木曜日	16:00～17:00
羽田 理恵	臨床薬学教育研究センター（B棟5階）	火曜日・木曜日	12:10～12:40
葉山 登	有機薬化学研究室（B棟6階）	月曜日	16:00～17:00
平田 雅彦	Ri研究施設（B棟地下1階）	月曜日・金曜日	12:10～13:00
平田 佳之	生薬科学研究室（B棟5階）	月曜日	12:10～13:00
平野 智也	医薬分子化学研究室（B棟6階）	火曜日	18:00～19:00

※臨時の会議や出張などにより担当教員が不在の可能性もあります。

教員氏名	場所	曜日	時間帯
福永 理己郎	生化学研究室(B棟5階)	月曜日～金曜日	12:10～13:00(平日)
			16:10～17:30(金曜日のみ)
福森 亮雄	薬物治療学II研究室(B棟6階)	火曜日	17:00～18:00
藤井 忍	生化学研究室(R517)(B棟5階)	金曜日	16:30～18:00
藤嶽 美穂代	中央機器研究施設　MS室(B棟1階)	金曜日	12:10～13:00
藤森 功	病態生化学研究室(B棟3階)	月・金曜日	12:10～13:00
古川　哲也	臨床薬学教育研究センター(B棟5階)	火曜日・木曜日	12:10～12:40
細畑 圭子	臨床薬学教育研究センター(B棟2階)	講義日	各講義終了後1時間
松田 昂樹	臨床漢方薬学研究室(B棟5階)	月曜日	17:00～18:00
松村 光紗	臨床薬学教育研究センター(B棟5階)	火曜日	18:00～19:00
箕浦 克彦	中央機器研究施設 NMR室	金曜日	12:10～13:00
			16:30～19:00
宮崎 誠	薬学教育推進センター(B棟4階)	(前期)月曜日～水曜日	13:00～18:00
		(後期)月曜日・金曜日	
宮本 勝城	感染制御学研究室(B棟3階)	金曜日	17:00～19:00
本橋 秀之	薬剤学研究室(B棟2階)	水曜日・木曜日	12:20～12:50
安田 大輔	医薬分子化学研究室(B棟6階)	月曜日～金曜日	12:10～13:00
柳田 寛太	薬物治療学II研究室(B棟6階)	月曜日・水曜日	17:00～18:00
矢野 良一	C棟3階 C305室	月曜日	8:10～9:00
		火・木曜日	18:00～19:00
山沖 留美	管理室(B棟地下1階)	金曜日	16:30～18:00
山口 敬子	薬物治療学II研究室(B棟6階)	火曜日	12:00～13:00
山田 剛司	医薬分子化学研究室(B棟6階:615)	金曜日	7:00～9:00
			17:00～19:00
米山 弘樹	有機薬化学研究室(B棟6階)	月曜日・金曜日	16:00～18:00
和田 恭一	臨床薬学教育研究センター(B棟5階)	火曜日・木曜日	12:10～12:40
和田 俊一	機能分子創製化学研究室(B棟6階:616)	月曜日～金曜日	12:10～13:00

※臨時の会議や出張などにより担当教員が不在の可能性もあります。

1年次科目配当表

区分		授業科目		1年次 前期	1年次 後期	単位	備考
基礎教育科目	教養科目	自然科学1	※1	▲		1	●:必修科目　▲:選択必修科目　△:自由科目 選択必修科目は、同時間に複数科目開講することがある 自由科目は、卒業要件単位には含まない
		政治学	※1	▲		1	
		数理論理学	※1	▲		1	
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門	※1	▲		1	
		医工薬連環科学	※1	▲		1	
		文学・文化	※1		▲	1	
		歴史学	※1		▲	1	
		文化人類学	※1		▲	1	※1　教養科目より3科目を選択必修
		倫理と社会	※1		▲	1	
		自然科学2	※1		▲	1	
		基礎心理学	※1		▲	1	
		運動と健康	※1		▲	1	
		情報科学		●		1	
		情報科学演習		●		1	
		アカデミックスキル		●		1	
		スポーツ・運動			●	1	
		物理学		●		1	
		物理学演習		●		1	
		化学		●		1	
		化学演習		●		1	
		生物学		●		1	
		生物学演習		●		1	
		数学1		●		1	
		数学演習		●		1	
		数学2			●	1	
		薬学英語1		●		1	
		薬学英語2			●	1	
	第二外国語	ドイツ語1	※2	▲		1	※2　ドイツ語、中国語、ハングルより1カ国語を選択必修
		ドイツ語2	※2		▲	1	
		中国語1	※2	▲		1	
		中国語2	※2		▲	1	
		ハングル1	※2	▲		1	
		ハングル2	※2		▲	1	
		ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ	※3	△		1	※3　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する
		ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ	※3		△	1	
		海外薬学研修	※4	△	△	1	
基礎薬学科目		薬学入門		●		1	※4　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
		物理化学1			●	1	
		分析化学1			●	1	
		有機化学1		●		1	
		有機化学2			●	1	
		生化学1			●	1	
		機能形態学1		●		1	
		機能形態学2			●	1	
		基礎薬学導入学習		●		1	
応用薬学科目		生薬学			●	1	
医療薬学科目		多職種連携論1-医療人マインド		●		1	
		早期体験学習		●		1	
		医療薬学導入学習			●	1	
		薬学生涯学習プログラム演習	※5	△	△	1	※5 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
		基礎薬理学			●	1	
総合演習科目		薬学連携演習1			●	1	
		薬学連携演習2			●	1	
		薬学連携演習3			●	1	
		薬学連携演習4			●	1	
実習科目		生物学実習			●	1	※6 解剖見学実習は1年次後期から2年次後期の期間で行う
		解剖見学実習	※6		△		

2年次科目配当表

区分	授業科目	2年次 前期	2年次 後期	単位	備考
基礎教育科目	数理統計学		●	1	●:必修科目　▲:選択必修科目　△:自由科目 選択必修科目は、同時間に複数科目開講することがある 自由科目は、卒業要件単位には含まない ※1　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する ※2　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	薬学英語3	●		1	
	ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ ※1	△		1	
	ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ ※1		△	1	
	海外薬学研修 ※2	△	△	1	
	医療心理学		●	1	
基礎薬学科目	物理化学2	●		1	
	分析化学2	●		1	
	有機化学3	●		1	
	有機化学4		●	1	
	有機スペクトル解析学		●	1	
	生化学2	●		1	
	微生物学		●	1	
	免疫学		●	1	
	機能形態学3	●		1	
応用薬学科目	衛生薬学1		●	1	
	分子細胞生物学1	●		1	
	分子細胞生物学2		●	1	
	基礎漢方薬学	●		1	
	物理薬剤学		●	1	
医療薬学科目	多職種連携論2-医療と専門職 ※3		▲	1	※3　多職種連携論2-医療と専門職、生命医療倫理から1科目を選択必修 ※4 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	生命医療倫理 ※3	▲		1	
	薬学生涯学習プログラム演習 ※4	△	△	1	
	薬理・薬物治療学1A	●		1	
	薬理・薬物治療学2A		●	1	
	薬理・薬物治療学1B	●		1	
	薬理・薬物治療学2B		●	1	
	生物薬剤学1		●	1	
	薬物治療マネジメント	●		1	
総合演習科目	薬学連携演習5	●		1	
	薬学連携演習6	●		1	
	薬学連携演習7	●		1	
	薬学連携演習8	●		1	
	薬学連携演習9	●		1	
	薬学連携演習10		●	1	
	薬学連携演習11		●	1	
	薬学連携演習12		●	1	
	薬学連携演習13		●	1	
	薬学連携演習14		●	1	
実習科目	分析化学・物理化学実習	●		1	
	漢方・生薬学実習		●	1	
	解剖見学実習 ※5	△	△	1	※5 解剖見学実習は1年次後期から2年次後期の期間で行う
	生物科学実習		●	1	

3年次科目配当表

区分	授業科目	3年次 前期	3年次 後期	単位	備考
基礎教育科目	薬学英語4		●	1	●:必修科目　▲:選択必修科目　△:自由科目
	インタラクティブ・イングリッシュⅠ ※1	△		1	選択必修科目は、同時間に複数科目開講することがある
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ ※1		△	1	自由科目は、卒業要件単位には含まない
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語 ※2	△	△	1	※1　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する
	海外薬学研修 ※3	△	△	1	※2　ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語は3年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	キャリアデザイン	●		1	※3　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
基礎薬学科目	放射化学	●		1	
応用薬学科目	応用分析学		●	1	
	応用放射化学		●	1	
	薬用天然物化学	●		1	
	医薬品化学1	●		1	
	医薬品化学2		●	1	
	衛生薬学2	●		1	
	衛生薬学3		●	1	
	病原微生物学		●	1	
	臨床統計		●	1	
医療薬学科目	多職種連携論3-医療倫理	●		1	
	医療と法		●	1	
	中期体験学習 ※4	▲		1	※4　薬学教育論、中期体験学習から1科目を選択必修
	薬学教育論 ※4	▲		1	
	薬学生涯学習プログラム演習 ※5	△	△	1	※5 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	薬理・薬物治療学3A	●		1	
	薬理・薬物治療学4A		●	1	
	薬理・薬物治療学3B	●		1	
	薬理・薬物治療学4B		●	1	
	生物薬剤学2	●		1	
	薬物速度論		●	1	
	製剤設計学	●		1	
総合演習科目	薬学連携演習15	●		1	
	薬学連携演習16	●		1	
	薬学連携演習17	●		1	
	薬学連携演習18	●		1	
	薬学連携演習19	●		1	
	薬学連携演習20		●	1	
	薬学連携演習21		●	1	
	薬学連携演習22		●	1	
	薬学連携演習23		●	1	
	薬学連携演習24		●	1	
実習科目	有機化学実習	●		1	
	衛生・放射化学実習		●	1	
	薬理学実習	●		1	
	薬剤学実習		●	1	

4年次科目配当表

区分	授業科目		4年次 前期	4年次 後期	単位	備　考
基礎教育科目	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	※1	△		1	●:必修科目　△:自由科目
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	※1		△	1	自由科目は、卒業要件単位には含まない
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語	※2	△	△	1	※1　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する
	海外薬学研修	※3	△	△	1	
	医療コミュニケーション		●		1	※2　ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語は3年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
医療薬学科目	薬学生涯学習プログラム演習	※4	△	△	1	※3　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	薬理・薬物治療学5A		●		1	
	薬理・薬物治療学5B		●		1	※4 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬物治療学			●	1	
	臨床感染症学		●		1	
	個別化医療		●		1	
	コミュニティファーマシー			●	1	
	ﾌｧｰﾏｼｭｰﾃｨｶﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習			●	1	
	ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ			●	1	
	臨床導入学習1		●		3	
	臨床導入学習2			●	1	
	薬事関連法・制度		●		1	
	社会保障論		●		1	
総合演習科目	薬学連携演習25		●		1	
	薬学連携演習26		●		1	
	薬学連携演習27		●		1	
	統合薬学演習1			●	1	
	薬学総合演習1		●		1	
実習科目	特別演習・実習1		●		5	

5年次科目配当表

区分	授業科目		5年次 前期	5年次 後期	単位	備　考
基礎教育科目	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	※1	△		1	●:必修科目　△:自由科目
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	※1		△	1	自由科目は、卒業要件単位には含まない
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語	※2	△	△	1	※1　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する
	海外薬学研修	※3	△	△	1	※2　ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語は3年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
医療薬学科目	臨床カンファレンス	※4	△			※3　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	薬学生涯学習プログラム演習	※5	△	△	1	※4　臨床カンファレンスは5年次前期から6年次前期の期間で行う
実習科目	臨床実習		●		20	※5 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	特別演習・実習2	※6	●			※6　特別演習・実習2は5年次前期から6年次前期の期間で行う

6年次科目配当表

区分	授業科目		6年次 前期	6年次 後期	単位	備考
基礎教育科目	インタラクティブ・イングリッシュⅠ	※1	△		1	●:必修科目　▲:選択必修科目　△:自由科目
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ	※1		△	1	選択必修科目は、同時間に複数科目開講することがある
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語	※2	△		1	自由科目は、卒業要件単位には含まない
	海外薬学研修	※3	△		1	※1　ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠは1年次から6年次のいずれかの前期、ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡは1年次から6年次のいずれかの後期で履修する
応用薬学科目	先端分子医科学	※4	▲		1	
医療薬学科目	多職種連携論4－医療安全	※4	▲		1	※2　ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬学英語は3年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	医療政策論	※4	▲		1	※3　海外薬学研修は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	臨床カンファレンス	※5	△		1	※4　先端分子医科学、多職種連携論4－医療安全、医療政策論、アドバンスト薬理学、現代における漢方医療より1科目を選択必修
	薬学生涯学習プログラム演習	※6	△		1	※5　臨床カンファレンスは5年次前期から6年次前期の期間で行う
	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ薬理学	※4	▲		1	※6 薬学生涯学習プログラム演習は1年次前期から6年次前期のいずれかの期間で履修する
	現代における漢方医療	※4	▲		1	
総合演習科目	統合薬学演習2		●		1	
	薬学総合演習2		●		7	
実習科目	特別演習・実習2	※7	●		20	※7　特別演習・実習2は5年次前期から6年次前期の期間で行う

目次（令和6年度1年次生）

基礎教育科目

自然科学1……32
政治学……34
数理論理学……36
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門……38
文学・文化……40
歴史学……42
文化人類学……44
倫理と社会……46
自然科学2……48
基礎心理学……50
運動と健康……52
情報科学……54
情報科学演習……56
アカデミックスキル……59
スポーツ・運動……61
物理学……63
物理学演習……65
化学……67
化学演習……69
生物学……71
生物学演習……73
数学1……75
数学演習……77
数学2……79
薬学英語1……81
薬学英語2……83
ドイツ語1……85
ドイツ語2……87
中国語1……89
中国語2……91
ハングル1……93
ハングル2……95
ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ……97

ｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ……99
海外薬学研修……101
基礎薬学科目
薬学入門……103
物理化学1……105
分析化学1……107
有機化学1……109
有機化学２……112
生化学1……114
機能形態学1……116
機能形態学2……118
基礎薬学導入学習……120
応用薬学科目
生薬学……122
医療薬学科目
多職種連携論1−医療人マインド……124
早期体験学習……126
医療薬学導入学習……128
薬学生涯学習プログラム演習……131
基礎薬理学……133
総合演習科目
薬学連携演習1……135
薬学連携演習２……137
薬学連携演習３……139
薬学連携演習４……141
実習
生物学実習……143
解剖見学実習……145

科目名	自然科学１	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Natural Sience 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	竹本宏輝、天ヶ瀬葉子		

授業の概要	現在の文明社会は科学技術に支えられ、平均寿命の延伸は、医療の進歩によるものである。前半の４回の講義（竹本担当）では、人類が現在の科学技術をどのように獲得してきたのか、古代ギリシャから現在までの足跡を追い、現代科学について考える。また、後半の４回の講義（天ヶ瀬担当）では、先人の医療者がどのように怪我や病気に対し向き合い、命を繋いできたかを学ぶ。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	近代科学や近代医学・薬学の成立過程を学ぶことにより、科学的思考法を身に付け、現代の科学や医学についての問題を問い直す機会とする。
授業の方法	各回のテーマごとに講義形式で行う。
アクティブ・ラーニングの取組	クリッカーやFORMSを用いた双方向授業を一部の講義で行う。
成績評価	毎講義後のコメントシート（60%）および前半・後半の講義で課せられるレポート２回(40%)
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者には評価を開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさも守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	特には使用しない。
参考書（書名・著者・出版社）	講義の中でテーマに沿った書籍をいくつか紹介する。

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	科学史概観（竹本）	現代の科学的な考え方や手法の発展過程について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
2	古代ギリシャの哲学（竹本）	古代ギリシャ人の自然観について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
3	近代科学の誕生（竹本）	近代科学の考え方や手法の成立過程について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
4	現代科学とは（竹本）	現代科学の諸問題について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。

5	鎮痛の歴史（天ヶ瀬）	鎮痛薬の発見・発明について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む
6	感染症への戦いの歴史①（天ヶ瀬）	ワクチンの発明について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
7	感染症への戦いの歴史②（天ヶ瀬）	抗生物質・抗ウイルス薬について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
8	内臓疾患治療の歴史（天ヶ瀬）	現代の医療の礎となった先人たちの努力について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	政治学	科目ナンバー	
英語名	Political Science		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	城下		

授業の概要	私たちは個人としてだけでなく、社会の一員としても活動・生活している。この社会における集団意志の決定と運営を担う重要な役割を果たしているのが政治である。この授業では、政治学の基本概念に焦点を当て、特に民主主義体制の歴史的背景と基本原理を学ぶ。この授業により、民主主義の意義、機能、課題について学生が理解を深めることを目指す。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	民主主義の歴史的発展とその基本原理について学び、現代の民主主義体制がどのように形成され、機能しているか、どのような課題があるかを理解する。
授業の方法	授業の際にはレジュメ（プリント）を配布し、これに基づいて説明を行う。授業の中で個人またはグループでレポートを作成させ、目標の到達度を測る。
アクティブ・ラーニングの取組	授業の中でレポートを作成させる。作成されたレポートに対してはフィードバックを行う。
成績評価	レポートによる評価（70%）と講義中の毎回の確認問題の評価（30%）を合算して最終的な評価とする。
試験・課題に対するフィードバック方法	コメントしたレポートを返却する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	12.つくる責任 つかう責任／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	特に指定しない
参考書（書名・著者・出版社）	講義中に随時紹介する

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	現代のデモクラシーとしてのリベラルデモクラシー	リベラルデモクラシーについて説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
2	日本におけるデモクラシー(1)自由民権運動から大正デモクラシーへ	デモクラシーの拡大を中心に第二次世界大戦前の政治史について説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
3	日本におけるデモクラシー(2)占領改革から一党優位体制の成立へ	デモクラシーの拡大を中心に第二次世界大戦後の政治史について説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
4	政治の原理(1)政治と自由	政治における自由の問題について説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
5	政治の原理(2)政治と平等	政治における平等の問題について説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
6	政治の原理(3)多数決のパラドクス	多数決のパラドクスについて説明する	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。

7	レポート課題の説明	レポート課題について詳細に説明する	【予習】これまでの授業内容の振り返り（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとにレポート執筆のための調査を行うこと（1.0時間）。
8	レポート相談	レポート課題について必要な調査や執筆をさせつつ、必要に応じて相談に対応する	【予習】レポート執筆のための調査を行い、また執筆すること（0.5時間）。【復習】レポートを執筆して完成させること（1.0時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	数理論理学	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Mathematical Logic		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永田		

授業の概要	物事を論理的に理解、考察、表現する。このことは日々を生活していく上で欠かせない素養のひとつです。本科目では数理論理学の初歩を学習します。数理論理学は記号を利用した体系であるため、その初歩は比較的易しく学べます。数理論理学の初歩の学習を通して、論理的思考に関する知識と技能を習得しましょう。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬学部での学修活動や将来において必要となる論理性を養い、大学における学び、ひいては生涯にわたって求められる学術その他の活動を論理的に理解することができるようになるためである。
授業の方法	配布資料(プリント)やスライド等を用いて、講義形式で行う。リアクションペーパー等でレスポン等を利用する場合がある。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	授業内課題50%とレポート課題50%で評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	レポート課題、授業内課題の評価を希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	特に指定しない
参考書（書名・著者・出版社）	『論理学をつくる』・戸田山和久・名古屋大学出版会 『論理学』・野矢茂樹・東京大学出版会

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	論理学とは	命題と論証の違い	インターネットや図書館等を活用して、論理学について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。
2	命題と真偽	命題と真偽の関係	インターネットや図書館等を活用して、命題と真偽について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。
3	記号論理学の言語	命題論理における言語の概略	インターネットや図書館等を活用して、推論について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)
4	真理表	真理表	インターネットや図書館等を活用して、真理表について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。
5	真理値分析の応用	正直者と嘘つきの問題	インターネットや図書館等を活用して、パラドクスについて調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。
6	論証の妥当性	論証の妥当性の概略	インターネットや図書館等を活用して、論証について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)
7	命題論理の構文論	構文論の概略	インターネットや図書館等を活用して、命題論理の構文論について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。

8	述語論理	述語論理の概略	インターネットや図書館等を活用して、述語論理について調べておき(予習2時間)、授業で学習した内容を詳しく検証する(復習2時間)。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	コミュニケーション入門	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Communication Skills		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	当麻　成人、スミス　朋子		

授業の概要	自分の心の中や他の人との会話、集団やコミュニティなど、現代のコミュニケーションの姿を理論的に整理し、多くの事例に触れながら、より良いコミュニケーションのあり方を探っていく。また、日本人だけでなく、外国人に対しても有効なコミュニケーションの方法を学ぶ。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、日常のさまざまなコミュニケーションに対し、建設的、効果的に対処するために必要な能力を向上させ、活用することができるようになるためである。
授業の方法	配布した資料を基にテーマに沿って講義を行い、一部演習も実施する。
アクティブ・ラーニングの取組	演習ではグループワークなどの課題に取り組み、発表も行う。
成績評価	課題・レポート（80%）小テスト（20%）
試験・課題に対するフィードバック方法	解答例は学内の取り決めに沿って公開する。 課題・レポート及び小テストのフィードバックは、授業内に行えない場合、個別に実施する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	なし（配布資料のみ）
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	オリエンテーション 話上手よりも聞き上手とは	話を聞いてもらえるとその人に好感を持つと同時に信頼を得られるようになることを理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
2	話す力はコミュニケーション能力の基礎	発話について理解しその実力をつける。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
3	初対面のコミュニケーション	自己紹介に強くなる。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
4	コミュニケーションとやさしい日本語①	外国人にも伝わりやすい「やさしい日本語」で伝える方法を学ぶ。 グループ課題に取り組む。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
5	コミュニケーションとやさしい日本語②	「やさしい日本語」での言い換えの演習と医療への応用について考察を行う。 小テストを実施する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
6	相手の気持ちを知る方法	相手の意図を読み取る、理解力をつける。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
7	人間関係の構築について	人と接すれば必ず摩擦が生じることを知る。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
8	心の中に持つ衝動について	衝動について裏づけられた行動を理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（４時間）する。
9			
１０			
１１			

1 2			

科目名	文学・文化	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Literature		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	松岡　玄		

授業の概要	20世紀アメリカ文学の代表的作品であるテネシー・ウィリアムズの戯曲を通してアメリカの文化を学ぶとともに、他者との関わりについて考える。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	アメリカ演劇の代表的作品を読むことで、アメリカの文化と社会への理解を深めるとともに、他者との関わりについて考えるきっかけとする。 　1944年に初演を迎えたテネシー・ウィリアムズの『ガラスの動物園』はアメリカ文学最高峰として名高い作品である。ウィリアムズ自身が本作品を「追憶劇」と銘打っているように、作品にはウィリアムズの自伝的要素がふんだんに盛り込まれているが、本授業では登場人物たちの関係を読み解き、他者との関係性のあり方について考える。 　また、作品の一部を抜き出し、台詞を覚え、少人数のチームで協力してその場面を演じることにより、よりよいコミュニケーションとはなにかを考える契機を作る。
授業の方法	各回、演劇という芸術形態や取り扱う作品に関する講義を行ったうえで、戯曲の音読・暗唱を行い、作品や登場人物への理解を深める。また、台詞の暗唱を課題として課し、その成果として第七回・第八回の授業で発表を行う。 （受講者数により変更になることもあります。その点ご了承ください。）
アクティブ・ラーニングの取組	ディスカッション、ディベート・反転授業・グループワーク・プレゼンテーション
成績評価	授業参加度（授業態度や授業内での発言、アクティビティへの取り組み等）：35% 授業内発表（第７回・第８回での発表）：40% レポート：25%
試験・課題に対するフィードバック方法	授業参加度に対する評価については授業内で共有する。 授業内発表のコメントは授業内で共有するか、Universal Passportに掲示する。 レポートについては全体の講評をUniversal Passportに掲示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／10.人や国の不平等をなくそう／16.平和と公正をすべての人に
教科書（書名・著者・出版社）	『ガラスの動物園』テネシー・ウィリアムズ（著）・小田島雄志（訳）新潮社
参考書（書名・著者・出版社）	必要に応じて授業で紹介する。

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	イントロダクション 「上演のためのノート」 第一部第一場	作品の概説を行う。 「上演のためのノート」を確認する。 第一部第一場を読み、内容への理解を深める。	予習：教科書を入手し、本のそでに書いてある著者情報を確認する。作品全体を一度通読する。（120分） 復習：第一部第一場を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）
2	「演劇とコミュニケーション」 第一部第二場・第三場	演劇とコミュニケーションに関する講義を行う。 第一部第二場・第三場を読み、内容への理解を深める。	予習：第一部第二場・第三場を通読する。（60分） 復習：第一部第二場・第三場を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）
3	「演劇と文化」 第一部第四場・第五場	演劇と文化にまつわる講義を行う。 第一部第四場・第五場を読み、内容への理解を深める。	予習：第一部第四場・第五場を通読する。（60分） 復習：第一部第四場・第五場を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）

4	第一部のおさらい 第二部第六場	第一部のあらすじと登場人物を整理する。 第二部第六場を読み、内容への理解を深める。	予習：第二部第六場を通読する。（60分） 復習：第一部を改めて読み、内容をおさえる。第二部第六場を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）
5	作品に関するディスカッション 第二部第七場①	作品に関して、ディスカッションを行う。 第二部第七場の前半を読み、内容への理解を深める。	予習：第二部第七場の前半を通読する。（60分） 復習：第二部第七場の前半を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）
6	「発表に向けて」 第二部第七場②	パフォーマンス発表に備え、演技と演出に関する講義を行う。 第二部第七場の後半を読み、内容への理解を深める。	予習：第二部第七場の後半を通読する。（60分） 復習：発表で使いたい場面を探す。第二部第七場の後半を読み返し、重要と思われる点を洗い出す。（60分）
7	発表に向けた練習・発表①	発表にむけて2~3人から成るチームで練習を行う。 2~3人から成るチームで戯曲の一部を演じ、発表する。	予習：登場人物とプロットを整理する。発表で使いたい場面を探す。演じたい役について、どのような人物でどのようにすればうまく演じることができるか考える。（240分） 復習：発表で使う場面の台詞を暗記し、スムーズに演技ができるように練習する。発表を終えた者は発表の振り返りを行い、レポートを執筆する。（300分）
8	発表②	2~3人から成るチームで戯曲の一部を演じ、発表する。	予習：発表で使う場面の台詞を暗記し、スムーズに演技ができるように練習する。（300分） 復習：発表の振り返りを行い、レポートを執筆する。（300分）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	歴史学	科目ナンバー	
英語名	Introduction to History		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	城下		

授業の概要	歴史を学ぶことの大きな魅力は、多方面からの視点を通じて、現在と共通する点や全く異なる特徴を探究し、現代社会における私たちの役割や課題を再考する手がかりを得ることにあります。この授業では特に、写真と医療の歴史を通じて技術革新と社会との相互作用を探り、歴史の深みと複雑さを知ることにより、歴史の魅力を感じることを目的にしています。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	歴史学の方法論とその成果を知り、現代を相対化する視点を涵養する。
授業の方法	授業の際にはレジュメ（プリント）を配布し、これに基づいて説明を行う。授業の中で個人またはグループでレポートを作成させ、目標の到達度を測る。
アクティブ・ラーニングの取組	授業の中でレポートを作成させる。作成されたレポートに対してはフィードバックを行う。
成績評価	レポートによる評価（70%）と講義中の毎回の確認問題の評価（30%）を合算して最終的な評価とする。
試験・課題に対するフィードバック方法	コメントしたレポートを返却する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	特に指定しない
参考書（書名・著者・出版社）	講義中に随時紹介する

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	写真の歴史(1)	写真技術と日本への導入について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
2	写真の歴史(2)	写真の普及と社会での一般的な利用のあり方について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
3	写真の歴史(3)	写真印刷技術の発展とその利用や影響について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
4	医療の歴史(1)	医療技術とその日本への導入について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
5	医療の歴史(2)	医療の普及と社会での一般的な利用のあり方について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。
6	医療の歴史(3)	医療における医薬品と薬剤師のあり方について学ぶ	【予習】授業内容に関して提示された資料をもとに調べておくこと（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとに復習すること（1.0時間）。

7	レポート課題の説明	レポート課題について詳細に説明する	【予習】これまでの授業内容の振り返り（0.5時間）。【復習】授業内で配布した資料をもとにレポート執筆のための調査を行うこと（1.0時間）。
8	レポート相談	レポート課題について必要な調査や執筆をさせつつ、必要に応じて相談に対応する	【予習】レポート執筆のための調査を行い、また執筆すること（0.5時間）。【復習】レポートを執筆して完成させること（1.0時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	文化人類学	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Cultural Anthropology		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	中本		

授業の概要	異なる文化について知ることは、同時に、自分たち自身の文化について知ることでもある。本講義では文化人類学の歴史と方法、理論と成果を学ぶ、そして様々な文化でのものの見方や考え方を理解したうえで、今日の文化的状況について議論する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	異なる文化について知ることは、同時に、自分たち自身の文化について知ることでもある。本講義の目的は、文化人類学の方法と理論、成果を学び、様々な文化でのものの見方や考え方を学ぶことを通して、私たちのものの考え方や見方について相対化できるようにすることである。また、異文化をルーツに持つ人々との交流・交渉・共存のあり方についての視点や方法を獲得し、自ら判断・行動できるようにすることである。
授業の方法	パワーポイントと配布資料を用いて、講義形式で進める。必要に応じて視聴覚資料を使用する。受講者からは講義内の質疑で直接、あるいはリアクション・ペーパーなどで適宜感想や見解を求める。同時に質問や疑問を受け付け、必要に応じてディスカッションを行う。
アクティブ・ラーニングの取組	各回最後にリアクション・ペーパーを配布し、記入してもらう。それに基づき、次回の講義の冒頭15分程度で質疑応答とディスカッションを行う。
成績評価	講義での姿勢およびリアクション・ペーパー及びディスカッションの評価（50%）、期末レポート（50%）。期末レポートは講義の内容を踏まえて、各自課題を設定して記述する論述課題とする。
試験・課題に対するフィードバック方法	リアクション・ペーパー・およびディスカッションへの応答を講義内に行う。期末レポートの評価については確定後にTeamsを通して通知する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／16.平和と公正をすべての人に
教科書（書名・著者・出版社）	なし（必要な資料については適宜配布する）。
参考書（書名・著者・出版社）	講義中に指示する。

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	イントロダクション	講義の進め方について説明する。 文化人類学の歴史と文化概念、および文化人類学についての基本的な知識と理論について理解する。	イントロダクションに先立ち、文化人類学に関連する入門書・論文・記事などを講読しておくこと（4時間）。
2	宗教・信仰と世界観（1）	未知の事柄や不安、苦悩に人々が対処するための文化的装置としての側面を持つ宗教や信仰のあり方を理解する。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
3	宗教・信仰と世界観（2）	科学的・合理的な思考が支配的である現代においてもその力を失わない宗教・信仰の現代的様相について考える。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
4	医療と文化（1）	身体と病気、及びその治療について、対処のあり方は文化・社会によって多様であることを理解する。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
5	医療と文化（2）	様々な医療体系があることを理解したうえで、現代医療の特質や多様性を理解する。また今日における様々な医療体系の交渉やコンフリクトの様相について考える。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。

6	性・ジェンダー・生殖（1）	性や生殖に関する考え方の多様性を理解するとともに、文化・社会の中で「男らしさ」・「女らしさ」が創られ、確認され、再生産されていくことを理解する。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
7	性・ジェンダー・生殖（2）	生殖技術をはじめとする医療テクノロジーが、リプロダクションや家族の在り方に与える影響について考える。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
8	グローバル化と文化	これまでの内容を踏まえた上で、今日のグローバル化した状況と、多文化共生社会における文化の状況について理解し、文化的背景の異なる人々との交渉や共存のあり方について考える。	事前にプリントを配布するので、その内容について確認する（2時間）。講義後に、講義についての疑問点などを復習し、日常生活との関連など広い視点で再考する（2時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	倫理と社会	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Ethics		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	阪本		

授業の概要	いま私たちが生きている社会には、身体的、精神的に、そして社会的にも弱い立場に置かれていて、他人の支援がなければ生きのびることができない人々がいる。この授業で、普段は見えない、あるいは見ようとしない社会問題を知って、改善策を考えよう。なかでも「子ども」に注目して、子どもたちの“well-being”（ウェルビーイング。健康で幸せであること）について考える。授業で扱う問題は、児童遺棄・虐待、生殖補助医療、出生前診断である。子どもにとって良い社会は、いったいどんな社会だろう？その実現のために、医療人として何ができるだろう？みんなで話しあって、知恵を出そう。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命と医療に係る倫理観を身につけて、医療の担い手としての感性を養うことである。また、生涯にわたって自ら学ぶことの重要性を理解し、修得した知識、技能、態度を確実に次世代につなげる意欲と行動力を身につける。人の行動や考え方、社会の仕組みを理解して、社会における薬剤師の新たな役割と可能性について考えよう。
授業の方法	現代日本における子どもたちをめぐる社会状況を、パワーポイントと映像資料を使って示す。グループディスカッションと課題レポートに主体的に取り組んで、薬と社会、人と人をつなぐ医療人にふさわしい人間力を身につけよう。
アクティブ・ラーニングの取組	毎回の授業に積極的に取り組んで、新たな問題を見出して、その改善策を多角的に考える。PBL（問題解決型学習）。
成績評価	・授業への参加態度（グループディスカッションに取り組む姿勢、課題レポート）…50% ・授業内試験…50%
試験・課題に対するフィードバック方法	授業内容や課題レポートに関する質問は、いつでも受けつける。課題レポートの評価等は、次回の授業でコメントする。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	指定教科書なし。授業資料（パワーポイント、参考資料など）は授業で提示する。
参考書（書名・著者・出版社）	・『事例でまなぶ・ケアの倫理』ナーシングサプリ編集委員会、メディカ出版 ・『薬剤師になる人のための生命倫理と社会薬学』田内義彦ほか（著）、法律文化社 ・『薬学生・薬剤師のためヒューマニズム』後藤恵子（編）、羊土社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	子どもの生命を守る （1）	赤ちゃんポスト。児童遺棄・虐待の現状を知り、問題点を見出す。アクティブ・ラーニング。	復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
2	子どもの生命を守る （2）	赤ちゃんポストと内密出産。児童遺棄・虐待の課題について考える。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
3	子どもの生命を守る （3）	赤ちゃんポストと赤ちゃん縁組。児童遺棄・虐待の改善策について話しあう。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
4	子どもの生命をつくる （1）	生殖補助医療（人工授精、体外受精、代理出産）の現状を知り、問題点を見出す。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）

5	子どもの生命をつくる （2）	人工妊娠中絶の現状を知り、課題について考える。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
6	子どもの生命をつくる （3）	生殖補助医療と出生前診断の現状を知り、課題と対策について考える。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
7	子どもの“well-being”について考える	未来の子どもの“well-being”のために医療人として何をすべきか、何ができるかについて話しあう。アクティブ・ラーニング。	予習：2時間（授業の内容に関連するニュースや情報をチェックして、問題を見つける。）復習：2時間（授業で得た知見をもとに、関連文献や資料を調べて、新たに問題を発掘する。）
8	授業内試験	筆記試験（論述問題）を行う。	予習：2時間（これまでの授業をふりかえり、子どもの生命について考えたことや新たに発見した問題をまとめる。）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	自然科学２	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Natural Sience 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	竹本		

授業の概要	「元素」の発見は我々の科学文明を大きく発展させたが、その概念形成には脈々と続く先人たちの科学的思考の積み重ねが必要であった。本講義では、「元素」という概念を獲得した人類の歴史を古代ギリシャから現代までを追い、量子の発見や元素合成など最新の知見についても紹介する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	「元素」や「量子」という概念形成の過程をたどることにより、科学的思考法を身に付ける。
授業の方法	各回のテーマごとに講義形式で行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	毎講義後のコメントシート（60%）とレポート(40%)
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者には評価を開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさも守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	特には使用しない。
参考書（書名・著者・出版社）	講義の中でテーマに沿った書籍をいくつか紹介する。

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	古代ギリシャの世界観	古代ギリシャ人の自然観について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
2	空気（真空）の発見	空気の発見と真空の発見について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
3	酸素の発見	燃素という考え方と酸素の発見について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
4	錬金術から化学へ	錬金術から化学への発展について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
5	元素は存在するのか？	元素の存在について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。

			復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
6	電子，原子核（中性子・陽子）の発見	電子および原子核、中性子の発見について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
7	量子の発見	量子の概念形成について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
8	私たちは星の子	元素の合成過程について	予習：授業内容に関する事柄をインターネットや書籍で調べる（１時間）。 復習：レポート作成のために授業内容をまとめる（３時間）。※レポート作成の時間を含む。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	基礎心理学	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Psychology		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	○川端		

授業の概要	心理学は、私たちの人生や生活、そして時には生命とも関わってくる幅広い学問です。心理学を学習することで、他者の心が読めるようになるわけではありませんが、本講義は、心理学の知識をふまえて、自分自身の身の回りの出来事や日常生活について振り返ってもらい、人の心について考えることを目的としています。授業では、心理学の各分野(行動・動機づけ・ストレス・生涯発達・パーソナリティ・人間関係)の基礎的な理論について、事例とともに説明します。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を履修することで、心理学の基礎を理解し、自らの日常生活や人間観について捉え直すことができるようになることを目指します。
授業の方法	資料を配布し、講義形式で授業を行います。
アクティブ・ラーニングの取組	適宜、講義内に課題を行い、意見を表明してもらい、議論を行います。
成績評価	講義後の課題（60%）、記述式のレポート1回（40%）により評価します。
試験・課題に対するフィードバック方法	講義後の課題については毎回講評を行います。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／10.人や国の不平等をなくそう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	特定教材はなし
参考書（書名・著者・出版社）	『心理学スタンダード―学問する楽しさを知る』　サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明　ミネルヴァ書房 心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)　無藤隆，森敏昭，遠藤由美，玉瀬耕治／著　有斐閣

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	オリエンテーション	心理学とは何かについて、生活における一例をとりあげながら大枠を把握する。	シラバスの確認を必ず行っておくこと。講義の復習を行い、ノートにまとめるなどを行う(4h)。
2	行動の心理学	私たちの行動、特にレスポンデント行動とオペラント行動ついて理解する。	人間の行動のメカニズムや環境から受ける影響について学び、普段の生活への事例を考察する（4h）。
3	動機づけの心理学	目標や目的に向かって行動を起こさせ、行動を持続させる要因や機能について理解する。	人間のやる気や行動の原動力について、講義内で扱った知識を用いて理解を深める（4h）
4	ストレスの心理学	日常生活におけるストレッサーを理解し、その対処方略（防衛機制など）について学ぶ。	健康的な対処法と不健康な対処法について、講義内で扱った知識を用いて理解を深める（4h）。
5	発達の心理学	生涯にわたる発達について段階ごとの特徴を知る。	発達段階に基づいて、人間の社会性について考え、講義の復習を行うこと。講義の復習を行い、ノートにまとめるなどを行う(4h)。
6	パーソナリティーの心理学	パーソナリティーの諸理論、遺伝と環境の影響関係を理解する。そして知能、学校教育、評価とは何かを捉え直す。	パーソナリティー理論について再考する。そして講義の復習を行い、ノートにまとめるなどを行う(4h)。
7	人間関係の心理学	私たちがどのようにして集団をつくるのかを理解する。	集団が個人に与える影響を踏まえ、復習を行う(4h)。
8	医療の心理学(臨床心理学)	心理師が心理学的知見を用いて何をどのように援助しているのか、理論を知る。	医療において心理学がどのように応用されているのかについて考察し、全体の講義の復習を行う(4h)。

9			
1 0			
1 1			
1 2			

科目名	運動と健康	科目ナンバー	
英語名	Exercise and Health		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	当麻		

授業の概要	私たちの身体は、生きるために身体を動かすことが必要な環境で長い年月をかけて進化してきた。ところが、時代の移り変わりと共に生活様式は変化し、現在では単に日常生活を送るだけでは十分な身体活動量を維持することが難しくなっている。 ここでは、健康の維持・増進の観点から、ヒトが運動やスポーツを行ったときの身体の応答や適応について運動生理学的視点から解説し、健康づくりのための身体活動・運動の意義を理解する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、身体の構造や生命活動の基本的な仕組みおよび身体運動と健康の関係について理解し今後の健康活動に活用することにある。
授業の方法	配布資料を基にテーマに沿って講義する。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験（70%）、課題レポート（30%）
試験・課題に対するフィードバック方法	試験問題、課題レポート及び解答例は学内の取り決めに則って公開し、答案は希望に応じて開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を
教科書（書名・著者・出版社）	なし（配布資料のみ）
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	身体の構造や身体活動の基本的な仕組みと運動の影響。	運動・スポーツが心身の健康の保持増進にいかに重要であるかを理解するために、人間の生活史、および日本の健康づくりの沿革とその背景について理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。
2	運動と呼吸・循環器系機能	スポーツや運動を遂行する際には、骨格筋に多くの酸素やエネルギー基質が運搬されなければならない。その役割を担うのが呼吸・循環器系である。長時間にわたり運動遂行する体力すなわち全身持久力の最も重要な決定因子は、呼吸・循環器系機能である。ここでは、運動遂行のメカニズムを知り、健康増進に関する理解を深める。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。
3	運動と神経・骨格筋系機能	歩く、走るなどの多くの身体活動は、関節に付着する筋活動によって行われる。ここでは、運動に携わる骨格筋の基本的な構造とその働き、筋肥大と筋萎縮、複雑な運動を生み出す神経系の構造と機能および役割などを理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。
4	トレーニング・運動概論（1）	健康で体力があり機敏な動きができることや、少々の運動をしても疲れを感じないなどは、すべての人の願いである。このような身体を作り上げるためには、理論的に明らかにされている原理原則に従って運動を実施することが必要である。ここでは、健康	健康で体力があり機敏な動きができることや、少々の運動をしても疲れを感じないなどは、すべての人の願いである。このような身体を作り上げるためには、理論的に明らかにされている原理原則に従って運動を実施する

		体力づくりに必要な運動やトレーニングのメカニズムに関して理解する。	ことが必要である。ここでは、健康体力づくりに必要な運動やトレーニングのメカニズムに関して理解する。
5	トレーニング・運動概論（2）	身体不活動は全身持久力を低下させる。ここでは、持久性運動（エアロビックエクササイズ）による最大酸素摂取量の変化とその要因について健康の保持・増進という観点から理解を深める。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。
6	生活習慣病と運動（レジスタンストレーニング）	身体活動量の低下は生活習慣病のリスクとなり、さまざまな病気の発症率を上げ、死亡率を上昇させる。運動（レジスタンストレーニング）による筋肉量増加や生活活動時間を増やし、基礎代謝を向上させることと生活習慣病との関連性を理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。 定期試験の準備（２時間）
7	運動と発育・発達および高齢者の体力低下と運動	成人期以前のからだは、生涯を通じて最も成長する。子どもの健全な発育発達を促す身体活動の在り方について理解する。加齢に伴い筋力、全身持久力、柔軟性といった体力全般が低下する。諸体力低下と共に自立度が低下していく。そこで、介護予防の観点から運動・スポーツの在り方を理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。 定期試験の準備（２時間）
8	健康のための運動処方	目的に応じて適切なトレーニングを計画・実施すること、体力要素別に各種トレーニングについて理解する。また、安全に身体活動を実施する上で、留意すべき症状、疾患、状態、環境などを踏まえ、勧められる身体活動を理解し、推奨される身体活動の頻度、強度、時間、種類、活動量、漸進性すなわち運動処方(FITT-VP)を理解する。	事前に配布された資料に目を通し予習復習（4時間）する。 定期試験の準備（２時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	情報科学	科目ナンバー	
英語名	Information Science		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永井純也、中村敏明、宮崎 誠、角山香織、永田 誠		

授業の概要	本薬学部では、薬の専門家である薬剤師になるためのカリキュラムを提供するが、その中でも「情報」に関する知識、技能、態度の修得は重要な位置づけにある。医薬品のライフサイクルは、その開発過程から臨床使用にわたって様々なステップがあるが、そのステップの一つ一つにおいて、医薬品に関する膨大な情報が発生する。また、医薬品に関する情報は、人の生命に関わることからも、情報の収集、解析、評価に関する基本的取扱いなどの情報リテラシー基盤は、本薬学部の6年間のカリキュラムを通して確実に修得することが求められる。本講義では、医療や医薬品に関連する情報・デジタル技術の基礎的知識について学ぶとともに、未来社会として掲げられているSociety5.0における情報技術やデータサイエンスの方向性について概観できる構成とする。 本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムに含まれる。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬学部での学修活動や将来において必要となる情報リテラシーやデータサイエンスの概観を説明することができるようになるためである。
授業の方法	パワーポイント投影、板書およびプリントなどにより講義を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	レスポンやクリッカーなどにより、受講者と教員間で双方向的に行う機会を組み入れる。
成績評価	別途指示する課題によって成績評価を行う(100%)。定期試験は行わない。
試験・課題に対するフィードバック方法	受講者からの質問などに対して講義担当者などが回答を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	中村敏（薬剤師）・角山（薬剤師）／大学附属病院での薬剤師実務経験を活かし、臨床現場における様々な課題解決に必要な医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理について、具体的な模擬事例を通して技能を修得させる。 宮崎（企業等の研究者）／企業の研究開発部門での研究経験を活かし、医薬品開発で実際に行われているデータサイエンスを概説する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	『図解　医薬品情報学　改訂第5 版』　折井孝男　南山堂
参考書（書名・著者・出版社）	『情報リテラシー Windows11/Office2021対応』　ＦＯＭ出版 『情報倫理ハンドブック』　大石　博雄　noa出版 『Society(ソサエティ) 5.0 人間中心の超スマート社会』日立東大ラボ　日本経済新聞出版 『Newton別冊　ゼロからわかる人工知能 増補第2版』ニュートンプレス

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	情報リテラシーとデータサイエンス（永井純也）	薬学における情報リテラシーの概要 情報倫理	「授業の目的」の到達に必要な自主学習活動を必ず行い、どのような内容の授業を受講するのかのイメージを描いておくこと。事前学習2時間・事後学習2時間の合計4時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業回の授業内容を参考書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を自分でさらに調べる等を行い、受講内容等を理解し、第三者にその概要を説明できるようになることを目指す。
2	患者中心の薬物療法に役立つ薬学情報科学とは (野崎一徳)	薬学情報科学の進化、AIやデータ活用を重視した薬剤師教育の改訂、多職種連携での医療情報の流通と共有	「授業の目的」の到達に必要な自主学習活動を必ず行い、どのような内容の授業を受講するのかのイメージを描いておくこと。事前学習2時間・事後学習2時間の合計4時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業回の授業内容を参考書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を自分でさらに調べる等を行い、受講内容等を理解し、

			第三者にその概要を説明できるようになることを目指す。
3	医療用・一般用医薬品の添付文書（角山香織）	医薬品の最も基本的な情報源である医療用医薬品及び一般用医薬品の添付文書の記載項目について学修する。	事前学習1時間・事後学習2時間の合計3時間程度必要である。事前学習では、教科書の該当箇所を読み、医療用医薬品及び一般用医薬品の添付文書について予習しておく。事後学習については、授業中に示されたキーワードについて復習し、ノート等にまとめておく等とともに、授業の内容を振り返り、理解できたことと出来なかったことを明確にして、理解できなかったことは、質問に来るなどして解決するように努めること。
4	医療データベースの活用（浜田将太）	薬剤疫学、レセプトデータ、医療ビッグデータ、データサイエンス	「授業の目的」の到達に必要な自主学習活動を必ず行い、どのような内容の授業を受講するのかのイメージを描いておくこと。事前学習2時間・事後学習2時間の合計4時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業回の授業内容を参考書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を自分でさらに調べる等を行い、受講内容等を理解し、第三者にその概要を説明できるようになることを目指す。
5	（医療用）医薬品インタビューフォーム（中村敏明）	医薬品の最も基本的な情報源である添付文書を補完する医薬品インタビューフォームの特徴について学修する	事前学習1時間・事後学習2時間の合計3時間程度必要である。事前学習では、教科書の該当箇所を読み、医薬品インタビューフォームについて予習しておく。事後学習については、授業中に示されたキーワードについて復習し、ノート等にまとめておく等とともに、授業の内容を振り返り、理解できたことと出来なかったことを明確にして、理解できなかったことは、質問に来るなどして解決するように努めること。
6	創薬とDX(奥野恭史)	AI・シミュレーションを用いた創薬デジタルトランスフォーメーション	授業の目的」の到達に必要な自主学習活動を必ず行い、どのような内容の授業を受講するのかのイメージを描いておくこと。事前学習2時間・事後学習2時間の合計4時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業回の授業内容を参考書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を自分でさらに調べる等を行い、受講内容等を理解し、第三者にその概要を説明できるようになることを目指す。
7	Pharmacometrics（ファーマコメトリクス）(宮崎 誠)	医薬品開発や医療現場においてファーマコメトリクスが果たす役割について 関連のキーワード：モデリング&シミュレーション、赤池の情報量規準（AIC）、回帰分析、尤度、Monte Carlo法、ベイズ推論、個別化医療	予習：関連のキーワードについてGemini等の生成AIと自由に対話し、授業内容についておよそのイメージを掴んでおくこと（30分）。 復習：3時間ほどの復習の後、成果をForms課題に解答することで確認しておくこと。
8	記述統計学（永田 誠）	記述統計学における代表値 データの取り扱い上の注意点	「授業の目的」の到達に必要な自主学習活動を必ず行い、どのような内容の授業を受講するのかのイメージを描いておくこと。事前学習2時間・事後学習2時間の合計4時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業回の授業内容を参考書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を自分でさらに調べる等を行い、受講内容等を理解し、第三者にその概要を説明できるようになることを目指す。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	情報科学演習	科目ナンバー	
英語名	Information Science Practicum		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永井純也、中村敏明、宮崎 誠、宇佐美吉英、角山香織、永田 誠		

授業の概要	情報社会であるSociety 4.0をより融合かつ発展させた次世代コンセプトSociety 5.0が提唱され、医療現場においても技術革新に伴う診断や治療などに関連する業務のデジタル化・AI化が急速に進展している。また、そのような著しい変化に対応するためには、最新の知見を入手するとともに、多くの情報の中からより適切かつ正確な情報を選別し、必要に応じて適正に加工並びに処理することで、社会にあふれる情報を効果的に還元できる能力が求められる。 本演習では、コンピュータを利用した学習を進めていく上で不可欠な情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することを目的とする。本演習科目で身についた知識と技能は、本学での６年間における学びに盛り込まれているアクティブラーニングや学術活動といった能動的学習において必要な情報活用の基盤となるものと位置づけられる。 本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムに含まれる。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、情報社会の中で適正な判断をするために必要となる情報社会・情報科学に関する知識と技能を修得することで、大学における学び、ひいては生涯にわたって求められる学術活動を効果的に行うことができるようになるためである。
授業の方法	情報活用教育として、Windowsパソコンと関連機器を利用した個別演習とグループワークを行う。個別演習として、文書作成、データ処理と分析・グラフ描画、プレゼンテーションデータ作成、化学構造式作成などを行う。また、グループワークとしてレポート発表やプレゼンテーション発表の相互評価を行い、積極的、能動的な演習を行う。 入学以前の情報教育で修得した知識・技能は、個人差があるため、ＴＡ（ティーチングアシスタント）を教室内に配置する。
アクティブ・ラーニングの取組	提示された課題に対して作成したレポートについて学生グループ内で相互評価を行う（第3回）。文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながら作成したレポートに対してグループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえた改善を行う（第9回）。
成績評価	別途指示する課題によって成績評価を行う(100%)。定期試験は行わない。
試験・課題に対するフィードバック方法	授業内の課題のフィードバックは、翌回の授業時間内または、ポータルサイトにて行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	中村敏（薬剤師）・角山（薬剤師）／大学附属病院での薬剤師実務経験を活かし、臨床現場における様々な課題解決に必要な医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理について、具体的な模擬事例を通して技能を修得させる。 宮崎（企業等の研究者）／企業の研究開発部門での研究経験を活かし、医薬品開発の視点に立った指導を行う。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	『情報リテラシー Windows11/Office2021対応』　ＦＯＭ出版 『情報倫理ハンドブック』　大石　博雄　noa出版 『図解　医薬品情報学　改訂第5 版』　折井孝男　南山堂
参考書（書名・著者・出版社）	『初心者のためのWord2021』　ＦＯＭ出版 『初心者のためのExcel2021』　ＦＯＭ出版 『初心者のためのPowerPoint2021』　ＦＯＭ出版 『Newton別冊　ゼロからわかる人工知能 完全版』ニュートンプレス

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	イントロダクション クラウドコンピューティングと情報検索	本演習授業の概要と位置づけを説明する。 クラウドコンピューティングのサービスを利用して利点、問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識と技術を修得する。 大学図書館と様々なインターネット上の情報源について、学術情報の視点から理解すると共に目的に沿った情報検索に関する知識と技能を修得する	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
2	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成（１）	表題、見出し、図表、参考文献、校閲などを含む学術的な文書処理法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程

			度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと
3	アカデミックライティングを実現する構造的文書作成（2）	提示された課題に対して、より効果的なレポートを作成し、レポートを学生グループ内で相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを作成し、処理する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと
4	学術活動に必要なデータ処理と分析（1）	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、表の標準的な構成法、入力の検査、集計、クロス集計、整列などを表計算処理の技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
5	学術活動に必要なデータ処理と分析（2）	取得したデータを正確かつ適正に解析するために、集計・平均・最大・最少などの基本的な関数の設定、棒・折れ線・円グラフの描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
6	説明技術としてのプレゼンテーション（1）	タイトル、序論、本論、結論といった流れを意識した発表のアウトラインの作成や、発表内容を合わせ、文字での表現、また図解や表による文字以外での表現方法の知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
7	説明技術としてのプレゼンテーション（2）	聴衆を意識したスライドやポスターによる発表資料の作成方法や、作成したスライドやポスターを参照しながら、プレゼンテーションを効果的に実施するための知識を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
8	学術活動のための情報活用（1）	文献収集やICTを活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
9	学術活動のための情報活用（2）	文献収集やICTを活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を文書作成ソフトや表計算処理ソフトなどを統合的に駆使しながらレポートを作成し、グ	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事

		ループ内で客観的な相互評価を行い、フィードバックを踏まえ改善したものを提出する。課題を通じて、より効果的な課題解決能力を修得する。	前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
１０	化学構造式描画方法	化学構造式描画ソフトを使用し、基本操作を理解し、化学結合・元素記号などの描画方法を理解し、医薬品の化学構造式の描画に関する知識と技能を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
１１	医薬品情報に関する演習（1）	文献収集やICTを活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。
１２	医薬品情報に関する演習（2）	文献収集やICTを活用した情報収集を行うとともに、入手した情報を利用し、文書作成や表計算処理を駆使しながら、課題に関するレポートを作成する統合的な能力を修得する。	入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため到達目標に必要な自主学習活動を必ず行い、確実に理解すること。事前学習1時間・事後学習1時間の合計2時間程度必要である。なお、事前学習については当該授業内容に関連する項目を教科書やインターネット等であらかじめ調べておくこと。また、事後学習については授業で学習した内容を再度実践する等を行い、確実に演習内容等を身につけるようにしておくこと。

科目名	アカデミックスキル	科目ナンバー	
英語名	Academic Skills		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	佐藤・宮崎・竹本・長谷井・土屋・山沖・羽田・田中早織		

授業の概要	大学あるいはその後の社会において必要な能力は多様であり、講義で知識を修得することだけでは身に付かない。主体的かつ積極的に学び、課題解決能力を身に付ける必要がある。本講座では個人作業やグループワークを通じて、今後の大学での学びをより実りのあるものにするため、このような学びに対する基本的な姿勢や必要なスキルを概観し、それを修得する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、大学あるいはその後の社会において必要な「様々な状況において主体的・積極的に課題を見出し、関連した情報を調べ、その情報を課題の解決に活かし、他者と協働して課題を解決すること」ができるように、その基本的なスキルを身に付けるためである。
授業の方法	SDGsを題材に、個人ワークとしてSDGsの17の目標から一つを選びその課題を抽出・収集・整理する。グループワークとして 個人で見出した課題をグループでシェアしたうえで、グループの課題を決定し、その問題点を抽出・収集・整理する。課題の解決策をグループで討議・決定する。それらをクラスでシェアする。グループごとに最終の発表に向けて内容の深化と発表資料の準備を進める。最後の回にグループごとに発表を行う。また、授業ごとに、次回以降の自身の成長に繋げるための「振り返り」を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	毎回、グループ討議、グループでの協働作業、クラスシェア、リフレクションを行う。
成績評価	各講に提出を求める振り返りシートの内容（50%）、グループワークのピア評価（別途提示するルーブリック評価表に基づいて行う、15%）、プレゼンテーションのピア評価（別途提示するルーブリック評価表に基づいて行う、15%）、プレゼンテーションの教員評価（別途提示するルーブリック評価表に基づいて行う、20%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	課題に関する評価・採点に関して、開示・解説する。また、ピア評価の内容は各人に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさも守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	『Academic Skill（課題設定・課題解決 BOOK）』・ベネッセ i-キャリア
参考書（書名・著者・出版社）	学校法人 大阪医科薬科大学　社会貢献・SDGsホームページ；https://www.omp.ac.jp/sdgs/ 学校法人 大阪医科薬科大学・SDGs　第３回ＳＤＧｓセミナー：https://www.omp.ac.jp/sdgs/video/index-221213.html

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	授業ガイダンス アイスブレーク	グループワークの基礎となる事項を学ぶ。 講座の目的を理解し、他者との協働作業を行うのに必要な事項を体験する。	事前学習は不要。 事後学習は不要。
2	大学での学びに必要なスキルを考える ロジカルライティングとは	自らの考えを論理的に表現し、大学での学びに必要なスキルとは何かをグルー プでディスカッションしながら、自分たちで考える。 それはどのように大学時代に磨くことができるかを考え、現在の自分自身の強みや課題を明確にする。また、伝わりやすいレポート、プレゼンテーションの基本となるロジカルライティングの型を学ぶ。	事前学習は不要。 事後学習　1.5時間程度；今回のディスカッションを踏まえ、自身に不足しているスキルや伸ばしたいスキルに関してのロジカルライティング・ シートを完成させる。
3	チームビルディング プレゼンテーションに向けた課題の共有	チームビルディングとは何かを学ぶ。事前学習で準備したロジカルライティング・シートを基に、チームで取り組むSDGsの目標を選定するプレゼンテーションに向けて、現状におけるテーマに関する情報の共有と今後調べるべき内容、役割分担を明確化する。	事前学習　2.5時間程度；SDGsの17の目標から一つを選びその課題を抽出・収集・整理するた めのロジカルライティング・シートを作成する。 参考書に挙げた、本学の社会貢献・SDGsホーム ページにあるサステナビリティ活動冊子を読み、セミナー動画を視聴しておく。

			事後学習（次回の事前学習を兼ねる） 2 時間程度：テーマに沿った課題についてのロジカルラ イティング・シートを完成させる。書籍、インターネット等で課題に関する情報を収集し、分析してみる。
4	クリティカルシンキング グループで検討するテー マと解決へ向けての大筋の確定	クリティカルシンキング（批判的思考）とは何かを学ぶ。 議論を正確に把握する、表れていない考えに着目する、根拠自体が妥当かを確認するといった３つのクリティカルシンキングの基本を意識しながら、 今後の進め方を確認しプレゼンテーションにおける主張の方向性を確定する（ただし、今後の議論によっては、変更も可）。	事前学習（前回の事後学習を兼ねる）1.5時間程度；テーマに沿った課題を深めたロジカルライティング・シートを完成させ、書籍、インターネット等で課題に関する情報を収集し、分析してみる。グループ内での役割分担に応じて、各自、情報 収集、分析を行っておく。 事後学習（次回の事前学習を兼ねる） 2 時間程度：今回学んだクリティカルシンキングやグループのディスカッションに基づいて、さらなる情報を収集し、より深い分析を行う。
5	プレゼンテーション(1) 中間発表のための準備	課題に関する内容や構成を考え、中間発表に向けての準備を行う。	事前学習　1 時間程度：課題に関して必要な情報収集・ 分析を行う。 事後学習　1 時間程度：内容・構成に関する確認をする。
6	プレゼンテーション(2) 中間発表	課題に関する内容や構成を考える。グループ討論やクラスシェアにより、他者を意識したプレゼンテーションをイメージする。	事前学習　1 時間程度：課題に関して必要な情報収集・ 分析を行う。 事後学習　1 時間程度：内容・構成に関する確認をする。
7	プレゼンテーション(3) 最終発表の準備	プレゼンテーション用の資料を作成する。また、発表資料の作成について確認することで、他者への情報伝達について考える。	事前学習　1 時間程度：課題に関して必要な情報収集・ 分析を行う。 事後学習　1 時間程度：内容・構成に関する確認をする。
8	プレゼンテーション(4) 最終発表	実際に最終のプレゼンテーションを行う。その評価を通して、傾聴の姿勢、メモを取る力などを鍛える。 また、他者を評価することで、学習の本質に触れる。	事前学習　2 時間程度：発表資料およびプレゼンテーションの内容の確認を行う。 事後学習　2 時間程度：本講座全体を通じての振り返り（要提出）の作成を行う。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	スポーツ・運動	科目ナンバー	
英語名	Physical Education		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	当麻・＊宮田・＊橋口・＊門川		

授業の概要	生活に運動習慣を定着させることの大切さを知るとともに、運動・スポーツは人と人をつなぐコミュニケーションツールにもなることを理解する。身体を定期的に動かすことは心身の健康度を高めることに繋がる事、および身体の不活動がいかに健康度を低下させているかを学ぶ。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、基礎体力向上と実施される種目の技能向上およびコミュニケーション能力の向上であり得られた経験を基に生涯にわたり運動習慣を身につけ活用することである。
授業の方法	学内の施設（体育館、体育館2階、テニスコート、グランド）にて実施。授業内で前半に体力測定および基礎体力向上のための運動を行う。後半は各施設で各種種目（個人種目及びチーム種目）を行う。各グループ（４グループに班別）は、施設を週毎にローテーションする。雨天時は施設、種目を変更することがある。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	身体活動量の確保、実技技能の向上(円滑に試合を進行できる技能)（70％）、コミュニケーションの度合い、マナー、助け合い、礼節の実践（30％）
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者には評価を開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を
教科書（書名・著者・出版社）	なし
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	【前半】オリエンテーション、基礎体力向上のための運動および体力測定実施。 【後半】各種種目（個人種目、チーム種目）実施。 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	身体運動を行う上での諸注意と施設使用について説明。体力測定を行い現在の体力水準を知る。測定データにより課題を発見し運動への理解、実施する。基礎体力向上のための運動を行い、けが予防と今後行われるスポーツ・運動種目に備える。	体力測定の各種目について理解（４時間） 睡眠時間の確保（８時間）
2	体力測定、個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】体力測定、基礎体力向上のための運動。 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	体力測定の各種目について理解（４時間） 睡眠時間の確保（８時間）
3	体力測定、個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】体力測定、基礎体力向上のための運動。 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	体力測定の各種目について理解（４時間） 睡眠時間の確保（８時間）
4	個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】基礎体力向上のための運動。筋力向上 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	実施予定種目の予習復習（4時間）、睡眠時間の確保（８時間）
5	個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】基礎体力向上のための運動。柔軟性向上 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	実施予定種目の予習復習（4時間）、睡眠時間の確保（８時間）
6	個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】基礎体力向上のための運動。敏捷性向上 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	実施予定種目の予習復習（4時間）、睡眠時間の確保（８時間）

7	個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】基礎体力向上のための運動。全身持久力向上 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	実施予定種目の予習復習（4時間）、睡眠時間の確保（８時間）
8	個人種目、チーム種目 （当麻成人、宮田真希、橋口雅美、門川裕美）	【前半】基礎体力向上のための運動。バランス能力向上 【後半】各種種目（各種目において基礎的技術の解説・実践及びゲーム）実施。	実施予定種目の予習復習（4時間）、睡眠時間の確保（８時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	物理学	科目ナンバー	
英語名	Physics		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	竹本		

授業の概要	力学分野で、巨視的な視点での物理法則を学習し、身の回りの現象を物理的に理解していきます。電磁気学分野では電場と磁場の概念を学習し、電磁波の導入を行います。また、波動分野では波の記述方法や干渉などの現象を学び、微視的視点（原子や分子）で自然を理解するための基礎知識を身に付けます。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	物理学は身の回りの様々な自然現象を取り扱う学問です。この授業では、自然を理解する上で大切な物理的なものの見方や考え方を養い、薬学を学ぶ上で必要となる素地を身に付けることを目標とします。
授業の方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験（80%）と毎回の授業の確認テスト（20%）。なお、定期試験には「物理学演習」の内容が含まれます。
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者に開示します。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさも守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	「基礎講義　物理学」井上英史監修（東京化学同人）
参考書（書名・著者・出版社）	「高校物理再入門」吉田伸夫著（技術評論社）、「物理基礎」「物理」（高校の教科書）

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	運動の記述とニュートンの運動の法則	運動の記述方法とニュートンの運動の法則について	予習：「ニュートンの運動の法則」についての動画の視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）
2	力学的エネルギーと仕事	仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について	予習：「力学的エネルギー」についての動画の視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
3	運動量と力積	運動量と力積、運動量保存則について	予習：「運動量」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
4	角運動量	角運動量と力のモーメント、角運動量保存則について	予習：「角運動量」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）
5	電場と磁場	電場と電位、電流と磁場、電磁誘導について	予習：「電場と磁場」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。

6	波の記述と波の重ね合わせ	波の記述方法と波の干渉について	予習：「波の記述と重ね合わせ」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
7	定常波と量子	定常波と量子の性質について	予習：「粒子性と波動性」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）
8	波の屈折と反射	波の屈折と反射、光の分散について	予習：「波の屈折と反射」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学演習の内容と合わせて、演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	物理学演習	科目ナンバー	
英語名	Exercises in Physics		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	竹本		

授業の概要	力学分野で、巨視的な視点での物理法則を学習し、身の回りの現象を物理的に理解していきます。電磁気学分野では電場と磁場の概念を学習し、電磁波の導入を行います。また、波動分野では波の記述方法や干渉などの現象を学び、微視的視点（原子や分子）で自然を理解するための基礎知識を身に付けます。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	物理学は身の回りの様々な自然現象を取り扱う学問です。この授業では、自然を理解する上で大切な物理的なものの見方や考え方を養い、薬学を学ぶ上で必要となる素地を身に付けることを目標とします。
授業の方法	物理学の内容に関する演習問題を解き、その応用について解説します。
アクティブ・ラーニングの取組	FORMSを用いた双方向授業。
成績評価	授業毎に課される演習問題（100%）。
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者に開示します。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロ／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさも守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	「基礎講義　物理学」井上英史監修（東京化学同人）
参考書（書名・著者・出版社）	「高校物理再入門」吉田伸夫著（技術評論社）、「物理基礎」「物理」（高校の教科書）

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	ニュートンの運動の法則に関する演習	水素原子の古典的な模型について	予習：ニュートンの運動の法則についての動画の視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
2	力学的エネルギーと仕事に関する演習	水素原子のイオン化エネルギーについて	予習：力学的エネルギーについての動画の視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
3	運動量保存則に関する演習	弾性衝突と非弾性衝突について	予習：運動量についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
4	角運動量に関する演習	剛体の運動について	予習：角運動量についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）
5	電場と磁場に関する演習	ローレンツ力と電場・磁場中の荷電粒子の運動について	予習：電場と磁場についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
6	光の干渉に関する演習	回折格子とX線回折について	予習：波の干渉についての動画視聴（１時間）。

			復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
7	ボーア模型に関する演習	光と原子について	予習：前期量子論についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
8	光の屈折に関する演習	光の屈折と散乱について	予習：「反射と屈折」についての動画視聴（１時間）。 復習：物理学の内容の確認と演習問題を定期テストまでに行う（３時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	化学	科目ナンバー	
英語名	Chemistry		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	佐藤・山田・尹・箕浦・浅野・平田雅彦・山沖・藤嶽・米山		

授業の概要	化学は、私たちの実生活と密接に結びついているのみならず、私たち一人ひとりの生命活動とも深い関係を持っています。また、皆さんが学ぼうとしている「くすり」の多くも、典型的な化学物質といってよいでしょう。化学の基礎知識が十分でなければ、これから学ぶ大学での薬学系諸学問を理解することはきわめて困難でしょう。そこで、化学演習と連携して、その基礎となる物質の構造、性質や、その相互作用などに関して学びます。まず、「原子や分子の構造と性質」、化学計算の基礎となる「単位や有効数字」、「物質量と化学量論」、「溶液と濃度」、「酸・塩基」、「化学平衡」、「pH」、「酸化還元」などについての基礎知識の修得を目指します。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、高校の化学と大学の化学系科目との橋渡しとして、基礎的な化学の知識を身につけ、それをこれから学ぶ薬学系諸学問の理解に活かすことができるようになるためである。
授業の方法	講義資料を用いて、講義形式で授業を行い、適宜演習も行う。
アクティブ・ラーニングの取組	個人演習、クラスシェアを行う
成績評価	定期試験結果（再試験においては再試験結果）（８０％）、小テスト等の試験結果（２０％）により評価する。なお、本科目の定期試験の出題内容には「化学演習」で学習する事項も含まれる。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案および小テスト答案は希望者に開示し、必要に応じて解説を実施する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう
教科書（書名・著者・出版社）	『これでわかる化学演習』・矢野潤 他・三共出版
参考書（書名・著者・出版社）	『薬学の基礎としての化学　Ⅰ定量的取扱い』・日本薬学会編・東京化学同人

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	化学の基礎、原子の構造、化学結合、分子の極性、 分子間力	物質の構成、原子の構造、原子軌道、原子の電子配置、化学結合とその種類、分子の極性、分子間に働く力	物質の構成、原子の構造、原子軌道、原子の電子配置、化学結合とその種類、分子の極性、分子間に働く力について予習（１時間）し、これら項目を十分に理解できるように復習（２時間）する。
2	単位、有効数字、物質量と化学量論	SI単位系、有効数字、物質量、原子量、分子量、式量と化学反応式	SI単位系、有効数字について予習（30分）し、 計算結果を適切な有効数字で表せるように復習 （１時間）する。また、物質量、原子量、分子量、式量と化学反応式について予習（30分）し、これらに関する計算ができるように復習（１時間）する。
3	溶液と濃度	溶液の濃度の様々な表し方	各種濃度の表し方について予習（１時間）し、濃度計算ができるように復習（２時間）する。
4	酸と塩基	酸と塩基、水素イオン濃度、中和	酸と塩基、水素イオン濃度、中和について予習 （１時間）し、これら項目を十分に理解できるように復習（２時間）する。
5	化学平衡	一般的な化学平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡	一般的な化学平衡および弱酸・弱塩基の電離平衡について予習 （１時間）し、化学平衡に関する計算ができるように復習（２時間）する。

6	溶液のpH-1	種々の溶液、緩衝液のpH	種々の溶液、緩衝液のpHについて予習（１時間）し、これら溶液のpHを計算で求めることがで きるように復習（２時間）する。
7	溶液のpH-2	種々の溶液、緩衝液のpH	種々の溶液、緩衝液のpHについて予習（１時間）し、これら溶液のpHを計算で求めることがで きるように復習（２時間）する。
8	酸化と還元	酸化と還元、酸化剤と還元剤の強さ、酸化還元反応式	酸化と還元、酸化剤と還元剤の強さ、酸化還元 反応について予習（１時間）し、酸化還元に関する計算ができるように復習（２時間）する。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	化学演習	科目ナンバー	
英語名	Exercises in Chemistry		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	佐藤・山田・尹・箕浦・浅野・平田雅彦・山沖・藤嶽・米山		

授業の概要	化学においては知識をもっているだけでは意味がなく、これから学ぶ大学での薬学系諸学問に対応するためには応用できなければ意味がない。そこで、化学で学んだ知識を用いてそれを応用するための演習を行う。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、高校の化学と大学の化学系科目との橋渡しとして、基礎的な化学の知識の応用力を身につけ、それをこれから学ぶ薬学系諸学問で活かすことができるようになるためである。
授業の方法	主に演習とその解説からなる授業を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	個人演習、クラスシェアを行う
成績評価	各回に行う課題により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	課題の評価の結果は希望者に開示し、必要に応じて解説を実施する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう
教科書（書名・著者・出版社）	『これでわかる化学演習』・矢野潤 他・三共出版
参考書（書名・著者・出版社）	『薬学の基礎としての化学　Ⅰ定量的取扱い』・日本薬学会編・東京化学同人

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	化学の基礎、原子の構造、化学結合、分子の極性、 分子間力	物質の構成、原子の構造、原子軌道、原子の電子配置、化学結合とその種類、分子の極性、分子間に働く力についての演習を行う	物質の構成、原子の構造、原子軌道、原子の電子配置、化学結合とその種類、分子の極性、分子間に働く力について予習（１時間）し、これら項目を十分に理解できるように復習（２時間）する。
2	単位、有効数字、物質量と化学量論	SI単位系、有効数字、物質量、原子量、分子量、式量と化学反応式についての演習を行う	SI単位系、有効数字について予習（30分）し、 計算結果を適切な有効数字で表せるように復習 （１時間）する。また、物質量、原子量、分子量、式量と化学反応式について予習（30分）し、これらに関する計算ができるように復習（１時間）する。
3	溶液と濃度	溶液の濃度の様々な表し方についての演習を行う。	各種濃度の表し方について予習（１時間）し、濃度計算ができるように復習（２時間）する。
4	酸と塩基	酸と塩基、水素イオン濃度、中和についての演習を行う	酸と塩基、水素イオン濃度、中和について予習 （１時間）し、これら項目を十分に理解できるように復習（２時間）する。
5	化学平衡	一般的な化学平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡についての演習を行う	一般的な化学平衡および弱酸・弱塩基の電離平衡について予習 （１時間）し、化学平衡に関する計算ができるように復習（２時間）する。
6	溶液のpH-1	種々の溶液、緩衝液のpHについての演習を行う	種々の溶液、緩衝液のpHについて予習（１時間） し、これら溶液のpHを計算で求めることができるように復習（２時間）する。
7	溶液のpH-2	種々の溶液、緩衝液のpHについての演習を行う	種々の溶液、緩衝液のpHについて予習（１時間）し、これら溶液のpHを計算で求めること

			ができるように復習（２時間）する。
8	酸化と還元	酸化と還元、酸化剤と還元剤の強さ、酸化還元反応式についての演習を行う	酸化と還元、酸化剤と還元剤の強さ、酸化還元 反応について予習（１時間）し、酸化還元に関す る計算ができるように復習（２時間）する。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	生物学	科目ナンバー	
英語名	Biology		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	坂口		

授業の概要	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎的な内容として、特に生命体の最小単位である細胞と生命現象を担う分子の構造や機能について学ぶ。高校で生物を履修していない学生にも理解できるように基本的な内容を解説する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、薬学を学ぶ上で必要な生物学の内容として、特に生命体の最小単位である細胞と生命現象を担う分子の構造や機能の基礎的な知識を修得するためである。
授業の方法	教科書を中心に、補助的にプリントも使用して講義形式で行う。必要に応じて、スライド・ビデオ等の補助教材を利用して解説する。準備学習（予習・復習）に利用できるように演習問題を配付する。
アクティブ・ラーニングの取組	上記の演習問題は、既に学習した内容だけでなく、まだ習っていない講義の内容も含んでおり、予習として自ら取り組んで理解できない部分を明確にして、授業内で復習あるいは質問することで理解を深める習慣を身につける。並行して行う生物学演習を通して、自学自修できる能力を養う。
成績評価	定期試験（100%）
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者に試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。配付する演習問題および課題の解答例は公開する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『FUNDAMENTAL 細胞生物学』第2版　坂口 実（京都廣川書店）
参考書（書名・著者・出版社）	『やさしい基礎生物学』　南雲 保（羊土社） 『Essential細胞生物学 原書第5版』・(監訳) 中村桂子/松原謙一/榊佳之/水島昇・南江堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	概論 細胞の構造と機能（１）	多細胞生物である高等動物の成り立ちについて 細胞小器官の構造と機能について	予習：教科書の第1章と第2章（2-1、2-2）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行う（2時間）
2	細胞の構造と機能（２）	細胞膜の構造と機能について 細胞骨格と細胞間接着の構造と機能について	予習：教科書の第2章（2-3、2-4）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
3	生体を構成する分子（タンパク質・アミノ酸）	アミノ酸とタンパク質の構造と機能について	予習：教科書の第3章（3-1、3-2）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
4	生体を構成する分子（核酸）	核酸の種類、構造、性質、機能について	予習：教科書の第3章（3-3）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
5	生体を構成する分子（糖質・脂質）	糖質と脂質の種類、構造、性質、役割について	予習：教科書の第3章（3-4、3-5）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）

6	生体内の反応（酵素）	酵素やその反応機構の概要について	予習：教科書の第4章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
7	代謝とエネルギー	生体エネルギーと生命活動の概要について	予習：教科書の第5章（5-1～5-8）を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
8	生命を支配する遺伝子（１）	遺伝子の構造と機能および複製について	予習：教科書の第6章と第7章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
9	生命を支配する遺伝子（２）	遺伝子の発現（転写、翻訳）について	予習：教科書の第8章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１０	がんーDNAの損傷・修復・変異	正常細胞とがん細胞の違いについて 遺伝子の損傷とその修復機構について 遺伝子の変異について	予習：教科書の第10章と第13章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１１	発生と分化（細胞分裂、細胞周期、細胞死）	体細胞分裂とその制御機構および細胞死について	予習：教科書の第11章と第12章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１２	発生と分化（生殖、受精、器官や個体の形成）	生殖細胞の減数分裂、受精、発生過程について	予習：教科書の第14章、第16章および第17章を読んでおくこと（2時間） 復習：講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題を見直して理解を深める（2時間）

科目名	生物学演習	科目ナンバー	
英語名	Exercises in Biology		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	坂口・宮本・藤井・土屋・小池		

授業の概要	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎を理解するために、基本的な内容の演習問題に取り組む。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本演習の目的は、予習として演習問題に取り組み、不明な点や理解できなかった内容について理解を深め、薬学を学ぶ上で必要な生物学の基本的知識を修得するためである、
授業の方法	生物学の授業に関連した演習問題を宿題や課題として事前に配付し、本演習の時間中に行う解説を通じて復習あるいは質問することで理解を深める。本演習期間中、理解度確認テストを複数回実施する。
アクティブ・ラーニングの取組	配付する演習問題は、既に学習した内容だけでなく、まだ習っていない講義の内容も含んでおり、予習として演習問題に取り組んで、理解できない部分を明確にする。演習授業内で復習あるいは質問することで理解を深める習慣を身につけることを経験し、自学自修できる能力を習得する。生物学の授業内容と並行して進める。
成績評価	Forms等で配付する課題（演習問題）への取り組み（課題への回答回数とその内容）（40%）と理解度確認テストの成績（60%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	配付する演習問題や課題の解答例は公開し、重要ポイントの解説や誤解についてコメントし、ユニークな、あるいはよくできた解答に関しては対象学生全員に紹介する。理解度確認テストの解説を行い、希望者には答案を開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『FUNDAMENTAL 細胞生物学』第2版　坂口 実（京都廣川書店）
参考書（書名・著者・出版社）	『やさしい基礎生物学』　南雲 保（羊土社） 『Essential細胞生物学 原書第5版』・(監訳) 中村桂子/松原謙一/榊佳之/水島昇・南江堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	概論　細胞の構造と機能（１）	多細胞生物を構成する細胞に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第1章と第2章（2-1、2-2）を読んでおくこと（2時間） 復習：1回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行うとともに、演習問題に取り組む（2時間）
2	細胞の構造と機能（２）生体膜	細胞小器官の構造と機能に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める １回目と２回目の内容の理解度確認テストを行う	予習：教科書の第1章と第2章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：１回目と２回目の生物学の講義資料や教科書を参考に、講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
3	生体を構成する分子（タンパク質・アミノ酸）	タンパク質（アミノ酸）の構造と機能に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第3章（3-1、3-2）に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：3回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
4	生体を構成する分子（核酸）	核酸の種類、構造、性質、機能に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第3章（3-3）に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：４回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
5	生体を構成する分子（糖質・脂質）	糖質と脂質の種類、構造、性質、役割に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める 3回目~5回目の内容の理解度確認テストを行う	予習：教科書の第3章（3-4、3-5）に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：3回目~5回目の生物学の講義資料や教

			科書を参考に、講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
6	生体内の反応（酵素）	酵素やその反応機構に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第4章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：６回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
7	代謝とエネルギー	生体エネルギーと生命活動に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める ６回目と7回目の内容の理解度確認テストを行う	予習：教科書の第5章（5-1～5-8）に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：６回目と7回目の生物学の講義資料や教科書を参考に、講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
8	生命を支配する遺伝子（１）	遺伝子の構造と機能および複製に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第6章と第7章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：８回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
9	生命を支配する遺伝子（２）	遺伝子の発現（転写、翻訳）に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第8章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：９回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１０	がんーDNAの損傷・修復・変異	正常細胞とがん細胞の違い、遺伝子の損傷とその修復機構、遺伝子の変異に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める ８回目～10回目の内容の理解度確認テストを行う	予習：教科書の第10章と第13章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：8回目～10回目の生物学の講義資料や教科書を参考に、講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１１	発生と分化（細胞分裂、細胞周期、細胞死）	体細胞分裂とその制御機構および細胞死に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める	予習：教科書の第11章と第12章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：11回目の生物学の講義資料や教科書を参考に講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）
１２	発生と分化（生殖、受精、器官や個体の形成）	生殖細胞の減数分裂、受精、発生過程に関連した演習を行い、内容の確認と理解を深める 11回目と12回目の内容の理解度確認テストを行う	予習：教科書の第14章、第16章および第17章に関連した演習問題に取り組んでおく（2時間） 復習：11回目と12回目の生物学の講義資料や教科書を参考に、講義内容の振り返りを行い、演習問題を見直して理解を深める（2時間）

科目名	数学１	科目ナンバー	
英語名	Mathematics 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永田		

授業の概要	自然科学は数学を用いて理解、考察、表現されています。すなわち、数学は自然科学における言語の役割を担っており、薬学を学ぶ上でリテラシーとして不可欠な科目です。「数学１」は微分の基礎を中心に学習します。言語としての数学には「慣れ」が必要です。積極的に手を動かして、つまり演習問題を数多く解くことによって、数学を身につけてください。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬学部での学修活動や将来において必要となる数学に関する基本的知識を習得し、大学における学び、ひいては生涯にわたって求められる学術その他の活動を数理的に理解することができるようになるためである。
授業の方法	配布資料(プリント)やスライド等を用いて、講義形式で行う。リアクションペーパー等でレスポン等を利用する場合がある。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	課題30%と定期試験70%で評価する。なお、本科目の定期試験の出題内容には「数学演習」で学習する事項も含まれる。
試験・課題に対するフィードバック方法	定期試験の問題と解答例を開示する。定期試験の答案を希望者に開示する。課題の評価を希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう
教科書（書名・著者・出版社）	『薬学のための微分と積分』・土井勝・日科技連出版社
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	基礎的な概念の復習、初等関数	関数の概念と初等関数	教科書のまえがきと目次から関連事項を調べておき(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、授業で学習した教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
2	関数の極限、連続	関数の極限、連続	教科書p.27-32を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
3	中間値の定理、合成関数、逆関数	様々な関数の基本概念	教科書p.33-43を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
4	微分の諸定義と基本的な性質	微分の概念	教科書p.45-52を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
5	合成関数、逆関数、媒介変数表示の微分	様々な微分の公式	教科書p.53-61を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
6	初等関数の微分	初等関数の微分	教科書p.62-67を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
7	高階微分の定義、ライプニッツの公式	高階微分の概念	教科書p.68-75を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
8	関数の増減と極値、グラフの概形	関数の増減と極値の概念	教科書p.95-106を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例

			題と演習問題を解く(復習2時間)。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	数学演習	科目ナンバー	
英語名	Exercises in Mathematics		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永田		

授業の概要	「数学演習」は微分の応用及び多変数関数を中心に学習します。微分の応用であるテーラー展開や多項式近似、及び多変数関数や陰関数等は薬学を学ぶ上で基本的な概念です。「数学１」と同様，演習問題を数多く解くことによって数学を身につけてください。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬学部での学修活動や将来において必要となる数学に関する基本的知識を習得し、大学における学び、ひいては生涯にわたって求められる学術その他の活動を数理的に理解することができるようになるためである。
授業の方法	配布資料(プリント)やスライド等を用いて、講義形式で行う。リアクションペーパー等でレスポン等を利用する場合がある。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	授業内課題30%とレポート課題70%で評価する。但し、レポート課題は「数学1」の内容も含む。
試験・課題に対するフィードバック方法	レポート課題、授業内課題の評価を希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう
教科書（書名・著者・出版社）	『薬学のための微分と積分』・土井勝・日科技連出版社
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	平均値の定理、ロピタルの定理	平均値の定理、ロピタルの定理	教科書p.77-83を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
2	テーラーの定理	テーラーの定理、多項式近似	教科書p.84-87、p.91-94を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
3	テーラー展開とその応用	テーラー展開とマクローリン展開、オイラーの公式	教科書p.88-90を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
4	多変数関数の定義、極限、連続	多変数関数の諸概念	教科書p.106-115を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)
5	偏微分の諸定義、偏微分の計算	偏微分の概念	教科書p.116-118を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
6	接平面と全微分可能、全微分	接平面、全微分の概念	教科書p.119-125を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
7	合成関数の偏微分、陰関数	偏微分の公式、陰関数の概念	教科書p.126-133を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
8	微分学のまとめ	微分学のまとめ	数学１及び本科目で学んだ内容を改めて見直し（予習2時間)、配付資料やノートで復習

			し、学んだ内容を総括する（復習2時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	数学２	科目ナンバー	
英語名	Mathematics 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	永田		

授業の概要	「数学２」では積分及び微分方程式を中心に学習します。積分は数学の基本的手段であり応用上重要です。また微分方程式は薬学を学ぶ上で必須なものの一つであり、ある意味で基礎科目としての数学のゴールといえるでしょう。積分や微分方程式にはいわゆる解法があります。それらを使いこなせるよう演習問題を数多く解くことによって理解を深めてください。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬学部での学修活動や将来において必要となる数学に関する基本的知識を習得し、大学における学び、ひいては生涯にわたって求められる学術その他の活動を数理的に理解することができるようになるためである。
授業の方法	配布資料(プリント)やスライド等を用いて、講義形式で行う。リアクションペーパー等でレスポン等を利用する場合がある。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	課題30%と定期試験70%で評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	定期試験の問題と解答例を開示する。定期試験の答案を希望者に開示する。課題の評価を希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう
教科書（書名・著者・出版社）	『薬学のための微分と積分』・土井勝・日科技連出版社
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	原始関数とその基本性質	不定積分の概念	教科書p.155-159を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
2	置換積分法、部分積分法、有理関数の積分	不定積分の公式	教科書p.160-167を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
3	定積分の定義、基本定理	定積分の概念	教科書p.173-180を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
4	定積分の応用	定積分の応用	教科書p.181-192を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
5	微分方程式の諸定義	微分方程式の基本概念	教科書p.193-203を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
6	変数分離形、一階線形微分方程式	基本的な微分方程式	教科書p.204-208、 p.221-224を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
7	薬学領域での微分方程式の応用	薬学領域での微分方程式の基本的な応用	教科書p.209-211、 p.224-227を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。

8	薬学領域での微分方程式の話題	薬学領域での微分方程式の基本的な話題	教科書p.215-217を精読し(予習2時間)、配付資料やノートで復習し、教科書の該当場所の例題と演習問題を解く(復習2時間)。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学英語１	科目ナンバー	
英語名	English for Pharmaceutical Sciences 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	天ヶ瀬・＊岩田・＊井上・＊藤本・＊松岡		

授業の概要	本科目では基本的な医療用語を覚え、医療系の文章を読み解いていく中で、高校までに学習した英文法を復習し、英語の構文を使って基本的な英文が書けるように演習を行う。また、適切な英語の句読法を学ぶ。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬剤師として卒業時に必要な英語力を身につけるための基礎固めとして、特にリーディングとライティングのスキルを養い、活用することができるようになるためである。
授業の方法	授業は、講義と演習を組み合わせて展開する。
アクティブ・ラーニングの取組	演習では、ペア・グループワークなどを取り入れる。
成績評価	1. 課題提出・授業内での課題（30%） 2. Basic Terms 小テスト（30%） 3. 単語まとめテスト(10%) 4. 教科書 筆記試験（30%） ※ 課題提出など締め切り厳守
試験・課題に対するフィードバック方法	課題や小テストは、授業内にフィードバックを行う。教科書筆記試験は希望者には個別に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	なし
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『はじめての薬学英語』　野口ジュディー他・講談社 Medical Terminology Level 1, Basic Terms　（語彙学習アプリ）（使用上の注意などを第1回の講義中に説明するので、それまでダウンロードはしないでください。）　天ヶ瀬葉子 他・丸善雄松堂/デンショク
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	オリエンテーション Basic termsの学習① 教科書 Unit 1 ①	学習方法の説明 Basic terms Unit 1病態（１）一般、程度を表す用語の学習 教科書：Unit 1子供の食習慣に関する文章を読み解く	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
2	Basic termsの学習② 教科書 Unit 1 ②	Basic terms Unit 1 Quiz Basic terms Unit 2病態（２）所見、内科、感染症などの用語の学習 教科書：Unit 1の練習問題に取り組む	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
3	Basic termsの学習③ 教科書 Unit 3 ①	Basic terms Unit 2 Quiz Basic terms Unit 3病態（３）眼科、耳鼻咽喉科などの用語の学習 教科書：Unit 3 サプリメントの説明文を読み解く	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
4	Basic termsの学習④ 教科書 Unit 3 ②	Basic terms Unit 3 Quiz Basic terms Unit 4病態（４）精神科、脳・神経などの用語の学習 教科書 Unit 3 の練習問題に取り組む	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
5	Basic termsの学習⑤ 教科書 Unit 3 ③	Basic terms Unit 4 Quiz Basic terms Unit 5 病院関係（１）一般、問診などの表現の学習 教科書 Unit 3 Applying what you learned に取り組む	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
6	Basic termsの学習⑥ 教科書 Unit 9 ①	Basic terms Unit 5 Quiz Basic terms Unit 6病院関係（２）場所、医療行為な	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分

		どの表現の学習 教科書 Unit 9　化粧品と医薬品の違いの説明文を読み解く	
7	Basic termsの学習⑦ 教科書 Unit 9 ②	Basic terms Unit 6 Quiz Basic terms Unit 7身体（１）体の部位表現の学習 教科書 Unit 9 の練習問題に取り組む	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
8	Basic termsの学習⑧ 教科書 Unit 10 ①	Basic terms Unit 7Quiz Basic terms Unit 8-9の学習 教科書 Unit 10 看取りをする猫の話を読み解く①	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
9	Basic termsの学習⑨ 教科書 Unit 10 ②	Basic terms Unit 8-9 Quiz Basic terms Unit 10の学習 教科書 Unit 10　看取りをする猫の話を読み解く②	Basic terms の学習 60分 教科書の予習・復習 60分
１０	Basic termの学習⑩ 教科書 Unit 10 ③	Basic terms Unit 10 Quiz Basic terms Unit 11の学習 教科書 Unit 10の練習問題に取り組む	Basic terms の学習 100分
１１	単語まとめテスト(Unit 1-11) 英語句読法①	単語まとめテスト(Unit 1-11) 英語の記号と句読法の基本を学ぶ	英語句読法 50分 教科書の試験勉強 60分 句読法の復習 20分
１２	教科書筆記試験 英語句読法② 振り返り	教科書筆記試験 英語の記号と句読法の演習問題に取り組む 振り返り	振り返り30分

科目名	薬学英語２	科目ナンバー	
英語名	English for Pharmaceutical Sciences 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	スミス・天ヶ瀬・＊堀・＊井上径子		

授業の概要	本科目では前期に引き続き基本的な医療用語を覚えるだけでなく、服薬指導における基本的な表現を適切に発話できるように演習を行う。特に、外国人の英語話者に通じる発音を習得するために、英語発音のルールを学習し、音読やシャドーイングなどの練習を行う。また、単語を構成するAffix（接辞）を学習して語彙力向上に努める。さらに、学習成果の発表の場として服薬指導のロールプレイを行う。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、薬剤師として卒業時に必要な英語力を身につけるための基礎固めとして、特にリスニングとスピーキングのスキルを養い、活用することができるようになるためである。
授業の方法	授業は、講義と演習を組み合わせて展開する。
アクティブ・ラーニングの取組	演習ではペア・グループワークなどの課題に取り組む。さらに、英語でロールプレイの発表を行い、ピア評価も実施する。
成績評価	1. Basic Term復習テスト（10%） 2. 課題提出（10%） 3. 発音テスト（20%） 4. 筆記試験：服薬指導・医療用語（30%） 5. 発表３回（30%） ※ 課題提出など締め切り厳守。定期試験・再試験は実施しません。
試験・課題に対するフィードバック方法	課題、小テスト、ロールプレイは、授業内にフィードバックを行う。 学期末の筆記試験に関して、授業内でフィードバックを行えない場合は個別に行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を
教科書（書名・著者・出版社）	『はじめての薬学英語』野口ジュディー他・講談社 Medical Terminology Level 1, Basic terms、天ヶ瀬葉子 他・丸善雄松堂/デンショク
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	オリエンテーション 医療用語の復習テスト 英語の発音のルール① 教科書 Unit 7 ①	1. 学習方法の説明 2. Basic Termsの復習テスト 3. 英語の母音の演習 4. 教科書 Unit 7 サルモネラ菌について一般向けの説明文の導入学習	Basic Terms の復習90分 教科書の学習30分
2	英語の発音のルール② 教科書 Unit 7 ②	1. 英語の子音の演習 2. 教科書 Unit 7 練習問題に取り組む	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
3	英語の発音のルール③ 教科書 Unit 7 ③	1. 英語の弱形の演習 2. 健康に関する英文を元にリーフレットを作成する	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
4	英語の発音のルール④ 教科書 Unit 7 ④	1. 英語で変化する音（リンキング）の演習 2. リーフレットの内容を英語で説明する（グループ発表：２名）	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
5	英語の発音のルールまとめ 教科書 Unit 4 ①	1. 発音のルールの復習と演習 2. 教科書 Unit 4 薬の箱を読み解く	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
6	Affixの学習 教科書 Unit 4 ②	1. 接尾辞と品詞の学習 2. 教科書 Unit 4 練習問題に取り組む	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
7	発音テスト 教科書 Unit 4 ③	1. 医療用語・表現の発音テスト 2. 海外の薬の箱を選んで30秒の説明文（英語）を作成する（グループワーク）	医療用語と発音の学習 60分 教科書の学習 60分

8	Affixの学習 ① 教科書 Unit 4 ④ 教科書 Unit 5 ①	1. 重要な接頭辞 ① 2. 教科書 Unit 4薬の箱の説明の発表（グループ発表： 3 名） 3. 教科書 Unit 5 薬の飲み方についての英文の導入学習	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
9	Affixの学習 ② 教科書 Unit 5 ②	1. 重要な接頭辞 ② 2. 教科書 Unit 5 練習問題	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
１０	Affixの学習 ③ 教科書 Unit 5 ③	1. 重要な接頭辞 ③ 2. 教科書 Unit 5 服薬指導などの表現のまとめと演習	医療用語と発音の学習 30分 教科書の学習 90分
１１	試験 ロールプレイ	1. 筆記試験（服薬指導と医療用語） 2. ロールプレイの練習	服薬指導の表現と医療用語の学習 120分
１２	ロールプレイ 全体の振り返り	1. ロールプレイの発表（ペアワーク）とフィードバック 2. 全体の振り返り	ロールプレイの表現の学習と練習 120分

科目名	ドイツ語１	科目ナンバー	
英語名	German 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	阪本		

授業の概要	世界には様々な言語がある。ドイツ語は、EU（欧州連合）で母語人口が域内最大で、話者人口は英語の次に多い言語である。ドイツ語を学習して、世界の広さと近さを実感し、新たな視野を開拓しよう。授業では文法とコミュニケーションを等しく重視する。確かな知識と、ペアまたはグループワークによってコミュニケーション能力を身につけて、未来の医療人にふさわしい教養と国際性を磨く。総合評価の一つとして、期末に個人レポートを課すので、ドイツに関連するテーマについて詳しく調査研究して、ドイツ通への一歩を踏み出そう。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、基礎ドイツ語の学習を通じて、新たな言語、文化、歴史を知り、これまでとは異なる価値観を得ることである。学習者どうしの活発なコミュニケーションによって、各自が主体となって自らの可能性を拡げることも目指す。
授業の方法	授業では、はじめに、各課で学ぶ文法事項について基本と重要ポイントを体系的に説明する。次に、それを使った会話例をペアどうしで読みあげて、文法が会話でどのように活用されるのかを把握する。さらに、ペアまたはグループワークで練習問題に取り組んで、各課の内容を確認する。ドイツ語の楽しさを、一人ひとりが力を出しあって体得しよう。
アクティブ・ラーニングの取組	ドイツ語を主体的かつ積極的に学習するために、授業では毎回、ペアまたはグループワークを行う。分からないことがあれば、授業内ですぐに質問することで、互いに理解を深められるようにする。
成績評価	授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に参加する姿勢、宿題と小テストの取り組み方）…５０％ ドイツに関連するテーマの個人レポート（期末に提出）…５０％
試験・課題に対するフィードバック方法	宿題や小テストはそのつど解説する。授業や個人レポートに関する質問はいつでも受けつける。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	『新・アプライゼ　伝え合うドイツ語』高橋亮介、川名真矢・朝日出版社
参考書（書名・著者・出版社）	『初級者に優しい独和辞典』朝日出版社 『教科書を読むための入門独和辞典』朝日出版社 『エクスワード（ドイツ語モデル）』カシオ

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	はじめに	これからの学習方法と教科書、教材、辞書などの使用方法を確認する。アルファベート、つづりと発音、基本的な単語を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
2	Lektion 1	人称代名詞、動詞の形と現在人称変化を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
3	Lektion 1	語順（定動詞の位置）、動詞 sein, haben の現在人称変化を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
4	Lektion 1 のふり返り	Lektion 1 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
5	Lektion 2	不規則変化動詞の現在人称変化、ja, nein, doch の使い方を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）

6	Lektion 2	名詞の性、名詞の複数形を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
7	Lektion 2 のふり返り	Lektion 2 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
8	Lektion 3	名詞の格変化を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
9	Lektion 3	人称代名詞、疑問代名詞の格変化、不定代名詞を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
１０	Lektion 4	冠詞類を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
１１	Lektion 4	否定冠詞 kein, nicht の使い分け、nichtの位置、命令形のつくり方を習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
１２	Lektion 4 のふり返り	Lektion 4 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）

科目名	ドイツ語２	科目ナンバー	
英語名	German 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	阪本		

授業の概要	ドイツ語１と同じく、授業では文法とコミュニケーションを等しく重視する。よりいっそう確かな知識と、ペアまたはグループワークによってコミュニケーション能力を身につけて、未来の医療人にふさわしい教養と国際性、さらに、豊かな感性を磨く。総合評価の一つとして、期末にドイツに関連するテーマの個人レポートに加えてグループ発表を課す。ドイツに関連するテーマについて深く調査研究して、今後、胸を張ってドイツ通を名乗れるようにしよう。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、応用ドイツ語の学習を通じて、新たな言語、文化、歴史を知り、これまでとは異なる価値観を得ることである。学習者どうしの活発なコミュニケーションによって、各自が主体となって自らの可能性を拡げることも目指す。
授業の方法	授業では、はじめに、各課で学ぶ文法事項について基本と重要ポイントを体系的に説明する。次に、それを使った会話例をペアどうしで読みあげて、文法が会話でどのように活用されるのかを把握する。さらに、ペアまたはグループワークで練習問題に取り組んで、各課の内容を確認する。ドイツ語の楽しさを、一人ひとりが力を出しあって体得しよう。
アクティブ・ラーニングの取組	ドイツ語を主体的かつ積極的に学習するために、授業では毎回、ペアまたはグループワークを行う。分からないことがあれば、授業内ですぐに質問することで、互いに理解を深められるようにする。
成績評価	授業への参加態度（アクティブ・ラーニングに積極的に参加する姿勢、宿題と小テストの取り組み方）…５０％ ドイツに関連するテーマのグループ発表（期末に実施）と個人レポート（期末に提出）…５０％
試験・課題に対するフィードバック方法	宿題や小テストはそのつど解説する。授業に関する質問はいつでも受けつける。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	『新・アプライゼ』高橋亮介、川名真矢・朝日出版社
参考書（書名・著者・出版社）	『初級者に優しい独和辞典』朝日出版社 『教科書を読むための入門独和辞典』朝日出版社 『エクスワード（ドイツ語モデル）』カシオ

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	前期のふり返り	前期の既習事項を確認して、後期の学習に向けて基礎固めをする。	予習：1時間（前期の既習事項を見なおす。新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
2	Lektion 5	前置詞、前置詞の熟語的用法、前置詞と代名詞の融合形について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
3	Lektion 5	接続詞と語順について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
4	Lektion 5 のふり返り	Lektion 5 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
5	Lektion 6	話法の助動詞、未来形について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）

6	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
7	Lektion 6 のふり返り	Lektion 6 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
8	Lektion 7	動詞の 3 基本形、過去人称変化、過去分詞について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
9	Lektion 7	過去の事柄の表わし方、現在完了形について習う。それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を調べておき、重要ポイントを見つける。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
１０	Lektion 7 のふり返り	Lektion 7 で習った単語と文法を確認して、それを使って文を作り、会話の演習を行う（アクティブラーニング）。	予習：1時間（新出単語の発音と意味を見なおして、重要ポイントを確認する。） 復習：1時間（既習事項を確認して、実際に使えるかをチェックする。）
１１	グループ発表	ドイツに関連するテーマのグループ発表。	予習：1時間（グループ発表の準備）
１２	グループ発表	ドイツに関連するテーマのグループ発表。	予習：1時間（グループ発表の準備）

科目名	中国語１	科目ナンバー	
英語名	Chinese 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	陳		

授業の概要	この授業では、まず中国語の母音・子音および声調の練習をしっかりと行う。次に自己紹介、簡単な動作や身の回りの人・物について相手に伝わる正しい発音で言えるように練習を重ねる。日常生活において、或いは旅行時に必要最低限の意思疎通ができるようになることを目指す。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	コミュニケーション能力を高めると同時に、授業中に紹介する中国の文化的・社会的な事柄を学ぶことで異文化を理解し、より広い視野をもって、物事を考える力を身につけることを目的とする。
授業の方法	教材に沿って単語・文法項目を学習した後、グループに分かれ学んだことを使って実際に会話の練習を行う。また風習・飲食など文化的な背景についても折に触れて紹介する。
アクティブ・ラーニングの取組	第１回・２回目の発音篇および小テスト、期末テストの日を除き、授業では文法の説明をするが、その説明は最小限にとどめ、学習した項目を2人～４人のグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。また単語習得に関しても、カードゲームなどを効果的に使うことで、学習者が能動的に関わることができる方法を用いる。
成績評価	期末テスト結果（３０％）、小テスト（４０％）、授業への参加度*（３０％）により評価する。 *グループワークにおいて、グループの一員としてアクティビティに参加しているか。また発話の順番がまわってきた際に、積極的に発話しているか。
試験・課題に対するフィードバック方法	期末試験は、第１２回目の授業で実施し、直後に総評をする。　小テストは、授業内で２回実施し、テスト後に答案を開示し、解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	教科書は使用せず、授業中に配布するプリントに沿って授業を進める。
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	イントロダクション・発音篇①・数字	中国語の基本的な知識について学んだ後、母音・子音および声調の発音練習を行う。中国語で１から１０までの数字を言えるようになる。	母音・子音および声調に注意しながら、授業で学習した発音を声に出して練習する。また数字の言い方を定着させる。所要時間は６０分。
2	発音篇②・日常挨拶・名前を言う	引き続き母音・子音および声調の学習をし、発音練習を行う。基本的な挨拶表現を正しい発音で言えるようになる。自分の名前を中国語で書き、発音できるようになる。	母音・子音および声調の発音を復習する。また挨拶の表現を定着させる。所要時間は６０分。
3	自己紹介をする	”叫”構文（～と申す）、“是”構文（～は…です）を使って、自己紹介ができるようになる。*アクティブ・ラーニング（グループワーク）開始。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。また次回授業時に習得する単語に目を通しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
4	職業・国籍を言う	職業・国籍を表す単語を習得し、“是”構文（～は…です）に当てはめて生産的に文を作れるように練習を行う。	授業で学習した内容を、すぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習しておく。文型を復習し、さらに簡体字の書き方を練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
5	身の回りの人・物について話す①	指示代名詞を学習し、「これは～です」「あれは～です」などの文を習得する。 単語をさらに増やし、指示代名詞を含む文をより生産的に作れるように練習を行う。	新しく習得した文法を定着させるべく、声に出して発音練習を行う。授業時に習得する単語と簡体字の書き方を覚えるまで練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。

6	身の回りの人・物について話す②	指示代名詞を用いて「この～」「あの～」などの表現を学習する。物を表す単語をさらに習得し、指示代名詞を含む文をより生産的に作れるように練習を行う。	新しく習得した表現を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。次回授業時に実施される小テストに向けて、単語、文型を復習し、さらに簡体字の書き方を練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
7	小テスト・復習と語彙の強化	第３・４・５・６回授業で学習した内容に関する小テストの実施する。これまでに習得した構文を復習し、新たに導入する語彙を当てはめ、繰り返し練習する。	小テスト後に答案を開示し、テストで浮かび上がった弱点を克服しておくべく、習得した内容をすぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習し、強化する。所要時間は復習６０分、予習４０分。
8	動作について話す①	動詞述語文を学び、日常的に行う動作を言えるようになる。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。次回授業時に使用する単語に目を通しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
9	動作について話す②	動詞をさらに増やし、連動文を学習し、表現の幅を広げる。	第８・９回授業で学習した内容を、すぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習しておく。さらに簡体字の書き方を練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
１０	時刻および誕生日について話す	数字表現を学習し、時刻・曜日・年齢および誕生日を言えるようになる。	時刻、曜日などを含む数字表現を、すぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習しておく。次回授業時に実施される小テストに向けて、復習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
１１	小テスト・復習と語彙の強化	第８・９・１０回授業で学習した内容に関する小テストの実施。グループに分かれ、提示されたルールに沿って中国語による会話文を作成・練習し、期末のグループ発表に向けて準備をする。	小テスト後に答案を開示し、テスト後に浮かび上がった弱点を克服しておくべき、練習する。期末試験に向けての準備をする。会話文を流暢に言えるように発音練習をする。所要時間は復習６０分、発表準備４０分。
１２	期末試験	グループごとに作成した会話文を口頭で発表し、期末試験とする。	良いところ、不足するところを総評し、前期の総括をする。

科目名	中国語２	科目ナンバー	
英語名	Chinese 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	陳		

授業の概要	前期に学んだ基本的な名詞および動詞述語文に、助動詞・副詞などを付け加え、表現の幅をさらに広げる。また形容詞述語文、存在・所有を表す文法項目を新たに学習する。パターンに沿った発話だけでなく、自分が表現したいことを言えるように指導し、練習を重ねる。海外旅行時や、日本にきた中国人観光客とコミュニケーションをとる際に役に立つ中国語の表現を習得することを目指す。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	コミュニケーション能力を高めると同時に、授業中に紹介する中国の文化的・社会的な事柄を学ぶことで異文化を理解し、より広い視野をもって、物事を考える力を身につけることを目的とする。
授業の方法	教材に沿って単語・文法項目を学習した後、グループに分かれ学んだことを使って実際に会話の練習を行う。また風習・飲食など文化的な背景についても折に触れて紹介する。
アクティブ・ラーニングの取組	文法の説明は最小限にとどめ、学習した項目を２人～４人のグループの中で、実際に発話することに重点を置いた授業を行う。また単語習得に関しても、カードゲームなどを効果的に使うことで、学習者が能動的に関わることができる方法を用いる。前期よりもさらにグループメンバー同士が、中国語でコミュニケーションをとれるように促す。
成績評価	授業内期末試験結果（３０％）、小テスト（４０％）、授業への参加度*（３０％）により評価する。 *グループワークにおいて、グループの一員としてアクティビティに参加しているか。また発話の順番がまわってきた際に、積極的に発話しているか。
試験・課題に対するフィードバック方法	期末試験は、第１２回目の授業で実施し、直後に総評をする。学生が自ら作成した中国語会話を発話するスピーキングテストであるため、合格点に達しなかった場合（再試験受験対象者）にのみ問題点の指摘および再試験に向けての練習を行う。小テストは、授業内で２回実施し、テスト後に答案を開示し、解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	教科書は使用せず、授業中に配布するプリントに沿って授業を進める。
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	前期学習事項の復習	前期に学習した内容を一通り復習した後に、それらを使って自由に文を組立て発話する練習を行う。*アクティブ・ラーニング（グループワーク）開始。	前期学習事項の中で、曖昧になっている箇所を再度確認しておく。また次回授業時に学習する単語に目を通して予習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
2	物・人の特性を言う①	形容詞述語文を学び、物・人について説明できるようになる。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。さらに習得した中国語簡体字の書き方を覚えておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
3	物・人の特性を言う②	比較文を習得し、形容詞述語文の表現の幅を広げる。	第２回・３回授業で学習した内容を、すぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
4	持ち物・存在文①について話す	“有”構文（～を持っている）を用いて、所有を表す方法を習得する。“有”構文（～に…がある）を用いて、存在文の表現方法を習得する。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。また次回授業時に学習する単語に目を通して予習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
5	存在文②について話す	“在”構文（～は…にある）を用いて、「有」構文と異なる存在文の表現方法を習得する。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。存在文①と②を区別できるようになるまでに練

			習する。次回授業時に実施される小テストの準備をしておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
6	小テスト・復習と語彙の強化	第２・３・４・５回授業で学習した内容に関する小テストの実施。これまでに習得した構文に、新たに導入する語彙を当てはめ、練習を行い、表現の幅を広げる。	小テスト後に答案を開示し、テストで浮かび上がった弱点を克服しておくべき、習得した内容をすぐに言えるように、また聞いて分かるようになるまで声に出して練習し、強化する。所要時間は復習６０分、予習４０分。
7	中国映画や中国文化に触れるビデオの鑑賞	中国映画や中国文化に触れるビデオを鑑賞し、実際に話されている中国語および中華圏の文化に触れる。	映画を鑑賞する時に耳に入ってきた単語、聞き取れた内容を発表させ、学習の成果、語学学習の楽しさを実感させる。
8	「やりたいこと」、「現在やっていること」を言う	助動詞や副詞を新たに学び、前期に学習した動詞述語文と組み合わせ、より多くのことを表現できるようになる。	新しく習得した構文を定着させるべく、意味を考えながら声に出して発音練習を行う。助動詞や副詞の使い方を定着させる。所要時間は復習４０分、予習４０分。
9	「～することができる」の表現	助動詞「会」、「能」を動詞と組み合わせて、「～することができる」の表現を学習する。	「会」、「能」の使い分けをできるように繰り返し練習し、新しく習得した表現を定着させる。所要時間は復習４０分、予習４０分。
１０	飲食店での応対	既習事項を使って飲食店で料理、飲み物を注文する時、サービスを提供する時の応対表現を習得する。	新たに導入された単語を加え、飲食店で注文できるように、また応対できるように練習しておく。所要時間は復習４０分、予習４０分。
１１	小テスト・復習と語彙の強化	第８・９・１０回授業で学習した内容に関する小テストの実施。グループに分かれ、提示されたルールに沿って中国語による会話文を作成・練習し、期末のグループ発表に向けての準備を行う。	小テスト後に答案を開示し、テストで浮かび上がった弱点を克服しておくべき、練習する。期末試験に向けての準備をする。会話文を流暢に言えるように発音練習をする。所要時間は復習６０分、発表準備４０分。
１２	期末試験	グループごとに作成した会話文を口頭で発表し、期末試験とする。	良いところ、不足するところを総評し、一年間の総括をする。

科目名	ハングル１	科目ナンバー	
英語名	Korean 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	李		

授業の概要	韓国語の基礎から学ぶ。文字であるハングルを習得し、簡単な会話表現を身につける。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	韓国語と日本語は、語順や助詞の使い方、語尾の変化が似ているため、日本語を母語とする人にとっては学びやすい言語である。この授業では、韓国語の文字である「ハングル」を学習し、文字と関連したミニ会話をすることで文字の習得に理解を深めることができる。
授業の方法	ペアワーク・グループワークを通して文字学習や会話力を身につける。
アクティブ・ラーニングの取組	ICTを活用したアクティブ・ラーニングで学習動機を高める。
成績評価	小テスト40%、期末試験40%、授業参加度20%
試験・課題に対するフィードバック方法	小テストは返却後に解説を行う。期末試験については答案の開示を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／12.つくる責任 つかう責任／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	プリント資料配布
参考書（書名・著者・出版社）	韓国朝鮮語初級テキスト「根と幹」（改訂版）・生越直樹、生越まり子、池玟京・朝日出版社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	韓国語ってどんな言葉？ ハングル（ 母音１、子音１）	・韓国語の歴史やハングルの仕組み ・ㅏ ㅓ ㅗ ㅜ ㅡ ㅣ ㅐ ㅔ　子音　ㅇ ・ミニ会話（アンニョンハセヨ）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
2	ハングル（子音2）	・子音　ㄴㄹㅁ ・ミニ会話（名前は何ですか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
3	小テスト１ ハングル（母音２）	・重母音　ㅑ ㅕ ㅛ ㅠ ㅒ ㅖ ・ミニ会話（何が好きですか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
4	ハングル（子音3）	・子音　ㄱㄷㅂㅅㅈ ・ミニ会話（誰が好きですか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
5	ハングル（パッチム）1	・パッチム　ㄴㄹ ㅁㅇ ・ミニ会話（日本人ですか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
6	小テスト2 ハングル（母音3）	・重母音 ㅘ ㅙ ㅝ ㅞ ㅢ ㅟ ㅚ ・ミニ会話（お腹空いていますか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
7	ハングル（子音4）	・子音　ㅋㅌㅍㅊㅎ　ㄲ ㄸ ㅃ ㅆ ㅉ ・ミニ会話（今何を食べたいですか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
8	ハングル（パッチム）2	・パッチム　ㄱㅋㄲ　ㄷㅌㅅㅆㅈㅊㅎ　ㅂㅍ ・ミニ会話（韓国の友達がいますか）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。

9	ハングルのまとめ	・発音ルール ・日本の地名、自分の名前をハングルで表記 ・K-POPの歌詞を読んでみる。	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１０	自己紹介	・-예요/이에요（～です） ・-은/는（～は） ・-을/를 좋아해요（～が好きです）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１１	これは何ですか	・이게, 그게, 저게 （これ、それ、あれ） ・-이/가 (～が)	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１２	期末試験	筆記試験を行う	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。

科目名	ハングル２	科目ナンバー	
英語名	Korean 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	選択必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	李		

授業の概要	会話力を身につけるために、毎回異なるテーマで「話す」課題を行う。学習効果を上げるためにアプリなどの学習ツールを活用する。アプリの活用は、学習動機が高まり自律学習にもつながる。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	日常生活や韓国旅行で使える会話能力を向上させることを目指す。また、日本とは異なる文化に触れ、韓国文化に対する興味と理解を深める。
授業の方法	四技能(読む・聞く・書く・話す)を用いてコミュニケーション能力を向上させ、ペアワーク、グループワークで実践力を身につける。
アクティブ・ラーニングの取組	ICTを活用したアクティブ・ラーニングで学習動機を高める。
成績評価	課題40%、期末試験40%、授業参加度20％
試験・課題に対するフィードバック方法	課題・期末試験の評価方法を開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／10.人や国の不平等をなくそう／12.つくる責任 つかう責任／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	プリント資料配布
参考書（書名・著者・出版社）	韓国朝鮮語初級テキスト「根と幹」（改訂版）・生越直樹、生越まり子、池玟京・朝日出版社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	図書館はどこにありますか	・-에 있다（ ~にある・いる） ・-에 없다（～にない・いない） ・位置	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
2	ビビンパを１つください	・하나,둘 셋・・(固有語系数詞) ・-하고（～と） ・-을/를 주세요 （～をください）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
3	携帯番号は何番ですか	・일,이,삼・・・(漢語系数詞) ・-이/가 아니에요（～ではありません）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
4	3時に何をしますか	・-아요/어요（～ます・です）（１） ・-에（～に） ・時間	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
5	韓国文化	韓国文化を体験・理解する	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
6	今週末に何をしますか	・-아요/어요（～ます・です）（２） ・-에서（～で）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
7	昨日ミンスさんに会いましたね	・-았/었어요（～ました） ・ 안＋用言（～ません・～ないです） ・-지요?（～ですね）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。

8	USJに遊びに行きます	・-(으)로（～で） ・-(으)러 가다 (～しに行く) ・-고 싶다（～したい）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
9	一緒に映画を見ましょうか	・(으)ㄹ까요?（～しましょうか） ・(으)ㅂ시다　（～しましょう）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１０	このシャツ、着てみていいですか	・(으)세요　（～してください） ・(으)ㄹ게요　（～します）	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１１	まとめ	後期授業で学習した内容を定着させることをめざす	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。
１２	期末試験	口頭試験を行う	配布資料とQuizletで予習60分,復習60分以上の時間を割いて学習をしてください。

科目名	インタラクティブ・イングリッシュI	科目ナンバー	LE1043
英語名	Interactive English I		
年次・期間	1年次・前期／2年次・前期／3年次・前期／4年次・前期／5年次・前期／6年次・前期		
選必区分	自由		
単　位	1.0単位		
指導教員	スミス・〇藤枝・〇小林		

授業の概要	本科目は少人数の受講生を対象に開講され、ネイティブスピーカー講師やクラスメートとの英語を用いたコミュニケーションを通して、英語のリスニングとスピーキングに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（Interaction）」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、ペアやグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識し、さらに、異文化や多様性の理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、ネイティブスピーカー講師や他学部の学生とコミュニケーションすることで、多文化共生の大切さを理解し、英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢と聞き取れない場合の対処やあいづちなど，必要に応じて会話を継続するための方略を獲得し、適切に使うことができるようになるためである。
授業の方法	ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。 １）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。 ２）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test)を実施し、テストの結果によりクラス分けを行う。 ３）各講義前に提示された課題を行ってから講義に望むこと。 クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細は、学期はじめのガイダンスで説明するが、授業計画は、Class1のものを参考として記載する。
アクティブ・ラーニングの取組	演習ではペア・グループワークなどの活動に取り組む。
成績評価	事前課題（30%）、授業内課題（復習課題を含む：40%）、レポート（30%）
試験・課題に対するフィードバック方法	課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／10.人や国の不平等をなくそう
教科書（書名・著者・出版社）	Class1：『Viewpoints Intermediate Book 1』ALC Press Inc. Class2、Class3：『World Voices 3 Student Book』ABAX
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	インタラクティブ・イングリッシュ：自己紹介 (Unit 1)	アクティブ・コミュニケーションの意義とアクティブ・リスニングに焦点を当てたテクニックを理解する。 英語で自己紹介の練習を行う。	予習 ：テキスト (P.4)を用いて、他の受講生に自己紹介と英語学習の目的を説明できるように準備する。(１時間) 復習 ：テキスト (P.73)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに英語学習の目標を他の受講生に共有できるようにまとめる。(１時間)
2	比較と対照：日本の文化 (Unit 2)	日本の文化や日常生活というトピックで、英語を用いて簡単に分かりやすく説明をする練習を行う。さらに、効果的に比較・対照に用いる言い回しを学ぶ。	予習：テキスト (P.10)を用いて、他の受講生に日本について説明するために質問リストを準備する。（１時間） 復習：テキスト (P.74)のトピックを選び、Unit 2で学んだ方法を使って日本についての説明をまとめる。（１時間）
3	賛成と反対：自由時間の過ごし方 (Unit 3)	自由時間の過ごし方というトピックで、英語を用いて自分について説明したり、賛成意見や反対意見、その理由を述べたりする場合に必要なスキルを学ぶ。	予習：テキスト (P.16)を用いて、自分の趣味について他の受講生に英語で紹介できるように準備する。（１時間） 復習：テキスト (P.75)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとにUnit 3で学んだ言い回しを用いて意見をまとめる。（１

			時間）
4	アクティブ・リスニング：音楽 (Unit 6)	音楽というトピックで、話題に興味を示し、関連する質問をするなどアクティブ・リスニングに必要なスキルを学ぶ。	予習：テキスト (P.34)を用いて、アクティブ・リスニングの方法を考える。（１時間） 復習：テキスト (P.78)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、一番好きな外国のミュージシャンやバンドを紹介できるようにまとめる。（１時間）
5	説得力のある説明：旅行 (Unit 7)	旅行というトピックで、説得力のある明確なアイデアで相手を納得させ、自分のアイデアを裏付けるためにさまざまな種類の証拠を用いるスキルを学ぶ。	予習：テキスト (P.40)を用いて、他の受講生に最適な旅行先をについて英語で紹介できるように準備する。（１時間） 復習：テキスト (P.79)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、お勧めの旅行先もしくはお勧めしない旅行先についての発表を準備する。（１時間）
6	相談：学習習慣 (Unit 8)	学習習慣というトピックで、自分の学習習慣や課題を他の人に話して、問題を克服するためのアドバイスを得る時に必要なスキルを学ぶ。	予習：テキスト (P.46)を用いて、他の受講生に自分が受講している授業の一つの問題点を英語で説明できるように準備する。（１時間） 復習：テキスト (P.80)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、上述の問題点を克服するための方法について発表できるようにまとめる。（１時間）
7	討論：ソーシャルメディア (Unit 9)	ソーシャルメディアのトピックで、その使われ方、メリットやデメリット、潜在的なリスクなどについて討論を行うのに必要なスキルを学ぶ。	予習：テキスト (P.52)を用いて、他の受講生と自分のソーシャルメディアでの習慣や、自分の状況について英語で討論できるように準備する。（１時間） 復習：テキスト (P.81)を用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、ソーシャルメディアが世の中を良くしたか、悪くしたかについて発表できるようにまとめる。（１時間）
8	ブレーンストーミング：大学生活 (Unit 10)	大学生活というトピックを用い、グループで問題を紹介し、解決策を英語でブレーンストーミングするスキルを学ぶ。	予習： テキスト (P.58)を用いて、自分の大学生活の良い点と悪い点について他の受講生に説明できるように準備する。（１時間） 復習： テキスト (P.82)を用いて、講義内 の講師からのフィードバックをもとに、大学生としての一番の問題点について発表できるようにまとめる。（１時間） 8回の学習の振り返りをレポートにまとめて提出する。提出方法や期限については別途通知する。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	インタラクティブ・イングリッシュII	科目ナンバー	LE1044
英語名	Interactive English II		
年次・期間	1年次・後期／2年次・後期／3年次・後期／4年次・後期／5年次・後期／6年次・後期		
選必区分	自由		
単　位	1.0単位		
指導教員	スミス・〇藤枝・〇小林		

授業の概要	本科目は少人数の受講生を対象に開講され、ネイティブスピーカー講師やクラスメートとの英語を用いたコミュニケーションを通して、英語のリスニングとスピーキングに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（Interaction）」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、ペアやグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識し、さらに、異文化や多様性の理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、ネイティブスピーカー講師や他学部の学生とコミュニケーションすることで、多文化共生の大切さを理解し、医療場面におけるアクティブ・コミュニケーションの意義とアクティブ・リスニングに焦点を当てたテクニックを学び、適切に使うことができるようになるためである。
授業の方法	ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。 １）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。 ２）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test)を実施し、テストの結果によりクラス分けを行う。 ３）各講義前に提示された課題を行ってから講義に望むこと。 クラスごとに授業計画等は多少異なるため、詳細は学期はじめのガイダンスで説明するが、授業計画は、Class1のものを参考として記載する。
アクティブ・ラーニングの取組	演習ではペア・グループワークなどの活動に取り組む。
成績評価	事前課題（30%）、授業内課題（復習課題を含む：40%）、レポート（30%）
試験・課題に対するフィードバック方法	課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／10.人や国の不平等をなくそう
教科書（書名・著者・出版社）	『Medical English Clinic』西原俊明，西原真弓，Tony Brown　センゲージ ラーニング株式会社
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	インタラクティブ・イングリッシュとは（オンラインワークシート）	医療場面におけるアクティブ・コミュニケーションの意義とアクティブ・リスニングに焦点を当てたテクニックを理解する。	予習：オンラインワークシートを用いて、他の受講生に自分のことを英語で紹介できるように準備する。（１時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義内の講師からのフィードバックをもとに、自分自身に最近起こった変化について英語で説明できるようにまとめる。（１時間）
2	説明と情報収集：初診と問診表（Unit 1）	初診と問診表というトピックで、英語を用いて初診時の説明と情報収集の練習を行う。	予習：テキストPp.10-11のReading Activityを用いて、英語での問診票の質問内容について理解する。（１時間） 復習：テキストP.10のListening Activityを用いて、初診時の問診について英語で行えるようにまとめる。（１時間）
3	質問と応答：診察室でのコミュニケーション（Unit 2）	診察室というトピックで、診察に関わる基本的な質問や応答を英語で表現を学ぶ。	予習：テキストP.14のReading Activityを用いて、ノロウィルスについて理解し英語で話ができるように準備する。（１時間） 復習：テキストP.14のListening Activityを用いて、診察に関わる基本的な質問や応答を英

			語で表現、理解できるようにまとめる。（1時間）
4	的確な説明Ⅰ：疾患の症状と処置（Unit 3）	感染症というトピックで、感染症の症状や処置、薬の副作用について英語で説明する練習を行う。	予習：テキストP.18のReading Activityを用いて、タミフルについて理解し、期待される治療効果と潜在的な合併症・リスクについて英語で話せるよう準備する。（1時間） 復習：テキストP.18のListening Activityを用いて、感染症の症状や処置、薬の副作用について英語で説明できるようにまとめる。（1時間）
5	的確な説明Ⅱ：薬局に行く（オンラインワークシート）	薬局というトピックで、薬局で処方薬を買う際に必要な症状の説明や応答を英語でやりとりする練習を行う。	予習：オンラインワークシートの処方箋を用いて、薬局でのやりとりを英語でできるように準備する。（1時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義中の講師のフィードバックをもとに、他の治療について説明できるようにまとめる。（1時間）
6	的確な説明Ⅲ：怪我の状態と処置（Unit 10）	怪我というトピックで、怪我の処置、薬の服用について英語で説明する練習を行う。	予習：テキストP.46のReading Activityを用いて、ウォーキングの効果について理解し英語で話ができるように準備する。（1時間） 復習：テキストP.46のListening Activityを用いて、怪我の状態や処置、薬の服用に関わる基本的な質問や応答を英語で表現、理解できるようにまとめる。（1時間）
7	プレゼンテーション：日本の医療（オンラインワークシート）	日本の医療の現状と課題について英語で議論する。	予習：オンラインワークシートを用いて、日本の医療の現状と課題について英語で議論できるように準備する。（1時間） 復習：オンラインワークシートを用いて、講義中の講師のフィードバックをもとに、日本の医療の現状と課題について問題に対処できると思われる政策変更について英語で説明できるようにまとめる。（1時間）
8	まとめ（オンラインワークシート）	これまでの講義をもとに、コミュニケーション力、多文化共生、多様性理解について学ぶ。	予習：オンラインワークシートを用いて、このコースで身につけたスキルを他の学生に説明する準備をする。（1時間） 復習：講師からのフィードバックをもとに、インタラクティブコミュニケーションに必要なスキルを確認する。（1時間） 8回の学習の振り返りをレポートにまとめて提出する。提出方法や期限については別途通知する。
9			
10			
11			
12			

科目名	海外薬学研修	科目ナンバー	
英語名	Pharmacy Study Abroad Program		
年次・期間	1年次・前期／1年次・後期／2年次・前期／2年次・後期／3年次・前期／3年次・後期／4年次・前期／4年次・後期／5年次・前期／5年次・後期／5年次・通年／6年次・前期		
選必区分	自由		
単　位	1.0単位		
指導教員	戸塚・スミス		

授業の概要	本科目では、渡航先によって具体的な研修内容は異なるが、事前・事後学習と研修プログラムに参加することで以下の項目に取り組む。 １．　研修先の演習・実習課題を達成するためのコミュニケーション力を身につける。 ２．　海外における薬学関連領域の基礎知識、技能を修得する。 ３．　留学先での演習・実習課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。 ４．　留学先での実習、研究活動に関わる規則を守り、倫理に配慮する。 ５．　留学先の環境で異文化理解を深める。 なお、海外研修プログラムは、薬学部国際交流委員会で承認されたもののみ単位を付与する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、留学先でしか得られない体験を通して、国際化に対応できる知識、技能や態度を養い、卒業後のキャリアに活かすことができるようになるためである。
授業の方法	１．　事前学習（講義・演習、前年度参加学生と面談など） ２．　研修別に、講義、演習、実験並びに施設見学などのプログラムで構成される。 ３．　事後学習（演習、渡航報告会）
アクティブ・ラーニングの取組	事前・事後学習、研修において演習や発表などの課題に取り組む
成績評価	１．　事前学習の課題・発表 20% ２．　研修先での学修記録など 50% ３．　報告書・渡航報告会での発表 30%
試験・課題に対するフィードバック方法	１．出発前までの準備、現地滞在中の学修、帰国後に実施する報告会での発表や研修報告書の作成などに対して助言を行う。 ２．成績評価に関する個別のフィードバックを行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	なし
参考書（書名・著者・出版社）	なし

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	事前学習①	オリエンテーション 研修に向けての心構えと準備について 昨年度の研修参加者との面談	目標設定など予習：1時間
2	事前学習②	日本の薬学教育、医療・薬事事情についての発表テーマ設定・準備	発表準備：2時間
3	事前学習③	日本の薬学・薬事事情についての発表 発表とフィードバック	発表準備：2時間
4	海外薬学研修	プログラムにより内容が異なる	
5	海外薬学研修	プログラムにより内容が異なる	
6	海外薬学研修	プログラムにより内容が異なる	
7	事後学習①	報告会の発表テーマ設定・準備（担当教員が適宜フードバックを行う）	発表準備：2時間

8	事後学習②	発表 報告書の作成 全体の振り返り	発表準備：1時間 報告書作成：１時間
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学入門	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Pharmacy		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	大野・永井・中村任・藤森・平野・大喜多・奥平・角山		

授業の概要	日本における薬学教育は、病院や薬局で働く薬剤師の養成はもとより、医薬品の創製（創薬）に関わる研究者、医薬品の製造や臨床開発に従事する研究者・技術者、衛生環境保全や薬事行政の従事者等、多様な人材を養成してきた。近年、医療の進歩と充実が求められるなかで、薬学教育に対する国民の期待も変化し、医療人としての質の高い薬剤師養成に大きな期待が寄せられている。薬学という学問自体も、医薬品という「モノ」を対象とする学問に加えて、薬物治療などのように「患者」を対象とする学問を充実させることが求められている。臨床業務に携わるには、ヒトを理解するための豊かな人間性やコミュニケーション能力を培い、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者や医療関係者との信頼関係が確立できるよう心がけなければならない。その上で、薬局におけるかかりつけ薬剤師としての役割や、病院におけるチーム医療の一員としての積極的な役割が期待される。 この授業においては、社会における薬学の役割や薬剤師の使命について考え、薬剤師として求められる基本的な資質・能力を学んでいくための基本的姿勢を身につける。具体的には、各回に分けて、様々な学問領域から薬学の歴史、これから学ぶ学習内容とその意義、医療人として身につけておくべき生命・医療倫理の諸原則、将来関わる先端医療などについて概説する。これら講義を通じて、薬剤師になるための今後の学びについて自ら考え、本学における勉学に対する心構えを構築する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	医療と社会における薬学の役割や薬剤師の使命を理解し、医療人として、また薬の専門家として必要な基本的姿勢を身につけることを目的とする。
授業の方法	各講師によるスライドや板書を用いた講義形式で行う。 各回で講義内容に関連したレポート課題を与え、復習を通じて自ら考え、学ぶ姿勢を養う。
アクティブ・ラーニングの取組	一部の講義では、クリッカーやレスポンなどを利用した質問や演習を行う場合がある。
成績評価	各回の講義に関連したレポートにより評価する（100%）。
試験・課題に対するフィードバック方法	必要に応じて質問・面談を受け付け、講義・課題内容の理解と医療人を目指す基本的姿勢の修得を促す。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	大野（企業等の研究者）・中村任（薬剤師）・藤森（企業等の研究者）・奥平（企業等の研究者）・角山（薬剤師）／大学附属病院での薬剤師実務経験、企業での生化学の研究経験、公的研究機関での研究経験を活かし、薬学と薬剤師に関する本質的な事柄や、医療の担い手として備えておくべきヒューマニズムについて考えさせ、今後の本学における勉学に対する心構えを指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	特に指定しない
参考書（書名・著者・出版社）	特に指定しない

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	概論　（薬学部長）	・薬学の歴史 ・薬学部での学びについて ・薬剤師として求められる基本的な資質と能力	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
2	基礎薬学（生物系、藤森）	・薬の効果や副作用の理解における生物系科目の学びについて ・生命科学の基礎研究と医薬品開発について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
3	基礎薬学（化学・物理系、平野）	・薬の構造と作用に関わる化学について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間）

			復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
4	医療薬学（薬剤・製剤系、永井）	・薬の形（剤形）について ・体の中の薬の動き（薬物動態）について ・薬の飲み合わせ（薬物相互作用）について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
5	医療薬学（薬理・薬物治療系、大喜多）	・疾病と人体での治療薬の働きについて	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
6	衛生薬学（奥平）	・衛生薬学の成り立ちと分類 ・社会、集団における健康の維持増進を科学する意義について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
7	臨床薬学（中村 任）	・薬剤師の使命と倫理について ・薬剤管理指導（服薬指導）について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
8	臨床薬学（角山）	・医薬品の適正使用における薬剤師の役割 ・薬学6年制教育課程における臨床実務実習 ・多職種との連携に必要な能力について	予習：授業内容について自主学習（予習）をしておくこと。授業資料を確認し、疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、授業で与えられた課題演習を行うこと。（3 時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	物理化学１	科目ナンバー	
英語名	Physical Chemistry 1		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	浅野		

授業の概要	物理化学はあらゆる自然現象に適用される基礎科学であり、薬学領域においても物理化学的なものの見方、考え方は重要である。本講義では、系のエネルギー、系の自発変化の方向、および系の平衡状態について理解するための基本的な知識を修得する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、熱力学の考えに基づいて、物質の状態や物理的・化学的変化の方向を理論的に推察することができるようになるためである。
授業の方法	講義の初めに配布するプリント冊子の内容について、板書により講義を進める。理解度の確認のため、適宜問題演習を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験（100%）により評価する。 なお、本科目の定期試験出題内容には「薬学連携演習１」で学習する事項も含まれる。
試験・課題に対するフィードバック方法	解答例を開示し、希望者には試験答案の開示、解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	指定しない（講義の初めにプリント冊子を配布）
参考書（書名・著者・出版社）	アトキンス物理化学　第10版（上・下）中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆（訳）　東京化学同人

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	熱力学とは/気体の仕事	・熱力学における基本事項（系、状態関数、経路関数、熱、仕事）について ・気体の仕事について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
2	熱力学第一法則（１）	・内部エネルギー、エネルギー保存則について ・定圧、定容、等温、断熱変化について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
3	熱力学第一法則（２）	・定容熱容量、定圧熱容量について ・エンタルピーについて ・代表的な物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
4	カルノーサイクル	・熱効率、エントロピーについて	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
5	熱力学第二法則（１）	・孤立系における自発的な変化の方向について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリ

			ントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
6	熱力学第二法則（２）	・代表的な物理変化に伴うエントロピー変化について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
7	自由エネルギー	・閉鎖系における自発的な変化の方向について（ヘルムホルツエネルギー、ギブズエネルギー） ・ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
8	化学平衡	・ギブズエネルギーと平衡定数の温度依存性（van't Hoff式）について	予習：プリント冊子の該当ページを読み、疑問点をまとめておく。（２時間） 復習：講義内容をノートにまとめ、配布プリントの演習問題を再度解くことにより理解度を確認する。（２時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	分析化学１	科目ナンバー	
英語名	Analytical Chemistry 1		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	天満		

授業の概要	分析化学は、試料中に何がどれだけ含まれているのかを決定するための学問であり、薬学領域においては創薬科学、医療薬学、生命科学、衛生薬学のあらゆる分野で不可欠な基盤となる。分析化学の進歩に伴い、測定可能な試料や濃度の範囲は広がり、分析操作は効率化され、分析値の信頼性も向上してきた。分析化学は、薬学に限らず実験科学全体の基盤としてその発展に貢献している。 「分析化学１」では、種々の化学的分析法を理解するために必要な基礎的事項、特に、水溶液中における各種の化学平衡について講義する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、物質の定性・定量や各種化学平衡に関する基礎的知識を修得することで、特に水溶液中における化学物質の性質を理解・分析できるようになるためである。
授業の方法	教科書、プリント、スライドを用いて、講義および演習形式で行う。
アクティブ・ラーニングの取組	レスポンを用いた演習を随時行う。
成績評価	定期試験（100％）により評価する。 なお、本科目の定期試験の出題内容には「薬学連携演習2」で学習する事項も含まれる。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案を開示し、希望者には解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『パートナー分析化学Ｉ　改訂第４版』　萩中淳、加藤くみ子（編）　南江堂
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	分析化学概論（１）	分析化学の概要について	教科書第1章について予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
2	分析化学概論（２）	定量分析と容量分析の概要について	教科書第2章、第3章について予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
3	酸塩基平衡（１）	酸塩基平衡の概要と各種水溶液のpHについて	教科書第4章Ｉについて予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
4	酸塩基平衡（２）	緩衝液、酸塩基滴定、非水滴定について	教科書第4章IIについて予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
5	錯生成平衡（１）	錯体・キレート生成平衡の概要について	教科書第5章Ｉについて予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
6	錯生成平衡（２）	キレート滴定について	教科書第5章IIについて予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
7	沈殿平衡	沈殿平衡について	教科書第6章について予習すること（2時間） プリントに沿って復習すること（2時間）
8	酸化還元平衡	酸化還元平衡について	教科書第7章について予習すること（2時間）

			プリントに沿って復習すること（2時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	有機化学１	科目ナンバー	
英語名	Organic Chemistry 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	和田俊一・浦田・宇佐美・平野・山田・米山・平田佳之・葉山・安田		

授業の概要	有機化学は「炭素化合物の化学」と言われるように、炭素原子を含む化合物を対象とした学問であり、我々を取り巻く環境と密接な関わりを持っている。特に我々人間は有機化合物によって構成され、生体内のほとんどの反応は有機化合物が関与している。また、我々が扱う医薬品の多くが有機化学反応で作られた有機化合物や天然有機化合物である。これらの観点から、薬学生の基礎知識として有機化学を学び、有機化合物の構造や化学的性質を理解することは極めて重要である。「有機化学１」では高校の有機化学の復習を交え、有機化合物の名称の付け方（IUPAC命名法）、化学結合、分子間力や酸塩基反応の基本的な事項を学修し、新入学生の実力から大学専門科目に進むための必要不可欠な知識の修得を目指す。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、医薬品のベースとなる有機化合物の化学的・物理的性質、官能基や母核の化学的性質と反応性を学ぶことによって、医薬品の安定性や配合変化、生体内代謝等を有機化学的な視点で推察することができるようになるためである。
授業の方法	教科書、配布プリント及びスライドを用いて講義形式及び演習形式で授業を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	第7回と12回の授業では数名の担当者が参画して演習を行う。予めそれ以前の授業の内容の知識を身につけた上での出席が求められる。
成績評価	定期試験（９０％）と課題（１０％）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案を開示し、解説を行う。課題の解答はTeamsに開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	『ソロモンの新有機化学　第１１版』　I巻　池田正澄、上西潤一、奥山　格、西出喜代治、花房昭静（監訳）廣川書店
参考書（書名・著者・出版社）	『高校の化学をイチからおさらいする本（有機化学編）』　宇野正明　中経出版 『基礎有機化学問題集　第2版』廣田耕作・片岡　貞・西出喜代治（編）廣川書店

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	薬学における有機化学の歴史と背景 高校の復習１：原子の構造と化学結合（和田）	・薬学における有機化学の歴史と背景及び有機化学を学ぶ意義について ・原子の構造、官能基の種類、化学結合について（高校の復習） ・構造式の種類について	予習：高校の教科書及び参考書を用いて原子の構造、官能基の種類、化学結合に関する項目を理解（復習）しておくこと（1時間）。 復習：配布されたプリントを用いて原子の構造、官能基の種類と化学結合について復習すること。教科書を用いてダッシュ構造式、簡略化構造式、結合・線式で書かれた構造式について理解しておくこと（1時間）。
2	高校の復習２：酸素を含む有機化合物（和田）	・アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸及びエステルの名称、化学構造、物理化学的性質、反応性について ・アルカンおよびアルキル基のIUPAC規則による命名について	予習：高校の教科書及び参考書を用いて酸素を含む有機化合物に関する項目を理解（復習）しておくこと（1時間）。 復習：配布されたプリントを用いて酸素を含む有機化合物に関する内容を復習すること。教科書を用いてアルカン、アルキル基をIUPACの規則に従って命名し、構造を書けるようにすること（1時間）。
3	高校の復習３：芳香族化合物（和田）	・芳香族化合物の名称、化学構造、物理化学的性質、反応性について ・枝分かれアルキル基のIUPAC規則による命名について	予習：高校の教科書及び参考書を用いて芳香族化合物に関する項目を理解（復習）しておくこと（1時間）。 復習：配布されたプリントを用いて芳香族化合物に関する内容を復習すること。教科書を用いて枝分かれアルキル基をIUPACの規則に

			従って命名し、構造を書けるようにすること（1時間）。
4	炭素化合物と化学結合１：共有結合と共鳴（和田）	・化学結合の成り立ちについて ・基本的な化合物のルイス構造式について ・共鳴の概念について（１） ・ハロアルカンのIUPAC規則による命名について	予習：化学結合、ルイス構造式、共鳴理論に関して教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：種々の化合物を形式電荷を含めてルイス構造で書けるように練習すること。教科書を用いて共鳴理論（共鳴構造、共鳴混成体）に関して整理、理解し、ハロアルカンをIUPACの規則に従って命名し、構造を書けるようにすること（１時間）。
5	化学結合２：原子軌道と分子軌道（和田）	・共鳴の概念について（２） ・原子軌道、分子軌道の基本概念について ・アルコール類のIUPAC規則による命名について	予習：共鳴理論、原子軌道や分子軌道に関して教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：教科書を用いて共鳴の概念を復習し、原子軌道の形や電子配置、分子軌道に関する内容を整理し、理解しておくこと。アルコールをIUPACの規則に従って命名し、構造を書けるようにすること（１時間）。
6	化学結合３：混成軌道（和田）	・炭化水素を構成する炭素の軌道の混成について	予習：混成軌道や原子価殻電子対反発モデルに関して教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：教科書を用いてメタン、エチレン、アセチレンのそれぞれの炭素の混成軌道や原子価殻電子対反発モデルによって理解される分子の形につて整理し、理解しておくこと。（１時間）。
7	演習１（和田、浦田、宇佐美、平野、山田、米山、平田、葉山、安田）	授業４～６回の内容に関する演習を行う	予習：４～６回の復習をし、教科書の問題を解いてくること（１時間）。 復習：授業中に行った問題を解き直し、理解を深めること（1時間）。
8	双極子モーメントと極性・無極性分子及び分子間力（和田）	・極性・無極性分子について ・分子間力について ・シクロアルカンのIUPAC規則による命名について	予習：極性・無極性分子及び分子間力について教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1.0時間）。 復習：教科書を用いて、双極子モーメントを用いて極性・無極性分子を判別したり、分子の構造から分子間力を判別し、融点や沸点などの物理化学的性質を理解できるように整理し、理解しておくこと。シクロアルカンをIUPACの規則に従って命名し、構造を書けるようにすること（１時間）。
9	有機化学反応序論１：酸と塩基１（和田）	・酸と塩基の種類について ・電子の動きを示すカーブした矢印について ・アルケンとシクロアルケンのIUPAC規則による命名について	予習：酸と塩基について教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：教科書を用いて、ブレンステッド・ローリーの酸塩基、ルイスの酸塩基に関して整理しておくこと。また酸・塩基反応を、カーブした矢印を用いて電子対の動きで説明し、その結果生じる結合の切断と生成について理解しておくこと。アルケンとシクロアルケンをIUPACの規則に従って命名し、構造を書けるようにすること（１時間）。
１０	有機化学反応序論２：酸と塩基２（和田）	・酸と塩基の種類やそれらの強さについて ・酸・塩基反応について ・アルキンのIUPAC規則による命名について	予習：酸と塩基の種類やそれらの強さについて教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：教科書を用いて、酸と塩基の強さやpKaについて、構造と酸性度について、酸・塩基反応の予測に関して内容を整理し、理解しておくこと（１時間）。
１１	カルボン酸とアルコールの酸性度の違い（和田）	・カルボン酸とアルコールの酸性度の違いについて	予習：カルボン酸とアルコールの酸性度の違いについて教科書の該当する箇所を読んでおくこと（1時間）。 復習：教科書を用いて、共鳴安定化、非局在化効果、誘起効果に関する内容を整理し、理解しておくこと（１時間）。
１２	演習２（和田、浦田、宇佐美、平野、山田、米山、平田、葉山、安田）	・授業８～１１回の内容に関する演習を行う	予習：８～１１回の復習をし、教科書の問題を解いてくること（１時間）。

			復習：授業中に行った問題を解き直し、理解を深めること（1時間）。

科目名	有機化学２	科目ナンバー	
英語名	Organic Chemistry 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	和田俊一		

授業の概要	有機化学は、生命体を形成する構成要素である炭素化合物に関する学問である。さらに薬学部の学生が学ぶ「くすり」のほとんどは有機化合物である。その他、身の回りのあらゆるところに、さまざまな有機化合物が関わっている。そのため、将来、「くすり」を患者に説明、投与する薬剤師にとって、その基礎となる有機化学の習得は必須である。皆さんは、既に「有機化学１」で有機化学の最も基礎となる概念を学習したが、これより行われる本講義は、それを土台にさらに立体化学の概念を学び、求核置換、脱離、付加反応を中心に基本的な有機化学反応を修得する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、医薬品のベースとなる有機化合物の化学的・物理的性質、官能基や母核の化学的性質と反応性を学ぶことによって、医薬品の安定性や配合変化、生体内代謝等を有機化学的な視点で推察することができるようになるためである。
授業の方法	教科書、スライド及び配布プリントを用いて講義形式で授業を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	Formsやrespon等を用いて問題を解くことにより各自の理解度を確認し、間違った箇所や理解できていない内容について再学習を求める。
成績評価	定期試験（９０％）と課題（１０％）により評価する。薬学連携演習３で取り扱った内容も定期試験の範囲とする。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案を開示し、解説を行う。　課題の解答はTeamsに開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	『ソロモンの新有機化学　第１１版』　I巻　池田正澄、上西潤一、奥山　格、西出喜代治、花房昭静（監訳）廣川書店
参考書（書名・著者・出版社）	『基礎有機化学問題集　第2版』廣田耕作・片岡　貞・西出喜代治（編）廣川書店 『有機化学　基礎の基礎　100のコンセプト』山本嘉則（編）化学同人

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	アルカンおよびシクロアルカンの立体配座	・エタンおよびブタンの立体配座と安定性について ・シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について ・シクロヘキサンと置換シクロヘキサンのいす形配座について	予習：教科書のエタン、ブタンやシクロヘキサンの立体配座に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に構造式やNewman投影式などを書いて立体配座の理解を深めておくこと。（2時間）
2	立体化学：エナンチオマーとジアステレオマー	・エナンチオマーとジアステレオマーについて ・立体配置の表示法について ・キラリティーと光学活性について	予習：教科書のエナンチオマーとジアステレオマーに関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に立体的な表示法に従って構造式を書くことによってエナンチオマーやジアステレオマーを理解し、また、各キラル中心にR、S表記を付ける練習をして理解を深めておくこと。（2時間）
3	ハロゲン化アルキルの求核置換反応（１）：SN2 反応	・求核置換反応（S_N2 反応）について ・協奏反応について	予習：教科書のSN２反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際にカーブした矢印を用いてSN２反応の反応機構を書き、その特徴を理解しておくこと。（2時間）
4	ハロゲン化アルキルの求核置換反応（２）：SN1 反応	・求核置換反応（S_N1 反応）について ・カルボカチオンについて	予習：教科書のSN１反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。

			（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際にSN1反応の反応機構を書き、カルボカチオンの相対的安定性、超共役について理解を深め、SN1反応の特徴を理解しておくこと。（2時間）
5	ハロゲン化アルキルの脱離反応（１）	・脱離反応（E1およびE2） について ・アルケンの相対的安定性について	予習：教科書のE1およびE2反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際にE1及びE2 反応の反応機構を書き、さらにE、Z-表記、アルケンの相対的安定性、E2反応におけるアンチ共平面の概念について整理し理解を深めておくこと。（2時間）
6	ハロゲン化アルキルの脱離反応（２）および置換反応と脱離反応に影響を及ぼす因子	・脱離反応（E1およびE2） とザイツェフ則、ホフマン則について ・置換反応と脱離反応に影響を及ぼす因子について	予習：教科書のE1およびE2反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、どのような反応条件の時にザイツェフ則とホフマン則が適用されるか、さらに競合的に起こる求核置換反応と脱離反応に影響を与える因子について整理し理解を深めておくこと。（2時間）
7	アルケンの付加反応（１）	・アルケンの求電子付加反応とマルコフニコフ則について	予習：教科書のアルケンの求電子付加反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に求電子付加反応の反応機構を書き、マルコフニコフ則について理解を深めておくこと。（2時間）
8	アルケンの付加反応（２）	・アルケンへのハロゲンの立体特異的反応について ・アルケンの酸化反応について	予習：教科書のアルケンの求電子付加反応と酸化反応に関するページを読んで、疑問点などをまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、アルケンへのハロゲンの立体特異的反応の反応機構を書き、さらにオゾン酸化、オスミウム酸化や過マンガン酸カリウムなどによる酸化について反応式を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	生化学１	科目ナンバー	
英語名	Biochemistry 1		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	藤井		

授業の概要	生化学とは、生命現象を化学的側面から研究する学問である。生命現象は、単純な構造を持ついくつかの化合物や、これらが結合することで形成された高分子が相互作用することによって営まれている。すなわち、分子レベルで生体構成分子の構造、性状、および機能の知識を修得することは、生命現象の根幹を理解することにつながる。 本科目では、生化学の分野の中で特に、生体の構成分子であるアミノ酸、タンパク質、糖質、脂質およびビタミンの構造、性状、および機能に関する基本的な知識を修得する。なお、本科目は、今後学ぶ生物系専門科目を理解するための基礎になることから、十分な知識の修得を求める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、生体の構成分子の構造、性状、機能を学ぶことによって、生命のしくみを分子レベルで理解し、疾患や医薬品などに関連する基礎的な内容を修得するするためである。
授業の方法	教科書を用い、必要に応じてプリント、パワーポイント、動画などを利用して講義形式で行う。毎回の授業終了時に簡単な選択肢形式の課題を提示する。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験結果（100％）により評価する
試験・課題に対するフィードバック方法	試験問題および解答例は学内の取り決めに則って公開し、希望者には本人の答案を開示する。再試験受験対象者には定期試験問題の解説動画を公開する。授業ごとに与える課題は、提出後、直ちにフォームズのクイズ機能で正解と解説を開示する。また、正答率の低い問題については必要に応じて解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『ヴォート基礎生化学第5版』田宮信雄、八木達彦、遠藤斗志也、吉久徹（訳）　東京化学同人
参考書（書名・著者・出版社）	『レーニンジャーの新生化学(上)第7版』 D.L.Nelson他(著)、川嵜敏祐(監修)、中山和久(編集) 廣川 『『マッキー生化学　第6 版』　市川厚(監修)、福岡伸一(監訳)　化学同人 『亀田講義ナマ中継生化学』亀田和久/著　講談社 『マンガでわかる生化学』武村政春/著　オーム社 『好きになる生化学』田中越郎/著　講談社 『スッキリわかる！ グングン身につく！ 生化学ドリル』田中隆明/著　南山堂 『カラー図解生化学ノート書く！塗る！わが！』森誠/著　講談社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	水とアミノ酸	・水の構造、性質、イオン化、pH、および酸塩基とpKaの関係について ・アミノ酸の構造と性質ついて	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
2	タンパク質	・タンパク質の分離、精製、分子量測定、およびアミノ酸配列決定法について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
3	タンパク質の構造	・タンパク質の高次構造、ドメイン構造、変性、再生、およびフォールディングについて。	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
4	タンパク質の機能	・代表的なタンパク質の構造と機能について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノ

			ートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
5	酵素	・酵素反応の特性と様式、酵素反応速度論について ・酵素の阻害様式と酵素活性の調節機構について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
6	糖質	・単糖と二糖の種類、構造、性質、および役割について ・代表的な多糖(複合多糖)の構造と役割について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
7	脂質	・脂質の分類、構造の特徴、性質、および役割について ・生体膜の構造の特徴、性質、および役割について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
8	ビタミン	ビタミンの補酵素としての役割について	予習：教科書の講義範囲の部分を読む(0.5時間) 復習：講義内容をプリントと教科書を見てノートを整理する（定期試験までに整理する）(3.5時間)
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	機能形態学１	科目ナンバー	
英語名	Physiology and Anatomy 1		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	田和・大野・國澤		

授業の概要	ヒトの体は多くの器官によって構成されており、それぞれの器官は固有の機能を発現する細胞と、その集合体である組織から成り立っている。さらに、ヒトの体にはそれぞれの器官や組織が互いに協調して生体の恒常性を維持する仕組み（ホメオスタシス）が備わっている。本講義では、生体のダイナミックな調節機構に加えて、末梢神経系、筋肉・骨格系、循環器系、呼吸器系器官の構造と機能について、理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、ヒトの健康を守り、疾病（末梢神経系、筋肉・骨格系、循環器系、呼吸器系）の予防や治療に必要不可欠な知識を修得するためである。
授業の方法	教科書、プリントなどを用い、一部はパワーポイントによるプレゼンテーションで視覚的に理解が深まるよう解説しながら講義を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験結果（100%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	定期試験問題および解答例は開示し、必要に応じて再試験対象者には解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	大野（企業等の研究者）／企業での薬理学の研究経験、企業での生化学の研究経験を活かし、各器官系の構造と機能および生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識を指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『機能形態学（改訂第４版）』・櫻田忍、櫻田司（編集）・南江堂
参考書（書名・著者・出版社）	『グラフィカル機能形態学―薬が効く先のカラダへの理解を求めて（第２版）』・馬場広子（編集）・京都廣川書店

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	機能形態学概論（大野）	• 解剖学の歴史、生理解剖学について • 個体発生について • 人体を構成する器官系について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
2	神経生理（國澤）	• 神経細胞の興奮と伝達、シナプス伝達機構について • 代表的な神経伝達物質とその生理活性および調節機構について • 神経による調節機構、細胞内情報伝達系について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
3	末梢神経系（國澤）	• 末梢（体性・自律）神経系について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
4	筋肉系（國澤）	• 筋肉系の構成と機能について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
5	循環器系１（田和）	• 心臓の構成と機能、血圧の調節機構について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
6	循環器系２（田和）	• 血管、リンパ系の構成と機能、血圧の調節機構について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。

			復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
7	呼吸器系１（田和）	• 肺、気管支などの呼吸器系の構成と機能について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
8	呼吸器系２（田和）	• 呼吸運動、肺におけるガス交換について	予習（２時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回で受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	機能形態学２	科目ナンバー	
英語名	Physiology and Anatomy 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	清水		

授業の概要	ヒトの体は多くの器官によって構成されており、それぞれの器官は固有の機能を発現する細胞と、その集合体である組織から成り立っている。さらに、ヒトの体にはそれぞれの器官や組織が互いに協調して生体の恒常性を維持する仕組み（ホメオスタシス）が備わっている。このような人体の構造と機能を学ぶことは、ヒトの健康を守り、疾病の予防や治療に関わる医療分野の重要な知識基盤となる。本科目では、中枢神経系および感覚器系の構造と機能について学習する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、中枢神経系および感覚器系における生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解することにより、各器官の構造と機能調節などに関する基本的知識を修得することである。
授業の方法	教科書、プリントなどを用い、一部はパワーポイント等によるプレゼンテーションで視覚的に理解が深まるよう解説しながら講義を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験結果（100％）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	希望者には試験答案を開示し、必要に応じて解説を行う。また、模範解答を公開する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『機能形態学（改訂第4版）』櫻田忍、櫻田司（編集）南江堂
参考書（書名・著者・出版社）	『グラフィカル機能形態学（第２版）―薬が効く先のカラダへの理解を求めて―』馬場広子（編著）京都廣川書店 『図解　薬理学』鍋島俊隆　他（編集）南山堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	中枢神経系１	・中枢神経系の構造と機能について ・脳室、脳脊髄液、髄膜について ・脳の血管、血液脳関門について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
2	中枢神経系２	脊髄の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
3	中枢神経系３	脳幹、間脳の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
4	中枢神経系４	大脳基底核、小脳の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
5	中枢神経系５	大脳辺縁系、大脳皮質の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
6	感覚器系１	・体性神経系の構成と機能について ・皮膚の構成と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。

			復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
7	感覚器系２	視覚の構成と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
8	感覚器系３	聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚の構成と機能について	予習（2時間）：該当項目について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	基礎薬学導入学習	科目ナンバー	
英語名	Introduction to laboratory techniques		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	平野・藤森・宮本・山田・坂口・藤井・土屋・小池・田中智・伊藤・安田・中辻		

授業の概要	薬局、病院における実務では、秤量、溶液などの調製、分析、観察など様々な操作が行われる。そのため薬学教育においては、有機化学、生物学、薬理学などの実習を通じて様々な手技を経験し、各操作の原理、目的を理解することとなる。「基礎薬学導入学習」ではこうした実習への導入として、有機化学、分析化学、生物学の基礎的な実験を行う。これらを通して各実験操作の原理、目的だけでなく、化学物質、実験器具の安全かつ適切な取り扱いや、実験における倫理、マナーも修得する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、実務、実習における全ての操作には原理と目的があることを理解し、適切かつ安全に実施することができるようになるためである。
授業の方法	テキストを用いて各実験の内容と操作上の注意点について説明した後、数名ずつのグループに分かれて実験を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	各回、小グループで学生同士が協力して実験を行う。また、教員とのコミュニケーションを通じて、実験における倫理、マナーについても修得する。
成績評価	全ての回に出席した上で、レポートにより評価する（100%）。
試験・課題に対するフィードバック方法	レポートは内容を確認の上、返却する。また、質問、解説には個別に対応する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	藤森（企業等の研究者）／企業での生化学の研究経験を活かし、実験・実習で必要な基本的知識、技能、態度を指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	配布するテキスト
参考書（書名・著者・出版社）	『実験を安全に行うために』化学同人編集部 化学同人 『続・実験を安全に行うために』化学同人編集部 化学同人

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	実験に関する概説	実験についての概説 ・実験で用いる器具の名称と役割について	予習：テキストを熟読して、本科目の目的と全体の流れを把握する（1時間）。 復習：今回の内容に関して調査し、レポートとしてまとめる（（3時間）
2	アスピリンの合成と再結晶による精製	代表的な医薬品であるアスピリンの有機合成について ・化合物の溶解度の変化を利用した再結晶による精製について	予習：テキストを熟読して、本科目の目的と全体の流れを把握する（1時間）。 復習：今回の内容に関して調査し、レポートとしてまとめる（（3時間）
3	鎮痛薬からの薬効成分の分離と分析	市販の医薬品からの薬効成分の分離と医薬品の製品としての成り立ちについて ・薄層クロマトグラフィーによる化合物の分析について	予習：テキストの当該箇所に目を通し，概要を把握して実験に臨むように努める（1時間）。 復習：実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる（（3時間）
4	生物系実験で用いる実験器具の取り扱いと顕微鏡による生体試料観察	顕微鏡やマイクロピペットの取り扱いについて ・顕微鏡による生体試料の観察について ・分光光度計による吸光度測定とデータ解析について	予習：テキストの当該箇所に目を通し，概要を把握して実験に臨むように努める（１時間）。 復習：実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる（３時間）。
5			
6			
7			
8			

9			
1 0			
1 1			
1 2			

科目名	生薬学	科目ナンバー	
英語名	Pharmacognosy		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必須		
単　位	1.0単位		
指導教員	芝野		

授業の概要	生薬は人類が自然の恵みを利用して作りあげてきた薬物であり、各国の伝統医療や民間療法に使用されている。一方、我が国の現代医療では、様々な疾病治療に漢方薬（伝統医療）が取り入れられており、それらの漢方薬を構成している生薬の知識がより一層必要になってきている。この授業では、各生薬の実物や、基原植物のスライド（写真等）を用いて、日本薬局方に収載されている代表的な生薬について解説する。さらに、薬用植物園での観察会を実施し、重要生薬の基原植物や薬用部位、有毒植物について実物を観察することで理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本授業では、日本薬局方収載の生薬を中心に、その基原、性状、含有成分、品質評価、生産と流通、歴史的背景についての基本的知識を修得する。さらに、臨床で使用される漢方薬について理解するために、漢方生薬の経験的薬能や副作用についての知識を修得する。
授業の方法	教科書を用いての講義形式で授業（対面形式）を行う。また、観察会（野外学習）を取り入れる。
アクティブ・ラーニングの取組	民間薬などについて薬用植物園などで調査し、課題レポートを作成する。さらに、見学会では、授業で取り上げた生薬について各自で課題を決め、観察レポートを作成する。詳細な課題例については、授業内で説明する。
成績評価	定期試験結果（70%）、課題レポート（20%）、観察会で提出したレポート（10%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。（各レポートの採点結果も開示する。）
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／12.つくる責任 つかう責任／15.陸の豊かさも守ろう
教科書（書名・著者・出版社）	『ミニマムファクター漢方生薬学（第2版）』・芝野真喜雄・京都廣川書店
参考書（書名・著者・出版社）	『生薬単―改訂第3版』・伊藤 美千穂・北山 隆監修／原島 広至著・丸善雄松堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	総論 民間薬 医薬品原料生薬 （アヘン、ロートコンなど） 漢方生薬の性質 各論　カンゾウ	日本の民間薬や漢方薬に使用される生薬の性質、流通や資源確保などについてカンゾウを例にして解説する。	予習：教科書生薬編の総論および各論カンゾウ、アヘン、ロートコンを読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
2	各論　ニンジン、コウジン、オウギ、タイソウ、ダイオウ、（センナ）	補気薬および瀉下薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。さらに、修治について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
3	各論　マオウ、ケイヒ、ショウキョウ、カッコン	解表薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
4	各論　オウレン、オウバク、オウゴン、	清熱薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）

5	各論　ブシ、カンキョウ、ウイキョウ、ゴシュユ	温裏薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
6	各論　シャクヤク、トウキ、ジオウ、ボタンピ、トウニン、センキュウ	補血薬および駆瘀血薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
7	各論　チンピ、キジツ、コウボク、サイコ、ブクリョウ、チョレイ、	理気薬および利水薬に分類される生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
8	各論　ビャクジュツ、ソウジュツ、センソ、ゴオウ、ボレイ、リュウコツ、セッコウ	利水薬に分類される生薬および動物生薬、鉱物生薬について、その基原、薬用部位、薬効、薬能、成分、用途などを解説する。また、副作用や使用上の注意について解説する。	予習：授業項目に相当する生薬の解説を読んで概要などの基本事項を確認しておくこと。（２時間） 復習：ノートや配布資料について教科書で確認する。また、薬用植物園などを利用して原植物も確認すること。（２時間）
9	観察会	武田薬品・京都薬用植物園の協力で、本学薬用植物園では観察できないダイオウなどの薬用部位や有毒植物について見学し、代表的な薬用植物を外部形態についても理解を深める。	観察会までに学んだ生薬をもう一度復習し、観察会に臨むために2時間ぐらいの復習が必要である。また、観察会後のレポート作成に2時間以上は必要である。
１０			
１１			
１２			

科目名	多職種連携論１－医療人マインド	科目ナンバー	
英語名	IPE 1-Healthcare Professional Mindset		
年次・期間	1年次・前期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	中村敏明・矢野・加藤隆児・角山・佐藤・清水・天ヶ瀬・小池・田中早織・羽田・田中智		

授業の概要	医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとれるようになるために、医学部生、看護学部生と共に、医療に関わる専門職種の役割・機能について学ぶとともに、医療人としてふさわしい態度を身につけ、医療人としての自覚を促す。また、各職種の「やりがい」を知ることで、自らの職種について考えるキャリアデザインに関する意識涵養を目指す。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、自職種（自学部）と他職種（他学部）の役割を理解した上で、他職種の意見を尊重しながら、最適な対応を提示・行動できるように他職種と職種間協働について建設的なディスカッションできるようになるためである。
授業の方法	医学部・看護学部と合同で講義する。各講義後には、質疑応答の時間を設定し、学びを共有する。講義後には、省察することで学びを定着させる。
アクティブ・ラーニングの取組	医学部・薬学部・看護学部の3学部で同時に同じ講義を聴講し、他学部生と感想や質疑等の情報を共有する。
成績評価	毎回の質問や感想などの提出物20％、総合課題80％
試験・課題に対するフィードバック方法	毎回の授業終了後質問を受け付け、回答する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	中村敏（薬剤師）・矢野（薬剤師）・角山（薬剤師）・羽田（薬剤師）／大学附属病院での薬剤師実務経験を活かし、医学部生、看護学部生と3学部が連携した学びの場を提供し、医療に関わる専門職種の役割・機能について指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／17.パートナーシップで目標を達成しよう
教科書（書名・著者・出版社）	なし
参考書（書名・著者・出版社）	実践　多職種連携教育（監修赤澤千春、寺﨑文生）　中外医学社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	これからの社会に求められる医療人について	オリエンテーション：シラバスおよび講義の進め方等　4年もしくは6年の一貫した多職種連携カリキュラムについて ポートフォリオ作成方法に関して ・学長からのメッセージ	復習：学習ポートフォリオの活用について整理する（1時間）。 学長からのメッセージを踏まえて6年間の学びを考える（3時間）。
2	わが国の保健医療における医師・看護師の働き	日本の保健医療行政 ・医師のやりがいと醍醐味 ・特定機能病院の役割と患者にやさしい病院 ・病院組織での医療職の協働と医療人マインド ・看護師のやりがいと醍醐味 ・地域に根ざす大学病院における看護の働き ・これからの医師と看護師・多職種の協働 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：自分の居住自治体の医療保健部門の名称やトピックスを調べる（1時間）。 復習：わが国の保健医療を概括する（3時間）
3	わが国の保健医療における薬剤師の働き ・医学部・看護学部・薬学部学生が知っておきたい多職種連携のなかの歯科治療	・薬剤師のやりがいと醍醐味 ・薬理・薬剤 ・薬剤師の役割と機能、多職種の協働 ・医学部・看護学部・薬学部学生が知っておきたい多職種連携のなかの歯科治療 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：薬剤師・歯科医師について調べる（2時間）。 復習：多職種連携とはどのようなことか、学んだことをまとめる（2時間）。
4	医療職の機能と役割1	放射線技師のやりがいと醍醐味 ・臨床検査技師のやりがいと醍醐味 ・放射線技師および臨床検査技師の働き 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：放射線技師、臨床検査技師について調べる（2時間）。 復習：放射線技師、臨床検査技師への感想と

			医療における多職種協働について考えを整理する（2時間）。
5	医療職の機能と役割2	・リハビリテーション部の機能と役割 ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のやりがいと醍醐味 ・対象となる患者の状態、生活の不自由さをとる、緩和するとは？ 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：リハビリテーションについて調べる（2時間）。 復習：リハビリテーション（部）の機能と役割について学んだことをまとめる（2時間）
6	高槻市行政からの本学への期待 地域における薬局の役割と薬剤師の働き	高槻市の健康課題と取り組み、大学病院への期待 ・医師・看護師・薬剤師の役割と機能について討論する。 薬局薬剤師の醍醐味、地域における薬局の役割と機能 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：高槻市の保健医療に関する事柄について調べる（１時間）。 薬局薬剤師の役割について調べる（1時間）。 復習：高槻市の健康課題と取り組み、薬局薬剤師の役割について学んだことをまとめる（2時間）。
7	医療職の機能と役割3	医療事務職のやりがいと醍醐味 ・医療事務職の働き ・多職種の協働 ・MSW（メディカルソーシャルワーカー）のやりがいと醍醐味 ・地域連携の意味と連携機関と職種 ・附属病院でのMSWとしての活動 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：医療事務職、MSWについて調べる（2時間）。 復習:医療事務職、MSWの機能と役割について学んだことをまとめる（2時間）。
8	医療人マインドとは 医療人としての自覚まとめ	栄養士のやりがいと醍醐味 ・栄養士としての患者・家族への栄養指導 ・日々の生活からの振り返り：投書箱への意見からの学生に理解を促す。 ・学生の質問に対するコメント ・医療人としてふさわしい態度について意見交換を行う。 演者への質疑応答や意見交換（感想等）	予習：栄養士について調べる（1時間）。 医療人としてふさわしい態度とはどのようなものかについて考える（1時間）。 復習：栄養士の機能と役割について学んだことをまとめる（1時間）。 医療人としてふさわしい態度とはどのようなものか考えをまとめる（1時間）。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	早期体験学習	科目ナンバー	
英語名	Early Exposure		
年次・期間	1年次・通年		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	（早期体験学習委員長）・早期体験学習委員		

授業の概要	早期体験学習は、入学後の早い時期に病院や薬局などの医療施設を始め、製薬企業、公務員など、薬剤師および薬学出身者の活躍する現場を理解し、見学体験を実際に行うことにより、修学・就労意識の高揚を期待するものである。早期体験学習の導入講義によって、医療人としての薬剤師が果たすべき役割、薬局や病院における薬剤師業務、製薬企業における薬学出身者の業務などについて学習する。実際の体験学習としては、小グループ単位で地域の薬局、ドラッグストア等の見学を実施予定である。また、可能な限り希望者を対象とした総合病院等の見学を実施予定である。見学前には施設体験の動機付けと目標設定、見学後には各薬剤師の役割や位置付け、現状での問題点などを担当教員の指導のもとに小グループ単位で討論を行う。様々な領域で働く薬剤師の姿を知り、「薬剤師として求められる基本的な資質」について考え、それらを身につけるために必要な学びとは何かをグループディスカッションし、これからの大学生活をどう送るか具体的に考える。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、早期体験学習において薬剤師および薬学出身者の活躍する就労現場を理解し、見学体験を実際に行うことで、将来の進路（キャリアデザイン）を明確にするきっかけを作り、在学時の学習目的の鮮明化、および学習意欲の向上を目的とする。
授業の方法	講義ならびにグループごとの体験学習（スモールグループディスカッション（SGD）、発表および報告書作成を含む）。状況に応じて、オンデマンド講義を併用する。
アクティブ・ラーニングの取組	体験学習前のSGD、体験学習後のSGD、様々な薬剤師の業務と果たすべき役割に関するSGD
成績評価	施設見学・見学前後のSGD・全体発表会における態度30%、講義に関連したレポート等70%
試験・課題に対するフィードバック方法	体験学習のレポートについて、内容を確認の上、必要に応じてアドバイスする。最終報告書は、冊子にまとめ開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	中村敏（薬剤師）・角山（薬剤師）・羽田（薬剤師）／臨床での薬剤師実務経験を活かし、患者・生活者本位の視点に立つ医療人として果たすべき役割への理解を促し、入学後の早い時期に病院や薬局などの医療施設での薬剤師および薬学出身者の活躍する現場の見学体験を通して、学習に対するモチベーションを高める。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	
参考書（書名・著者・出版社）	『早期体験学習ガイドブック　改訂版』　村田正弘　ネオメディカル 『薬学生・薬剤師のための：キャリアデザインブック』　Vol.2　西鶴智香　薬事日報社

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	コンプライアンス研修　（外部講師）		
2	早期体験学習のねらい（早期体験学習委員長）	薬学出身者の活躍する就労現場を理解し、将来のキャリアデザインについて考える。	復習3時間：将来、薬剤師としてどう活躍するのか、今後の行動計画を立てる。
3	医療現場における薬剤師のマナー・倫理　（2コマ使用）　（外部講師）	常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動するために、医療人として身につけるべきマナーや倫理について学ぶ。	復習3時間：これまでの行動を振り返り、マナー、人間性について改めて考え、豊かな人間性を身に付けるための、今後の行動計画を立てる。 レポート提出
4	薬局薬剤師の業務と果たすべき役割（外部講師）	チーム医療や地域保険・医療・福祉を担う一員としての責任、健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について学ぶ。	復習3時間：地域における医療・福祉の現状を知り、将来の薬剤師としての果たすべき役割について考察する。 レポート提出
5	病院薬剤師の業務と果たすべき役割（外部講師）	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持ち、医療機関の薬剤師の社会における役割について学ぶ。	復習3時間：医療提供施設である病院に勤務する薬剤師の業務を知り、将来の薬剤師としての果たすべき役割について考察する。 レポート提出

6	企業で働く薬剤師の役割（外部講師）	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について学ぶ。	復習3時間: 企業で働く薬剤師の現状を知り、将来の薬剤師としての果たすべき役割について考察する。 レポート提出
7	公務員として働く薬剤師の役割（外部講師）	公務員として働く薬剤師の役割について学ぶ。	復習3時間: 公務員として働く薬剤師の現状を知り、将来の薬剤師としての果たすべき役割について考察する。 レポート提出
8	訪問施設の業務と果たすべき役割グループ討議（体験学習前）	グループディスカッション（アクティブ・ラーニング） 患者・生活者の視点に立って、薬剤師業務の重要性について討議する。地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。	予習3時間:訪問する施設の機能、役割等について事前に調査し、グループディスカッションに活発に参加できるように準備する。 ワークシート準備
9	施設訪問の体験学習(2コマ使用)	施設見学・体験学習（アクティブラーニング） 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について学ぶ。患 者・生活者の視点に立って保険薬局薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬の安全性・有効性の確保、QOL(Quality of Life) の向上への寄与など、薬剤師業務の重要性について討議する。	復習3時間:体験前にグループで話し合った内容と実際に施設見学したこととを踏まえ、報告書にまとめ る。 レポート提出
１０	薬局薬剤師の業務と果たすべき役割　グループ討議(体験学習後)	グループディスカッション（アクティブ・ラーニング） 患者・生活者の視点に立って、薬剤師業務の重要性について討議する。地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。	復習3時間：自身の体験ならびに他のグループの意見も踏まえ、学んだことを報告書にまとめる。 レポート提出
１１	薬局実習の発表及び様々な薬剤師の業務と果たすべき役割グループ討議(3コマ使用)	グループディスカッション、発表（アクティブ・ラーニング） 薬局実習の発表を行った後、様々な領域で働く薬剤師の姿を知り、「薬剤師として求められる基本的な資質」について考え、それらを身につけるために必要な学びとは何かをグループディスカッションし、これからの大学生活をどう送るか、具体的に考える。	復習3時間: グループで話し合った内容と実際に施設見学したことを踏まえ、報告書にまとめる。 レポート提出
１２			

科目名	医療薬学導入学習	科目ナンバー	
英語名	Introduction to Pharmaceutical Clinical Practicum		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	福森・駒野・加藤隆児・幸田・山口・柳田・田中早織		

授業の概要	病院等の医療の現場では、薬剤師としての職責を果たすために身につけておくべき理解・知識・技能等がある。さらに、薬剤師が、医師や看護師やその他の医療従事者と共有しなければならない理解・知識・技能等もある。医療薬学導入学習では、これらの中でも臨床薬学教育への導入となるような基本的かつ必須の知識や考え方を、人体モデルや医療機器に触れるような実習を通じて学習する。また、ワクチン接種を含む発展的な内容も学習する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	医療薬学導入学習の目的は、医療現場における技能・手技等について、その背景にある医学・医療の知識を理解し、実際に体験することを通して、医療に対する理解を深める事である。同時に、医療への興味の向上やコミュニケーション力を育むことも目的としている。
授業の方法	グループに分かれて、ローテーション形式で、各テーマを学習する。
アクティブ・ラーニングの取組	テーマの中でも、さらに小グループに分かれて実習を行うこともある。その際、学生さん一人一人の理解度に応じて、個別に指導する。
成績評価	テーマ毎に、担当教員が評価します。まず、実習全体を通して、薬剤師にふさわしい身だしなみを含む実習の受講態度が主要な評価ポイントとなります。個別には、第１班では、受講態度8割・レポート2割で評価します（福森、山口、柳田）。第２班は、テスト問題を含む小レポートに記載してもらい、形成的に評価・採点して後日返却します（加藤隆、幸田、田中早、駒野、福森）。第３班は受講態度8割・Forms課題2割で評価・採点します（加藤隆、幸田、田中早）。第４班は受講態度8割・Forms課題2割で評価します（福森、山口、柳田）。第５班は実習受講態度３割・小レポート７割で評価・採点し、レポートは後日返却します（駒野）。以上の各班の点数を合計して最終的な評価点とし、定期試験は実施しません。未受講が一コマでもあれば、単位は認定されません。やむを得ない理由で欠席した場合は、教務課で欠席届を提出の上、教員にご連絡ください。欠席理由が正当であると認定される場合は、別の機会に、欠席したテーマのみ補講を実施します。
試験・課題に対するフィードバック方法	原則として、各実習時間中に完結しますが、一部のテーマでは、後日にレポートを返却する場合があります（『成績評価』を参照のこと）。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	福森（医師）・駒野（医師・企業等の研究者）／国内や海外の研究機関での研究および臨床経験を活かし、医療現場で使用されているさまざまな技能・手技等を体験することを通した医療に対する理解を深めさせ、また、グループでの体験学習により、チーム内でのコミュニケーション、情報のやり取り、チームワークの大切さ等を指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	指定しない。
参考書（書名・著者・出版社）	『薬物治療学　改訂最新版』・吉尾隆、他（編集）・南山堂 『ダイナミック・メディシン１』・下条文武・齋藤康　監修・西村書店 『薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント』・河野 茂 監修・南江堂 『今日の治療薬』・浦部晶夫 ほか編集・南江堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	すべてのテーマにおける基本的姿勢：	医療者への第一歩である本実習では、まず、身だしなみや振る舞いを大切にします。白衣を正しく着て、名札は見えるように着用して受講ください。特に、病院に来る患者さんや患者さんの家族に見られて、問題と感じさせることのない身だしなみや振る舞いで実習を受講してください。白衣を忘れてくることも含め身だしなみが不適切な場合は、受講をお断りする場合があります。	以下のことを十分に想像して、熟慮する（予習：毎回1時間）。 ・自分（または自分の家族）が病院にかかった時に、どのような身だしなみの医療者に、自分（または自分の家族）の病気のことを相談しようと思うでしょうか？ ・初対面の患者さんに薬の説明をするときに、薬剤師である自分が、どのような身だしなみでお話しすると、安心や安らぎを患者さんに届けることができるだろうか？ ・自身の心身を医療にゆだねざるを得ない患者さんが、どのような医療者を信用するだろうか？ ・自分は他人に確認してもらわないといけないような不適切な身だしなみや振る舞いをしていないだろうか？ ・各実習の項目を熟読し、その実習がスムーズにできるような身だしなみや態度は何だろ

			うか？
2	第１班の内容：老年期の心身の変化と血圧（福森、山口、柳田）	以下の4つセッションに分かれている。高齢者装具として膝に装具をつけるために、スカートは避けてください。また、装具のマジックテープが、ストッキング等に引っかかる可能性があります。装具をつけても問題ない服装でお越しください。 1) 老年期における身体機能の変化について。老年期に起こる病気（神経変性疾患を含む）の講義を受けた後に、車いす及び装具などを用いて、老年期における身体の変化を体験する。 2) 老年期における脳機能の変化について。認知機能検査である長谷川式やMMSEの取り方の説明を聞いた後に、2人一組となり互いが検査者役と患者役となってそれぞれ体験する。 3) 高齢者に対する服薬指導体験 4) 血圧の測定とその原理	1) 老年期に起こる病気（神経変性疾患を含む）や、2) 高次脳機能や認知機能検査 4)血圧測定とその原理について教科書やインターネット等で調べ予習する（1時間）。 老年期に起こる様々な変化について復習し、将来薬剤師として働く際に気を付けることを考える（1時間）。
3	第２班の内容：ワクチン接種シミュレーション（加藤隆、幸田、田中早、駒野、福森）	1) 安全なワクチン接種部位を修得するために、上腕を中心とした解剖学の基礎を学ぶ。 2) 装着式上腕筋肉注射シミュレータを用いて、筋肉内注射を体験する。 3) SimMan3G医療シミュレータを用いて、フィジカルアセスメントと薬学的管理を体験し、副反応発現時の身体変化を把握する。アナフィラキシーショック時の緊急時対応（エピペン）を修得する。	1) 特に肩、腋窩、上腕部解剖学に関する医学用語、アナフィラキシーショック時の薬物治療について予習する（1時間）。 2) 正しいワクチン接種部位とアナフィラキシーショック時の緊急時対応について復習し、将来、薬剤師がワクチン接種の担い手として果たす役割について考える（1時間）。
4	第３班の内容：フィジカルアセスメント、呼吸機能評価、心肺蘇生、TDM（加藤隆、幸田、田中早）	1) フィジカルアセスメントに関する講義を行った後、ニプロハートラインシステム（見守り支援）を用いて、血圧測定とパルスオキシメーターを使用した測定を行う。薬剤師によるフィジカルアセスメントと薬学的管理を体験する。 2) 拘束性・閉塞性肺障害の病態およびその診断について講義を行った後、スパイロメータを使用して自分の呼吸機能を診断する。 3) 心肺蘇生について講義を行った後、医療用モデル（人形）、AED等を用いて、救急蘇生・胸骨圧迫を体験する。 4) 症例（呼吸器系の副作用発現）を用いて、フィジカルアセスメントの関わり方や、それら副作用と疾患の病態による身体反応についてグループディスカッションを通して学ぶ。 5) 病院施設内におけるTherapeutic drug monitoring（TDM）の意義と目的、測定法とその解析について講義を行う。	1) フィジカルアセスメントやバイタルサインの測定、 2) スパイロメーター、パルスオキシメーター、拘束性・閉塞性肺障害、 3) 救急蘇生、 4) TDMについてインターネット等で調べ予習する（1時間）。 フィジカルアセスメント、呼吸機能評価、心肺蘇生、TDMについて復習し、将来薬剤師として働く際に気を付けることを考える（1時間）。
5	第４班の内容：薬物療法のモニタリングに必要なフィジカルアセスメント（福森、山口、柳田）	１）事例を用いて、識別コードによる持参薬の調べ方と継続投与の可否などを検討する。 ２）Self-monitoring of blood glucose (SMBG) 講義では、インスリン製剤や吸入薬の種類やそれぞれの特徴、使用方法を学ぶ。 患者自身が実施できる薬物療法のモニタリング（SMBGやピークフローメータなど）やインスリン自己注射の手技を体験または見学し、患者の視点からみた薬物療法の実践に必要な薬剤師の関わりについて考える。以上の体験を通して、薬学は総合的な学問であり、多様な科目を密接に関連させながら将来の薬剤師に必要な知識・技能・態度を学ぶ必要性を認識する。 ３）薬学的管理講義では、呼吸器、代謝・内分泌系の代表的な疾患を取りあげ、それら疾患の病態や治療薬の投与による身体反応について学ぶ。実習では、薬物療法の効果や副作用のモニタリングに有用なフィジカルアセスメントを医療用モデル（シナリオ）等を用いて体験し、薬学的管理の基本を習得する。	予習として、薬剤の識別コードより情報を集めることができることを知ることを事前に知り、呼吸器や代謝性疾患についての病態や治療法についてインターネット等で調べ予習する（1時間）。 復習として、実習で体験や見学した内容について振り返り、将来薬剤師として働く際に気を付けることを考え、自身の目標とする薬剤師像をより明確にする。（1時間）。
6	第５班の内容：循環器・泌尿器系の解剖と生理（駒野）	1) 循環器系の検査（駒野）講義では循環器系の解剖と生理を学び、血液循環の基本を理解する。実習では心電図または心エコーを体験する。 2) 呼吸器系の検査（駒野）講義では呼吸器系の解剖と生理を学び、感染制御の基本を理解する。実習ではN95マスクを体験する。 3) 泌尿器系の検査（駒野）講義では泌尿器系の解剖	1) 循環器系の解剖と生理、心電図・心エコー検査についてインターネット等で調べ予習する。 2) 呼吸器系の解剖と生理についてインターネット等で調べ予習する。 3) 泌尿器系の解剖と生理、腎機能・尿検査についてインターネット等で調べ予習する。

		と生理を学び、腎機能の基本を理解する。実習では尿検査を体験する。	（以上合計1時間） 循環器・呼吸器系の解剖と生理、心電図、心エコー、泌尿器系の解剖と生理、腎機能、尿検査について復習し、将来薬剤師として働く際に気を付けることを考える（1時間）。
7			
8			
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学生涯学習プログラム演習	科目ナンバー	
英語名	Exercises in Continuing Pharmaceutical Education program		
年次・期間	1年次・前期／1年次・後期／2年次・前期／2年次・後期／3年次・前期／3年次・後期／4年次・前期／4年次・後期／5年次・前期／5年次・後期／6年次・前期		
選必区分	自由		
単　位	1.0単位		
指導教員	坂口・大野・中村敏明・恩田・スミス・宮崎・矢野・芝野・金・津山・平田雅彦・小池・田中早織・葉山		

授業の概要	医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師には、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、生涯にわたって学び続ける姿勢が求められる。殊に、病院薬剤師には「チーム医療」の場で活躍できる実践的な臨床能力が、薬局薬剤師には健康サポート薬局で活躍できる「かかりつけ薬剤師」としての能力が求められる。こうした薬剤師の卒後教育を支援するため、本学薬学部では過去40年にわたって、「公開教育講座」などの生涯学習プログラムを開講してきた。さらに、2022年9月には、薬剤師認定制度認証機構（Council on Pharmacists Credentials, CPC）によって「CPC認証研修機関」として登録され、薬剤師生涯研修の推進と充実を図っている。一方、こうした生涯に渡り学び続ける姿勢は学部在学中から養っておく必要があり、卒前教育と卒後教育のシームレスな一貫教育が求められている。本科目では、「公開教育講座」などの薬学生涯学習プログラムを受講し、薬物治療に関わる最近の話題や医療現場での患者対応などを学ぶ。これら授業を通じて、薬剤師になるための今後の学びと薬剤師となった後の生涯研修に対する心構えを構築する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ目的は、薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報について学ぶとともに、薬剤師として生涯にわたって学び続ける姿勢を養うためである。
授業の方法	薬学生涯学習センターが主催する薬学生涯学習プログラムのうち、「公開教育講座」、「サンスター・薬学部共催セミナー」、「認知症サポーター養成講座」から任意の8講座（1講座：90分の講義・演習）を受講する。各授業内容に関連したレポート課題に取り組み、復習を通じて自ら考え、学ぶ姿勢を養う。
アクティブ・ラーニングの取組	一部の授業では、クリッカーやレスポンなどを利用した質問や演習を行う場合がある。
成績評価	各回の授業に関連したレポートにより評価する（100%）。
試験・課題に対するフィードバック方法	必要に応じて質問・面談を受け付け、授業・課題内容の理解と医療人を目指す基本的姿勢の修得を促す。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	大野（企業等の研究者）・中村敏（薬剤師）・恩田（薬剤師）・宮崎（企業等の研究者）・矢野（薬剤師）・金（薬剤師）・津山（薬剤師）／企業での薬理学の研究経験、公的研究機関や病院機構での研究および臨床経験を活かし、各器官系の構造と機能および生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識を指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	特に指定しない。薬学生涯学習プログラムで提供される各授業の資料を用いる。
参考書（書名・著者・出版社）	特に指定しない

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	概論・オリエンテーション	・薬剤師生涯研修について ・授業の目的と進め方 ・各種認定・専門・指導薬剤師等の制度について ・本学の生涯学習プログラムについて	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行うこと。（3 時間）
2	講座①	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
3	講座②	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
4	講座③	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振

			り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
5	講座④	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
6	講座⑤	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
7	講座⑥	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
8	講座⑦	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
9	講座⑧	薬物治療や薬剤師業務に関わる最近の情報に関する講義・演習	予習：授業資料を確認し、自主学習をして疑問点などをまとめておくこと。（1 時間） 復習：講義ノートや授業資料を基に授業の振り返り（復習）を行い、レポートを作成すること。（3 時間）
１０			
１１			
１２			

科目名	基礎薬理学	科目ナンバー	
英語名	Basic Pharmacology		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	田和		

授業の概要	各種疾患に対する治療において、薬物療法は欠くことのできない手段である。適正に薬物療法を実践するためには、医薬品の有効性、安全性、体内動態などを幅広く理解することが必要である。本講義では、薬物が作用する基本形式（薬理学総論）に加えて、自律神経系に作用する薬物がどのようなしくみで生体に作用するかについて、理解を深める。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、医薬品の生体に及ぼす影響とその作用機序に関する基本的な知識を修得するためである。
授業の方法	教科書、プリント、スライドなどを用いた講義形式の授業を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	定期試験結果（100%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	定期試験問題および模範解答は開示し、必要に応じて再試験対象者には解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『NEW薬理学　改訂第７版』・田中千賀子　他（編集）・南江堂
参考書（書名・著者・出版社）	『図解　薬理学』・鍋島俊隆　他（編集）・南山堂 『疾患薬理学　改訂版』・成田年（監修）・ネオメディカル 『今日の治療薬　2024』・伊豆津宏二　他（編集）・南江堂 『薬がみえる vol.1　第２版』・医療情報科学研究所（編集）・MEDICMEDIA

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	薬理学総論	薬と薬理学の歴史について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
2	薬の作用のメカニズム	薬物が作用するしくみ（受容体、酵素、イオンチャネル、トランスポーター）について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
3	自律神経系に作用する薬１	交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
4	自律神経系に作用する薬２	交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
5	自律神経系に作用する薬３	交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。

			復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
6	自律神経系に作用する薬４	副交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
7	自律神経系に作用する薬５	副交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
8	自律神経系に作用する薬６	副交感神経系に作用する代表的な薬物の薬理作用、作用機序、臨床用途、主な副作用について	予習（２時間）：「授業計画」の各回該当箇所について教科書で予習し、疑問点を整理しておく。 復習（２時間）：各回の授業内容を復習し、理解した内容を整理しておく。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学連携演習１	科目ナンバー	
英語名	Interscientific Exercises in Pharmaceutical Sciences 1		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	土井・竹本・浅野		

授業の概要	命に関わる専門職である薬剤師として薬物治療などに積極的に参画していくためには、多くの具体的な事実を覚えるだけではなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化した上で新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に付けることが求められる。こうした総合的な学力の修得には、個々の学習事項が相互にどのようにつながっており、関係しあっているかを深く理解することが必要となる。1年次から4年次に設定される薬学連携演習シリーズ（計27科目）では、各関連講義科目などで学ぶ学習内容が当該領域の中でどのような位置づけにあり、また、他の領域とどのような関連性があるかについての理解を深め、それにより薬剤師が直面しうる課題や問題点の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を醸成することを目的とする。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	医薬品には含まれる化合物の物性があります。それらを理解することで、製剤の特徴・目的、使用方法を推察できるようになります。そのためには、熱とエネルギーの関係について学ぶための基礎となる知識を習得する必要があります。本連携演習科目では、数理的な側面から熱力学の基礎付けを行うとともに、練習問題を解きながら物理化学に関する理解を深めることを目的としています。
授業の方法	講義ごとに実施する演習問題によって自己の理解度を確認する。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	演習中に行われる課題によって評価する（100%）。
試験・課題に対するフィードバック方法	必要に応じて解答を開示し、問題の解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	物理化学１で用いるテキストを基本としプリントを配布する。
参考書（書名・著者・出版社）	物理学・物理学演習および数学１・数学演習で用いた教科書。

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	熱力学	熱力学の第１法則（仕事とエネルギー）（竹本）	予習：物理学・物理学演習（前期）での仕事とエネルギーの復習。（2時間） 復習：熱力学の第一法則を用いた問題を復習し、熱力学におけるエネルギー保存則を再度確認。（2時間）
2	気体の分子運動論（１）	気体の分子運動論（運動量と力積）（竹本）	予習：物理学・物理学演習（前期）での運動量と力積の復習。（2時間） 復習：気体の分子運動を例に微視的な観点と巨視的な観点の結びつきを再度確認。（2時間）
3	気体の分子運動論（２）	分子運動論と熱容量（土井）	予習：SI基本単位系と気体の仕事を予習すること。（2時間） 復習：分子運動の自由度と熱容量の関係を再度確認。（2時間）
4	等温変化と断熱変化	断熱変化、カルノーサイクル問題演習（土井）	予習：定温変化、断熱変化を予習すること。（2時間） 復習：カルノーサイクルの各過程の内部エネルギー変化と熱効率を再度確認。（2時間）
5	エントロピー（１）	エントロピーの導入（全微分）とボルツマン定数（乱雑さの物理）（竹本）	予習：数学１・数学演習（前期）の偏微分・全微分の復習。（2時間） 復習：単位系で定義されるボルツマン定数が

			微視的な視点と巨視的な視点を結びつけていることを再度確認。（2時間）
6	熱力学関数	熱力学関数（ルジャンドル変換）（竹本）	予習：数学１・数学演習（前期）の偏微分・全微分の復習。（2時間） 復習：様々な熱力学関数がルジャンドル変換で結びついていること、個々の熱力学関数の変数を再度確認。（2時間）
7	エントロピー（２）	エントロピー問題演習（土井）	予習：定温、定圧、状態変化、断熱におけるΔSの求め方を予習すること。（2時間） 復習：各条件に応じたエントロピーの求め方を再度確認。（2時間）
8	平衡とエンタルピー	ファントホッフの式に関する演習問題（土井）	予習：平衡反応におけるΔGの求め方を予習すること。（2時間） 復習：平衡反応におけるΔH,ΔGの求め方を再度確認。（2時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学連携演習２	科目ナンバー	
英語名	Interscientific Exercises in Pharmaceutical Sciences 2		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	天滿・藤井		

授業の概要	命に関わる専門職である薬剤師として薬物治療などに積極的に参画していくためには、多くの具体的な事実を覚えるだけではなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化した上で新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に付けることが求められる。こうした総合的な学力の修得には、個々の学習事項が相互にどのようにつながっており、関係しあっているかを深く理解することが必要となる。1年次から4年次に設定される薬学連携演習シリーズ（計27科目）では、各関連講義科目などで学ぶ学習内容が当該領域の中でどのような位置づけにあり、また、他の領域とどのような関連性があるかについての理解を深め、それにより薬剤師が直面しうる課題や問題点の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を醸成することを目的とする。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、「生化学１」「分析化学１」で学習した内容への理解を深め、これら2科目だけに留まらない複数の科目間相互の関連性に気づくためである。
授業の方法	プリント、パワーポイントなどを利用した説明の後、課題・演習に取り組む。
アクティブ・ラーニングの取組	必要に応じてレスポンを使用する。
成績評価	課題提出の内容（100％）により評価する
試験・課題に対するフィードバック方法	課題提出後の解説については、後日プリント配布等の方法により実施する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	特になし
参考書（書名・著者・出版社）	『ヴォート基礎生化学第5版』田宮信雄、八木達彦、遠藤斗志也、吉久徹（訳）　東京化学同人 『パートナー分析化学Ⅰ　改訂第４版』　萩中淳、加藤くみ子（編）　南江堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	分析化学1（１）酸塩基平衡	・酸塩基平衡に関する演習	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
2	生化学1（１）アミノ酸の電気的性質	・アミノ酸のイオン化状態を、アミノ基やカルボキシ基のpKa値に基づいて求める方法について	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
3	生化学1（２）タンパク質の等電点	・タンパク質の1次構造からタンパク質の中性pHにおける荷電と等電点を求める	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
4	分析化学1（２）錯生成平衡	・錯生成平衡に関する演習	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
5	生化学1（３）酵素反応速度論	・ミカエリスメンテン式に基づいた可逆的阻害剤の3種類の結合様式に関する式の求め方について	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
6	分析化学1（３）沈殿平衡	・沈殿平衡に関する演習	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間）

			復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
7	生化学1（４）酵素の可逆的阻害剤	・阻害剤のあるなしのミカエリスメンテン式から阻害剤の解離定数を求める	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
8	分析化学1（４）酸化還元平衡	・酸化還元平衡に関する演習	予習：参考書の演習範囲の部分を読む（1時間） 復習：演習内容と参考書を見てノートを整理する（3時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学連携演習３	科目ナンバー	
英語名	Interscientific Exercises in Pharmaceutical Sciences 3		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	芝野・浦田・宇佐美・平野・和田俊一・山田・米山・平田佳之・葉山・安田・松田		

授業の概要	命に関わる専門職である薬剤師として薬物治療などに積極的に参画していくためには、多くの具体的な事実を覚えるだけではなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化した上で新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に付けることが求められる。こうした総合的な学力の修得には、個々の学習事項が相互にどのようにつながっており、関係しあっているかを深く理解することが必要となる。1年次から4年次に設定される薬学連携演習シリーズ（計27科目）では、各関連講義科目などで学ぶ学習内容が当該領域の中でどのような位置づけにあり、また、他の領域とどのような関連性があるかについての理解を深め、それにより薬剤師が直面しうる課題や問題点の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を醸成することを目的とする。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、生薬中に含まれる有効成分や医薬品の立体構造の表記法とその特徴を理解し、その立体構造が薬効の発揮に重要な役割を果たしていること、さらに生薬の確認試験や生体内反応を有機化学的に理解できるようになるためである。生薬中に含まれる有効成分や医薬品の多くは立体的な３次元構造を有し、それらが生体のタンパク質や核酸などと相互作用し薬効を発揮する。エナンチオマーが存在する化合物の場合、エナンチオマーの一方の化合物は薬効を示すが、もう一方の化合物は異なる薬効を示す場合がある。このようなことからも化合物の立体構造を理解することは、医薬品の作用メカニズムを考えるうえで必要である。また生薬中の有効成分や医薬品は生体内に入ると有機化学的な反応を受けた後、体外に排泄される。有機化学1を修得した皆さんは、このような生体内反応を有機化学的な視点で推察することができる。さらに、生薬の品質を保証するために、日本薬局方では様々な確認試験が規定されている。それらのよく用いられる呈色反応について，有機化学的に考察する。
授業の方法	スライド及び配布プリントを用いて演習に必要な内容の講義をおこなった後、演習を行う。2コマ連続講義で1セットとする。
アクティブ・ラーニングの取組	演習では数名の担当者が参画して演習を行う。予めこれまで学修した生薬学、有機化学1の内容の知識を身につけた上での出席が求められる。
成績評価	課題（100%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	課題の解答をTeamsに開示する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	4.質の高い教育をみんなに／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／12.つくる責任 つかう責任
教科書（書名・著者・出版社）	配布プリント
参考書（書名・著者・出版社）	『ミニマムファクター漢方生薬学（第２版）』芝野真喜雄 京都廣川書店 『ソロモンの新有機化学　第１１版』　I巻　池田正澄、上西潤一、奥山　格、西出喜代治、花房昭静（監訳）廣川書店

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	立体化学１	・化合物の立体的な表示法（3次元式、Newmann投影式、Fischer 式）について① ・立体配座、立体配置について①	予習：有機化学の教科書の立体配座、立体配置に関するページを読んでおくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に構造式を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
2	立体化学２	・生薬成分や医薬品の立体構造について①：麻黄に含まれるエフェドリン類の構造について	予習：生薬学の教科書を読み、麻黄を中心に生薬中にはどのような成分が含まれているかまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に立体構造を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
3	立体化学３	・化合物の立体的な表示法（3次元式、Newmann投影式、Fischer 式）について② ・立体配座、立体配置について②	予習：有機化学の教科書の立体配座、立体配置に関するページを読んでおくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に構

			造式を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
4	立体化学４	・生薬成分や医薬品の立体構造について②；生薬中に含まれる配糖体中の糖部の構造について	予習：生薬学の教科書を読み、生薬中にはどのような配糖体成分が含まれているかまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に立体構造を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
5	立体化学５	・化合物の立体的な表示法（3次元式、Newmann投影式、Fischer 式）について③ ・立体配座、立体配置について③	予習：有機化学の教科書の立体配座、立体配置に関するページを読んでおくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に構造式を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
6	立体化学６	・生薬成分や医薬品の立体構造について③；生薬中に含まれる配糖体中のアグリコン（非糖部）の構造について	予習：生薬学の教科書を読み、生薬中にはどのような配糖体成分が含まれているかまとめておくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、実際に立体構造を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
7	有機反応１	・置換、脱離、付加反応、その他関連する反応について	予習：有機化学の教科書の置換、脱離、付加に関するページを読んでおくこと。（2時間） 復習：教科書や授業ノートをみて、それぞれの反応機構を書いて理解を深めておくこと。（2時間）
8	有機反応２	・日本薬局方の確認試験における呈色反応について ・生薬成分や天然物をリード化合物とする医薬品の合成について ・生薬成分や医薬品の生体内反応について	予習：有機化学の教科書の置換、脱離、付加に関するページを読んでおくこと。（2時間） 復習：授業ノートをみて、生薬の確認試験、医薬品の合成、生体内反応について理解を深めておくこと。（2時間）
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	薬学連携演習４	科目ナンバー	
英語名	Interscientific Exercises in Pharmaceutical Sciences 4		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	田和・國澤		

授業の概要	命に関わる専門職である薬剤師として薬物治療などに積極的に参画していくためには、多くの具体的な事実を覚えるだけではなく、それらに共通する特徴や相違点を考え、概念化した上で新たに直面する課題や問題点の解決に活かせる総合的な学力を身に付けることが求められる。こうした総合的な学力の修得には、個々の学習事項が相互にどのようにつながっており、関係しあっているかを深く理解することが必要となる。本演習では、機能形態学および薬理学が当該領域の中でどのような位置づけにあり、また、他の領域とどのような関連性があるかについての理解を深め、それにより薬剤師が直面しうる課題や問題点の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を醸成する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本科目を学ぶ理由は、機能形態学１、基礎薬理学の各科目において修得した知識の関連性に気づき、それらの知識を統合的に活用する能力を身に付けるためである。
授業の方法	数名のグループによるスモールグループディスカッション（SGD）形式で行う。与えられた課題について情報を収集し、グループの考えをパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行う。適宜、Forms等を用いて演習に必要な基礎知識を確認する。
アクティブ・ラーニングの取組	SGD、プレゼンテーション
成績評価	SGD・発表での取り組み姿勢（評価表に基づく相互評価等）（30%）、SGDの成果物（パワーポイント等）（20%）、Forms等の課題（50%）により評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	SGDの成果物については、必要に応じて演習内で解説を行う。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『機能形態学（改訂第４版）』・櫻田忍、櫻田司（編集）・南江堂 『NEW薬理学　改訂第７版』・田中千賀子　他（編集）・南江堂
参考書（書名・著者・出版社）	

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	オリエンテーションおよびグループワーク（課題１）	• 課題提示（循環器） • 課題について、学習が必要な事項の抽出、情報の収集	事前学習（４時間）：機能形態学１および基礎薬理学で学習した内容を振り返っておく。
2	グループワーク（課題１）	• グループ内で情報の整理・共有	事後学習（４時間）：授業内に調べきれなかったことを調べておく。
3	グループワーク（課題１）	• グループとしての成果物（パワーポイント等）作成	事前学習（４時間）：成果物を作成しやすいように準備しておく。
4	成果発表（課題１）	• グループの代表者による発表と質疑応答	事後学習（４時間）：発表時に指摘された事項を確認して調べておく。
5	オリエンテーションおよびグループワーク（課題２）	• 課題提示（呼吸器） • 課題について、学習が必要な事項の抽出、情報の収集	事前学習（４時間）：機能形態学１および基礎薬理学で学習した内容を振り返っておく。
6	グループワーク（課題２）	• グループ内で情報の整理・共有	事後学習（４時間）：授業内に調べきれなかったことを調べておく。
7	グループワーク（課題２）	• グループとしての成果物（パワーポイント等）作成	事前学習（４時間）：成果物を作成しやすいように準備しておく。
8	成果発表（課題２）	• グループの代表者による発表と質疑応答	事後学習（４時間）：発表時に指摘された事

			項を確認して調べておく。
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	生物学実習	科目ナンバー	
英語名	Laboratory Practice inBiology Laboratory		
年次・期間	1年次・後期		
選必区分	必修		
単　位	1.0単位		
指導教員	坂口・土屋・田中智		

授業の概要	顕微鏡観察を中心とした基礎的な実習を行う。微生物、実験動物、生体試料、組織標本や培養細胞を用いた実習を通じて、生体、器官、組織および細胞の構造と機能に関して学習する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	本実習を行う理由は、単細胞生物と多細胞生物の違い、また多細胞生物の成り立ちを個体、器官、組織、細胞レベルで理解するためである。
授業の方法	個人あるいはグループで実験を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	
成績評価	確認テスト：レポート= 40：60の割合で評価する。 ・確認テストは実習内容の理解度を評価するために各回の実習がおわった後にFormsにて実施する。各回分必ず提出し、6日間の合計得点が満点の6割を合格基準とする。 ・レポートはすべての項目で合格基準の 6 割に達することとする。 ・これらが合格基準に満たない場合は、レポートの再提出または筆記試験を課すことがある。
試験・課題に対するフィードバック方法	レポートは返却し、不十分な内容の場合は指摘し、再提出させる。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『生物学実習テキスト』（実習初日に配布） 生物学実習担当教員
参考書（書名・著者・出版社）	『FUNDAMENTAL 細胞生物学(第 2 版)』 坂口　実　京都廣川書店 『機能形態学(改訂第 3 版)』　櫻田　忍、櫻田　司 編集　南江堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	実習内容・基礎知識に関する講義	実習全体の概略と各実習項目の目的と内容について。 動物実験における倫理、実験動物の種類や遺伝学的および微生物学的統御について。 実験動物の解剖実習に対する予備知識について。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
2	微生物の観察	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念について。 代表的な細菌の分離培養や純培養を実施して、細菌の増殖機構を理解する。 細菌のグラム染色を実施することによって、細菌の構造を理解する。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
3	生体構造の観察（１）	動物実験における倫理について配慮しつつ、実験動物を解剖することによって、各器官（臓器）の名称と位置について理解する。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テ

			ストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
4	生体構造の観察（２）	実験動物やヒトの代表的な器官の組織標本の観察を通して、形態的および機能的特徴を理解する。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
5	血液細胞の観察	実験動物から採取した血液を使用して血液塗抹標本を作製し、光学顕微鏡による観察から血球の種類や形態的特徴を理解する。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
6	染色体の観察	培養ヒト正常細胞を用いて染色体標本を作製し、顕微鏡による観察から、細胞周期、細胞分裂や正常な染色体像を理解する。	予習：1時間；授業計画の各回の内容について実習テキストの該当箇所に目を通しておき、概要を把握して実習に臨むように努めること。 復習：2時間；各実習項目終了後、実験結果を記録し、各項目について調査し、レポートとしてまとめる。また、Formsによる確認テストに回答する。疑問点があれば質問するなど、問題を解決するように努めること。
7			
8			
9			
１０			
１１			
１２			

科目名	解剖見学実習	科目ナンバー	
英語名	Paractice in Anatomy		
年次・期間	1年次・後期／2年次・前期／2年次・後期		
選必区分	自由		
単　位	1.0単位		
指導教員	大喜多・〇近藤　洋一・〇平田　あずみ・〇杉山　紀之・〇田中　義久・大野・福森・加藤　隆児・清水・田和・田中智・國澤・中川		

授業の概要	機能形態学では、人体の構造、構造と機能との関連を学ぶとともに、生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識を修得してきた。解剖見学実習では、医療を学ぶ基幹となる人体構造（解剖）を肉眼的・立体的に学び、人体の3次元構造をイメージとして体得することを目標とし、人体構造と生理機能との関係把握を促す。一方、解剖見学実習では、生前依託者の尊い篤志により提供された献体を用いるため、その篤志に感謝し、生命の尊厳と医療人としての責務、倫理観を学ぶ場でもある。本実習を通じて、今後修得していく医療薬学・臨床薬学に対する心構えを構築する。
授業の目的（なぜ本科目を学ぶのか）	人体の構造を肉眼的および立体的に理解するとともに、生命の尊厳、医療人としての責任と倫理観を修得することを目的とする。
授業の方法	教科書、プリントなどを用い、一部はパワーポイント等によるプレゼンテーションで視覚的に理解が深まるよう解説しながら講義を行う。
アクティブ・ラーニングの取組	本部キャンパス・医学部実習室において人体の肉眼的解剖学実習を見学する。生命の尊厳、臓器・組織の実構造を理解し、医療人としての心構えを修得する。
成績評価	レポート（80%）、実習態度・意欲（20%）で評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	レポートは返却する。
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容	大野（企業等の研究者）・福森（医師）／大学附属病院での薬剤師実務経験を活かし、薬学と薬剤師に関する本質的な事柄や、医療の担い手として備えておくべきヒューマニズムについて指導する。
SDGs17の目標との関連	3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに
教科書（書名・著者・出版社）	『機能形態学(改訂第4版)』櫻田 忍、櫻田 司 編集（南江堂）
参考書（書名・著者・出版社）	『グラフィカル機能形態学（第２版）―薬が効く先のカラダへの理解を求めて―』馬場広子（編著）京都廣川書店 『図解　薬理学』鍋島俊隆　他（編集）南山堂

授業計画

回数	項　目	授業内容	準備学習（予習・復習、事前事後学修）の具体的内容と必要な時間
1	概論	・解剖学の歴史 ・解剖見学実習の目的	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を整理し、理解する。
2	事前学習１	消化器系の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を整理し、理解する。
3	事前学習２	呼吸・循環器系の構造と機能について	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を整理し、理解する。
4	解剖見学実習１ （オリエンテーション）	・「献体」について ・解剖実習を受講するうえでの心得・注意事項、基本的知識、解剖体の取り扱い方法等について ・解剖実習時の観察ポイントを説明し、課題を提示する。	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した実習内容を整理し、理解する。
5	解剖見学実習２	人体の正常構造と機能について	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した実習内容を整理し、理解する。

6	解剖見学実習３	人体の正常構造と機能について	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した実習内容を整理し、理解する。
7	事後学習１	・総括 ・レポートの作成 ・アンケートの回答	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を整理し、理解する。
8	事後学習２	・レポートの作成 ・解剖慰霊祭への出席	予習（2時間）：該当項目に関する基本事項を理解しておく。 復習（2時間）：受講した授業内容を整理し、理解する。
9			
１０			
１１			
１２			